

# 「文化遺産広域観光連携プロジェクト」

---

## 調査報告書

(本編)

平成20年3月

財団法人東北産業活性化センター

## 目次

<b>第1章 調査の目的と対象地域</b> .....	1
1. 背景と目的 .....	1
2. 調査対象地域 .....	1
<b>第2章 調査の基本方針と体制</b> .....	2
1. 調査方針 .....	2
2. 調査体制 .....	3
<b>第3章 当該2市2町の観光現状の把握と課題の抽出</b> .....	5
1. 仙台市の観光の現状と弱み強み .....	5
2. 気仙沼市の観光の現状と弱み強み .....	28
3. 松島町の観光の現状と弱み強み .....	51
4. 平泉町の観光の現状と弱み強み .....	74
<b>第4章 先進地視察報告</b> .....	98
1. 目的 .....	98
2. 実施概要 .....	98
3. 視察内容 .....	100
4. 2市2町の取り組みに向けて .....	110
<b>第5章 観光連携の具体的なメニューの検討</b> .....	111
1. 2市2町広域観光連携の具体的なメニュー .....	111
2. 本プロジェクトで実施した連携事業 .....	113
3. その他 .....	132
<b>第6章 今後の取り組みに向けて</b> .....	140
<b>資料</b> .....	141
1. 実行委員会の開催状況 .....	142
2. 幹事会の開催状況 .....	142

## 第1章 調査の目的と対象地域

### 1. 背景と目的

近年、少子・高齢化、高度情報化や国際化の進展、市町村合併、地方分権化と社会情勢が急速に変化し、観光も、団体型から家族や友人等の小グループ型へ移行、観光ニーズの多様化等、観光を取り巻く環境が大きく変化している。

観光は、旅行業やホテル・宿泊業等、直接関係する産業ばかりでなく、広範な業種への経済波及効果が期待されるとともに、雇用の場の創出、交流人口の増大による地域そのものの活性化等、21世紀のリーディング産業の柱として大いに期待されている。また、国策として観光立国を目指し、2010年までに訪日外国人旅客数を倍増させることを目標に、戦略的なインバウンド誘致に向け「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が展開されている。

こうした中、東北においてはJR仙台駅と仙台空港を結ぶ仙台空港アクセス鉄道が開通<sup>※</sup>し、2008年7月には「平泉－浄土思想を基調とする文化的景観」の世界遺産登録が予定され、国内外からの観光客誘致への大きな弾みとして、また東北全体の観光振興にとって大きな推進力となることが期待されるが、自治体毎に、観光に対する取り組みがなされているため、県境を意識せずに観光している観光客の行動実態と合わず、域外からの観光客に対して、垣根を超えた広域的なネットワークが、いかに構築できるかが喫緊の課題となっている。

そのようなことから本調査は、県境を超えた2市2町の広域連携による観光推進の観点から、新たなる観光ネットワークの構築を図ることによって、有機的に観光資源を結びつけ、連携する地域の魅力を高めるとともに、ひいては東北全体の観光振興に資することを目的とし、具体的なプロジェクトの立案と実現に向けた検討を行うものである。

### 2. 調査対象地域

調査対象地域は、県境を越えた2市2町とする。

宮城県：仙台市、気仙沼市、松島町

岩手県：平泉町



※仙台空港アクセス鉄道:平成19年3月に開通している

## 第2章 調査の基本方針と体制

### 1. 調査方針

本調査は、大きくは次の3つを基本方針とし、具体的なプロジェクトメニューを検討・立案する。

#### **(1) メリットがあり、相乗効果が期待されるプロジェクトの検討**

観光振興のための広域的な取り組みが、九州地方などで徐々に見られつつあるものの、東北では、自治体がそれぞれに観光に取り組んでいるため、観光客（需要サイド）の視点が乏しく、域外からの来訪者に対して不親切な、観光ルートが設定され、地域全体で見るとちぐはぐなイメージになっていることも多い。

このため、これまでの取り組みからみれば、広域連携による観光推進は、それだけでも有意義なことではあるが、そればかりではなく、それぞれの地域の観光振興にメリットがあることが求められる。

さらに観光ネットワークを構築するによって、それぞれの観光資源を有機的に結びつけ、連携する地域の魅力を高めるとともに、相乗効果が期待され、ひいては東北全体の観光振興に寄与するものである必要がある。

#### **(2) 実現性のあるプロジェクトの立案**

観光振興のための調査というと、ともすれば計画書づくりのための調査になりがちである。観光は100の計画づくりより、小さくても1つ1つの実績の積み重ねの方が大切であると言われる。

本プロジェクトは、調査することが全ての目的ではない。県境を越えた2市2町が新たなネットワークを構築し、あくまでも広域連携による観光推進を実行することを目指して、実現性のある具体的なプロジェクトを立案・検討していくものである。

#### **(3) 観光情報発信の連携策の検討**

県境を越えた観光連携を推進するうえで、観光情報の発信は大変重要である。とりわけ、東北を訪れる観光客の発着地が仙台市になることから、仙台市における観光情報発信のあり方について重点をおいて検討する必要がある。

またプロジェクトがより効果的に推進するためには、どのタイミングに合わせて、どのように行うかが非常に重要である。これからの岩手・宮城両県の観光に大きく影響するものとして、JR仙台駅と仙台空港を結ぶ仙台空港アクセス鉄道の開通\*、「平泉—浄土思想を基調とする文化的景観」の世界遺産登録、仙台・宮城デスティネーションキャンペーンが予定されている。

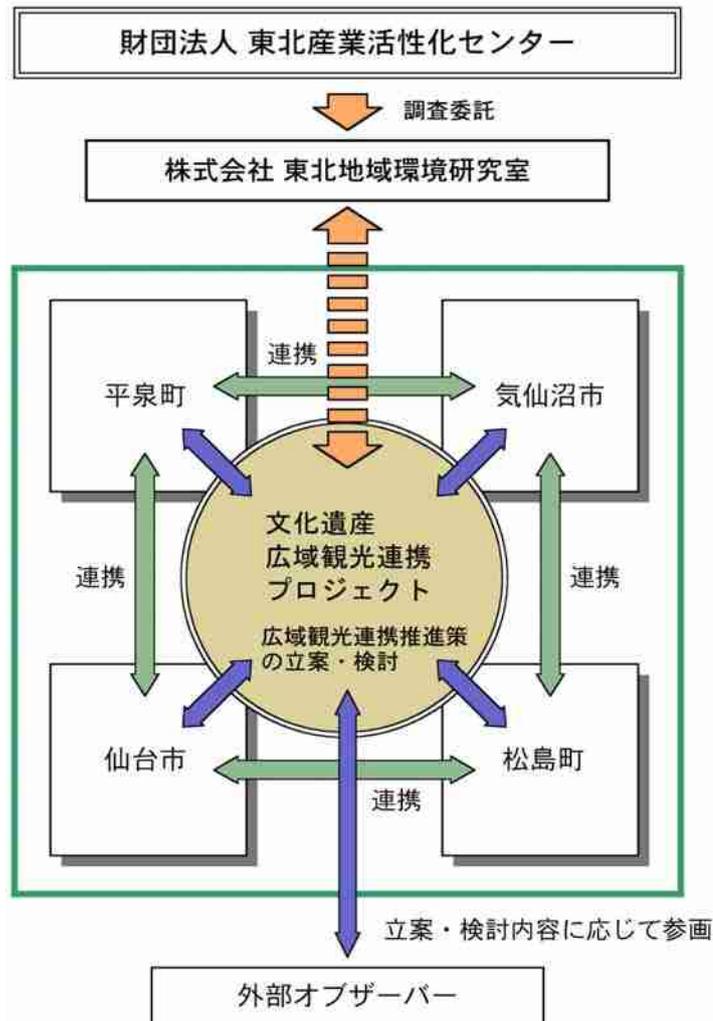
本調査は、それらの3つを絶好の機会と捉え、プロジェクトを立案・検討していく。

※仙台空港アクセス鉄道：平成19年3月に開通している

## 2. 調査体制

### (1) 調査の推進体制

本調査は、委員会と幹事会からなる「文化遺産広域観光連携プロジェクト実行委員会」にて、立案・検討を行いながら調査を進める。



### (2) 実行委員会の構成

形骸化した委員会にならないよう、東北全般の観光に造詣が深く、対象地域の実情にも通じ、かつ具体的な提案をいただくことが期待される観光有識者からなる委員会と、当該対象地域となる行政を中心にした幹事会で構成した実行委員会で、本プロジェクトの立案・検討を行う。また、専門的な立場から助言をいただくアドバイザーをおく。

**文化遺産広域観光連携プロジェクト 実行委員会・委員名簿（順不同・敬称略）**

**【委員長】**

氏名	所属
清水 慎一	株式会社ジェイティービー 常務取締役

**【委員】**

氏名	所属
谷口 せい子	独立行政法人国際観光振興機構 ツーリスト・インフォメーション・センター長
佐藤 俊一郎	株式会社ジェイアール東日本企画 取締役仙台支店長
間庭 洋	仙台商工会議所 専務理事
千葉 久美	財団法人仙台観光コンベンション協会 常務理事
田中 裕子	フリーアナウンサー
小野 晋	社団法人東北経済連合会 地域政策部長
小野寺 邦夫	社団法人平泉観光協会 会長
藤咲 寛	財団法人東北産業活性化センター 専務理事

**【アドバイザー】**

氏名	所属
熊沢 治夫 (前任：菊池憲満)	国土交通省 東北運輸局 企画観光部 国際観光課長
林 健一	東日本旅客鉄道株式会社 仙台支社 営業部 企画課長
阿部 昌孝	株式会社JT B東北 交流文化事業部 地域貢献推進部長

**【幹事会・事務局】**

氏名	所属
壹岐 雅章	仙台市経済局 国際経済・観光部 観光交流課長
村上 洋一 (前任：佐藤ゆうこ)	仙台市経済局 国際経済・観光部 観光交流課 観光企画係長
橋本 茂善	気仙沼市 産業部観光課長
畠山 修	気仙沼市 産業部観光課 主幹
佐々木 千代志 (前任：佐藤幹夫)	松島町 産業観光課長
小松 良一	松島町 産業観光課 商工観光班長
齋藤 清壽	平泉町 農林商工観光課長
伊藤 正幸 (前任：小野寺正耕)	平泉町 農林商工観光課 主事
井上 朗 (前任：今野清司)	財団法人東北産業活性化センター プロジェクト振興部長
我妻 直樹	財団法人東北産業活性化センター プロジェクト振興部 課長代理
志賀 秀一	株式会社東北地域環境研究室 代表
伊藤 暁	株式会社東北地域環境研究室 研究主幹

## 第3章 当該2市2町の観光現状の把握と課題の抽出

### 1. 仙台市の観光の現状と強み弱み

#### (1) 仙台市の概要

##### ①自然環境

仙台市は、宮城県の中央部に位置している県庁所在地である。東北地方の中心都市としての機能も併せ持つ、東北地方唯一の政令指定都市でもある。

総面積は 788.08 km<sup>2</sup> で、政令指定都市の中では静岡市、札幌市、広島市、京都市に次ぐ第5位の広さである。地形は、西部の県境に沿って南北に連なる奥羽山脈と、そこから帯状に都心部に伸びる丘陵が続き、その間を七北田川、広瀬川、名取川が東流して太平洋に注ぎ、これら3河川の堆積によって形成された平野が丘陵地の東側に広がっている。中流域には河岸台地や段丘が発達し、これらと丘陵地の一部は主として市街地、西部の山地と丘陵地は山林、東部の低地は主に農耕地となっている。

気候は、夏は涼しく、冬は比較的温かく、年平均気温は 11.9℃である。

##### ②社会環境

仙台は、慶長5年（1600年）に伊達政宗が居城を定めて以来、約400年の歴史を有する。明治維新まで全国有数の城下町として栄え、都心部の基盤の目状の道路は、城下町の名残りである。

太平洋戦争中の昭和20年7月、空襲によって市の中心部を焼失したが、戦後は戦災復興事業や都市計画事業によって都市整備が進み、高度経済成長と共に、東北地方全体を管轄する国の出先機関、大手企業の支社・支店進出が相次ぎ、特に国の出先機関は例外なく仙台に立地するため、東北におけるその拠点中枢機能は、政令指定都市のなかでも高い。

市内にはケヤキ並木に代表されるように緑が多く、別名「社の都」と呼ばれ親しまれている。また、東北大学を始めとする大学・研究機関等も多く、「学都仙台」とも呼ばれる。

人口は 1,027,060 人、世帯数は 443,772 戸（H18.8.1 現在）で、毎年1万人前後人口が増加している。人口の推移を見ると、1985年以降、増加が進んでいるものの、増加率は鈍化傾向にある。年齢階層別に見ると、20代前半から20代後半にかけての若年者の人口に占める割合が、全国的に見ても大きい。

##### ③指定文化財

指定文化財のうち、国指定のものは以下の通りである。

【国指定】建造物	大崎八幡宮、陸奥国分寺薬師堂、東照宮
彫刻	木造釈迦如来立像
工芸品	太刀、小紋染胸服、黒漆五枚胴具足 兜・小具足付（伊達政宗所用） 銀伊予札白糸威胴丸具足 兜・小具足付帯（三沢初子所用）
書跡	類聚国史卷第二十五、史記（孝文本紀第十）
考古資料	経の塚古墳出土埴輪、陸前国沼津貝塚出土品
歴史資料	慶長遣欧使節関係資料、坤輿万国全図
工芸技術	精好仙台平

史跡	陸奥国分寺跡、陸奥国分尼寺跡、林子平墓、遠見塚古墳、岩切城跡、郡山遺跡、仙台城跡
名勝	秋保大滝、磐司
無形民俗文化財	秋保の田植踊
天然記念物	苦竹のイチヨウ、朝鮮ウメ、青葉山、姉滝、東昌寺のマルミガヤ、鷲倉神社の姥杉

## **(2) 仙台市の観光の概要**

### **① 主な観光資源**

仙台の観光資源は、前述したような文化財等の歴史文化資源をはじめ、ショッピング等の都市の魅力まで、非常に広範で、一言でいうならば、大都市の持っている多様な魅力であろう。歴史資源には、以下のような主な観光資源がある。

【文化遺産】 瑞鳳殿、仙台城跡、大崎八幡宮、輪王寺、東照宮、薬師堂、定義如来西方寺、

【文化施設】 仙台市博物館、宮城県美術館、メディアテーク、地中の森ミュージアム、晩翠草堂、仙台市こども宇宙館、仙台市科学館、仙台万華鏡美術館、仙台国際センター、卸町演劇系練習施設等

【スポーツ・レジャー施設】

仙台スタジアム、宮城フルキャストスタジアム等、仙台ハイランド

【温泉】 秋保温泉、作並温泉

【その他】 秋保大滝、磊々峡、仙台大観音、ニッカウヰスキー仙台工場

### **② 観光入込客数**

- ・ 観光入込客数の推移をみると、近年はほぼ横這い状態である。平成 17 年度は、急激に増加しているが、これはスポーツ関連の施設を入込客数にカウントし始めたことが原因である。
- ・ 特筆すべきは、仙台駅構内の総合観光案内所の利用者の増加で、途切れることがなく、内容の大半は、観光と交通に関する内容である。また外国人の利用者も多く、国別では、アメリカ→香港→韓国→中国→台湾の順である。
- ・ 観光客入込数は、NHK大河ドラマ「独眼流政宗」放映と未来の東北博覧会が開催された昭和 62 年の 16,091 千人が最高。その翌年には政宗ブーム以前の水準に戻ったが、徐々に入込数は増え、15,000 千人を越えるようになった。しかし、平成 6 年頃から減少傾向が続いた。統計データ見直し後の平成 12 年以降は増加で推移している。
- ・ セタまつりをはじめとする祭り・イベントが観光客入込数の半分近くを占める。
- ・ 平成 17 年の観光客入込数は、観光地では仙台城跡や瑞鳳殿、博物館を含めた仙台城跡周辺がトップで、920,781 人。ただし、減少傾向にある。次に多いのは、定義山西方寺で 741,714 人。観光施設や名所旧跡は横ばい、祭りは増加傾向。
- ・ るーぷる仙台を利用した市内中心部の観光と、温泉利用。
- ・ 外国人宿泊者数はワールドカップサッカー大会が開催された平成 14 年が最も多く、

68,675人。ここ10年は5～6万人で推移。国別では、アメリカ(9,184人)、台湾(8,342人)、韓国(6,719人)、中国(4,596人)が多い。

【観光客入込数】

単位:千人

	平成14年		平成15年		平成16年		平成17年	
	入込者数	宿泊者数	入込者数	宿泊者数	入込者数	宿泊者数	入込者数	宿泊者数
旧仙台地区	8,722	2,317	8,894	2,394	9,377	2,580	10,560	2,837
泉地区	674	148	672	177	624	178	913	90
宮城地区	1,915	353	1,978	332	1,865	340	1,796	323
秋保地区	2,813	1,038	2,617	1,006	2,620	970	2,544	962
計	14,124	3,856	14,161	3,909	14,486	4,068	15,813	4,212

【宿泊施設の状況(2006年1月)】

単位:箇所,人

	ホテル		旅館		その他宿泊施設		合計	
	施設数	定員数	施設数	定員数	施設数	定員数	施設数	定員数
全市	85	14,599	79	10,890	83	3,685	247	29,174

【イベント状況】

単位:千人

	14年	15年	16年	17年
仙台・青葉まつり(始期:昭和60年5月)	740	881	806	802
仙台七夕まつり(始期:昭和22年8月)	2,178	2,203	2,410	2,280
SENDAI光のページェント(始期:昭和61年12月)	2,238	2,150	2,500	2,800
定禅寺ストリートジャズフェスティバル(始期:平成3年9月)	450	540	560	630
みちのくYOSAKOIまつり(始期:平成10年11月)	600	700	500	650

※観光交流課調査資料

【コンベンション開催状況】

単位:件,人

	平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度	
	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数
国内会議	562	179,652	580	228,870	577	199,491	587	177,810
国際会議	58	41,727	51	21,335	61	18,887	65	43,096
合計	620	221,379	631	250,205	638	218,378	652	220,906

※観光コンベンション協会資料

【仙台市観光案内所利用状況】

単位:人

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
案内件数	193,111	306,632	418,766	443,665
うち外国人	13,826	21,782	32,847	37,636

【東北自動車道(泉, 仙台宮城, 仙台南インターチェンジ)】

単位:千台

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
入台数	10,009	9,951	8,429	8,253
うち特車	82	81	53	53
出台数	9,917	9,820	8,255	7,974
うち特車	83	81	54	52

【JR仙台駅旅客輸送状況(日平均, 定期利用者を除く)】

単位:人

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
新幹線乗車人員	18,103	18,444	17,895	13,992

【仙台空港利用実績】

単位:人

		平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
国内線	乗客者数	1,413,008	1,464,783	1,447,137	1,456,472
	降客者数	1,415,787	1,460,904	1,455,406	1,471,324
	計	2,828,795	2,925,687	2,902,543	2,927,796
国際線	乗客者数	208,480	197,582	142,789	149,238
	降客者数	211,001	195,002	132,399	145,050
	計	419,481	392,584	275,188	294,288
合計	乗客者数	1,621,488	1,662,365	1,589,926	1,605,710
	降客者数	1,626,788	1,655,906	1,587,805	1,616,374
	計	3,248,276	3,318,271	3,177,731	3,222,084

※国際線にはチャーター便含む。

【仙台市観光シティーバス(るーぷる仙台)】

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
乗車人員	249,310	246,541	265,455	278,759

※平成11年5月13日運行開始 観光交流課資料

【在仙外国人数, 留学生数等】

単位:人

	在仙外国人数			留学生数			仙台市観光案内所 外国人利用状況		
	H15.12.1	H16.12.1	H17.12.1	H15.5.1	H16.5.1	H17.5.1	平成15年	平成16年	平成17年
アジア	8,693	8,478	8,586	1,621	1,743	1,812	6,538	10,747	11,060
中東		106	121	29	38	43	1,182	2,290	3,300
アフリカ	117	144	151	32	44	36	39	256	301
北米	523	475	507	29	34	31	7,083	8,504	10,572
中・南米	194	182	185	34	36	33	160	488	522
欧州	590	433	385	78	93	83	4,958	8,134	9,382
オセアニア	162	152	137	9	14	11	1,822	2,428	2,499
NIS諸国	-	189	180	2	6	8	-	-	-
無国籍	5	5	5	0	0	0	0	0	0
合計	10,284	10,164	10,257	1,834	2,008	2,057	21,782	32,847	37,636

(NIS諸国とは、旧ソ連邦から独立した国々で、在仙外国人数・仙台市観光案内所外国人利用状況では、アジアもしくは欧州に分類されている。)

※在仙外国人数は区政課資料

※留学生数は交流政策課資料

※仙台市観光案内所外国人利用状況は仙台観光コンベンション協会資料

【市内駐車場, 飲食店の状況】

		平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
駐車場	設置箇所	195	199	202	208
	収容台数	28,726	29,288	30,323	31,789
飲食店数		4,114	4,144	4,114	4,085

※駐車場は駐車場法に基づく届出駐車場数, 交通計画課資料

※飲食店は一般飲食店, レストラン数, 生活衛生課資料

### **(3) 昨年の観光の取り組みとこれからの取り組み**

#### **① 観光施策の基本的な考え方**

仙台市では、平成 11 年6月に策定した観光基本計画（平成 11 年度～平成 22 年度）に基づき観光施策を展開している。その中で、当面実施することとした前期重点施策期間が平成 15 年度で終了したことから、その間の社会経済情勢の変化も踏まえ、平成 16 年6月に平成 18 年度までの3年間で取組む次の4つの柱からなる中期重点施策を策定した。

- ・ 仙台の魅力・資源を生かした観光の展開
- ・ 国内外からの誘客に向けた取り組みの推進
- ・ 安心して快適に仙台を楽しめる環境の整備
- ・ 観光産業や市民の観光への取り組みの支援

#### **② 成 17 年度 of 取組状況と平成 18 年度の観光施策の基本的方向**

平成 17 年度は、「東北楽天ゴールデンイーグルス」誕生を契機にプロ野球観戦を新たな観光資源として、北東北の小学校を対象とした教育旅行誘致活動や、フルキャストスタジアム宮城における仙台観光PR等を実施した。また、広域的な観光振興の取り組みとして、気仙沼市、松島町、平泉町との2市2町連携、山形市、福島市との3市連携等、県域を越えた魅力的な観光資源を有する自治体との連携を図るとともに、神戸空港開港に伴い神戸市との間で相互の公共交通機関へのポスター掲出や物産展の開催等の交流事業を実施した。インバウンド関係では、「YOKOSO! JAPAN東北」実行委員会等の広域団体を通じた取り組みに加え、台湾や上海において本市主体で観光セミナー等のプロモーション活動を行うとともに、近年高い経済成長率を誇り、今後の訪日旅客の増加が見込まれる東南アジアに対する先行的なプロモーション活動として、タイ・シンガポールのメディア・エージェント訪問、タイムディア招聘、タイ旅行博出展等を行うとともに、英語・中国語（繁体・簡体）・韓国語・タイ語の観光パンフレットを新たに作成した。

平成 18 年度は、平成 17 年度の広域連携やインバウンドの取り組みを更に加速させ、国内外から仙台・東北への誘客を図る。広域連携では、国内外の誘客活動に連携して取り組むとともに、民間財団等を活用した調査事業を行う。インバウンドにおいては、これらの連携の枠組みを活用しながら事業の拡充を図り、新たにタイでの物産展やシンガポールでの旅行博出展等を行う。また、外国人観光客の受入環境の整備を図るため、飲食メニュー等の整備に対する助成や受入環境に関する調査等を行なう。さらに、平成 20 年度の仙台・宮城デスティネーションキャンペーンに向け、県や他の市町村、観光事業者等と連携し推進母体を設立し、キャンペーンの骨格の決定や具体的な受け入れ態勢の整備に取り組む。こうした広域連携やインバウンドの取り組みとあわせ、これまで取り組んできた事業の充実、さらには、ビジターズ産業の振興も視野に仙台の観光振興に努めていく。

#### **③ 平成 18 年度の主な事業**

観光関連予算は、また主な事業は以下の通りである。

651,153 千円（対前年度当初予算比 119.86%）

#### **① 仙台の魅力・資源を活かした観光の展開**

○ 仙台三大まつり・市民創造型イベント支援 [106,000 千円]

伝統の継承と新たな魅力の創造を目指し、まつりの共催や支援を行い、「社の都・仙台」のイメージアップを図るとともに、三大まつりを仙台観光の魅力として全国的なPRを展開し、観光客の誘致を推進する。また、市民創造型イベントとして盛り上がりを見せている定禅寺ストリートジャズフェスティバルやみちのく YOSAKOI まつりへの支援を行う。

仙台・青葉まつり	[35,000 千円]
仙台七夕まつり	[35,000 千円]
SENDAI 光のページェント	[30,000 千円]
仙台七夕花火まつり	[2,500 千円]
定禅寺ストリートジャズフェスティバル	[2,000 千円]
みちのくYOSAKOIまつり	[1,500 千円]

#### ○観光施設運営管理 [114, 447 千円]

##### 秋保文化の里センター運営管理 [41, 489 千円]

秋保地区の観光の拠点施設として、秋保地区の観光スポットの紹介や、地場製品の展示・販売を行うほか、各種イベントの定期的な開催を通して、秋保の魅力情報を発信し、多くの観光客の誘致を図るとともに地域の方の交流の場としての整備に向けた支援を行う。

##### 秋保工芸の里運営管理 [4, 156 千円]

秋保工芸の里の維持管理を行うほか、パンフレットの作成等、伝統工芸普及に向けた支援を行うことにより、伝統工芸の継承・発展の促進や体験型観光の推進を図る。

##### その他観光施設運営管理 [68, 802 千円]

秋保ビジターセンター、泉ヶ岳野外活動センター、定義交流センター、二口・泉ヶ岳キャンプ場など、各種観光交流施設の運営管理を行う。

#### ②国内外からの誘客に向けた取り組みの推進

##### ○観光客誘致宣伝 [17, 655 千円]

観光・物産に関する各種キャンペーン、仙台空港、仙台駅、市内ホテルにおける広告宣伝、観光姉妹都市徳島市との交流を活用した誘客宣伝等、仙台の知名度向上と誘客拡大を推進する。

##### ○コンベンション誘致・支援 [26, 087 千円]

コンベンション開催助成金制度による財政支援や同制度活用による会議誘致の促進を図るとともに、コンベンション開催準備資金貸付によりコンベンション支援を行う。

##### ○修学旅行誘致キャンペーン [2, 077 千円]

北海道道南地域からの中学生の修学旅行誘致を図るため、引き続き宮城県や関係団体等と連携して同地区において誘致キャンペーンを実施する。

##### ○海外交流開拓促進事業（新規） [40, 918 千円]

本市が主体となり近隣の自治体等とも連携し、近年高い経済成長を続けるタイやシンガポール等の東南アジア地域を対象に、エージェント・メディア招聘、旅行博覧会出展、

広告宣伝、物産展開催等を実施する。

**○外国人観光客受入整備事業（新規）[8,000千円]**

今後増加が見込まれる外国人観光客等に対応するため、外国人が本市を旅行する上での障壁等を調査するとともに、観光サインの見直し及び整備を進める。また、民間が取り組む外国人観光客来訪促進に資する事業に対し助成を行う。

**○海外プロモーション事業 [14,302千円]**

台湾において旅行会社やマスコミ等を対象とした観光セミナーや旅行商品造成に向けた商談会等を開催するとともに、上海など中国へも積極的な観光セールスを行う。また、「YOKOSO! JAPAN東北」実行委員会等の一員として、引き続き広域連携による外国人観光客誘客事業参加を通じ、本市への外国人観光客の誘致促進を図る。併せて、外国語ホームページの拡充やプロモーション映像制作を行い、充実した観光情報の提供が可能な環境を整える。

**○DESTINATIONキャンペーン事業（新規）[3,026千円]**

自治体、観光関係者、JR6社との共同による大型観光キャンペーンであるDESTINATIONキャンペーンについて、平成20年秋の開催に向け、宮城県や他の市町村、観光事業者等と連携し、推進母体の設立、キャンペーンの骨格決定、具体的な受入れ態勢の整備を行う。

**○広域観光連携事業（新規）[1,400千円]**

仙台市及び周辺の魅力的な観光資源を有する自治体とが県境を超えた広域的な連携により、メディア・旅行エージェントへの誘致セールス等の共同実施や、各自治体が行う各種プロモーション活動への協力を行う。また、周辺自治体との連携会議を運営し、具体的連携事業の企画を行う。

**○せんだい・宮城フィルムコミッション事業 [6,613千円]**

平成15年に民官共同で設立した「せんだい・宮城フィルムコミッション」を通じ、ロケ支援やロケ誘致活動を積極的に推進し、映像を通してシティセールスや観光客誘致に努める。

**○「せんだい旅日和運営支援」事業 [5,700千円]**

観光ホームページ「せんだい旅日和」の運営を支援し、利用者が求める様々な観光情報を作成・発信することにより、本市への訪問動機を醸成し、観光客の拡大を図る。

**③安心して快適に仙台を楽しめる環境の整備**

**○観光シティループバス事業 [7,925千円]**

市内中心部の主要な観光スポットを効率よく巡ることができる「るーぷる仙台」について、繁忙期の20分間隔運行を昨年に引き続き実施するとともに、セタナイト号や光のページェント号等の企画運行を行い、観光客の利便性の向上を図る。

また、東北大学植物園の青葉山キャンパス側ゲート建設にあわせ「東北大学植物園前」バス停を新設する。

**○観光施設等整備 [114,625千円]**

#### **秋保大滝滝見台遊歩道整備（新規）[3,000千円]**

秋保大滝不動尊から滝見台へ既存の遊歩道の改修等を行い、安全で快適な遊歩道としての整備を図る。

#### **秋保温泉街路灯整備 [1,977千円]**

継続事業として整備してきた温泉街路灯について、平成18年度は新たに5基を設置する。

#### **秋保工芸の里拡張整備 [7,000千円]**

工芸の里に隣接し、現在こけしの森事業を展開している市有林等を活用し、秋保を一望できる散策路等の整備を行なう。

#### **作並地区観光振興の核となる施設整備（新規）[89,312千円]**

作並地区の観光振興の核となる施設整備のため、施設用地の取得及び施設の設計等を行う。

#### **鳳鳴四十八滝遊歩道整備（新規）[10,736千円]**

駐車場から鳳鳴四十八滝までの安全確保のための歩道整備等を行う。

#### **蕃山公衆トイレ水洗化（新規）[2,600千円]**

#### **○「仙台まるごとパス」推進事業 [300千円]**

仙台・松島・山寺をエリアとするJR、バス、地下鉄のフリー乗車券に施設利用割引等の特典を付けた「仙台まるごとパス」の発行を支援することにより、広域連携による観光振興を図る。

#### **④観光産業や市民の観光への取り組みの支援**

##### **○仙台ビジターズ産業ネットワーク運営支援 [4,500千円]**

平成16年6月に策定した「仙台市ビジターズ産業振興プラン」の実現に向け、その推進母体である「仙台ビジターズ産業ネットワーク」の支援を通じ、イベントやセミナー等の啓発活動の実施や本市の集客交流資源を活用した来訪者・宿泊客を増やす新規事業を広く募集し、コーディネーターによるサポートや助成金等の交付を行うことにより、民間事業者の集客商品・サービス開発の促進を図る。

#### **④仙台市の観光担当**

仙台市 経済局国際経済・観光部 観光交流課 10名、集客プロモーション課6名  
(財)仙台観光コンベンション協会 市派遣職員3名

#### **(4) 観光モニター体験調査**

①実施日時：平成18年8月23日（水）

②出席者（敬称略、順不同）：

気仙沼市：橋本観光課長、千田課長補佐、大沼課長補佐、気仙沼市観光協会 桜井  
松島町：齋藤産業観光課主事、(社)松島観光協会 猪俣

平泉町：齋藤農林商工観光課長、(社)平泉観光協会 石神  
仙台市：壹岐観光交流課長、佐藤主幹、千田主査、原野主事  
仙台市観光コンベンション伊藤  
東北産業活性化センター：今野プロジェクト振興部長、我妻課長代理  
東北地域環境研究室：志賀、伊藤

### ③観光体験コース

- 10：30 仙台市役所で観光現状レクチャー（路線バスで移動）
- 11：15 仙台市総合観光案内所（仙台駅2階）の視察
- 11：40 るーぷる仙台乗車
- 12：00 瑞鳳殿
- 12：50 るーぷる仙台乗車
- 13：15 仙台城跡（昼食）
- 13：40 仙台城跡発（公用車）
- 14：30 秋保大滝
- 15：30 磊々峡散策後、秋保里センター見学
- 16：20 秋保工芸の里見学
- 16：50 秋保工芸の里・工楽の家で意見交換

### ④調査結果

#### 【交通】

- 仙台へのアクセスは、人口100万人の政令指定都市だけあって、よく整備され便利。市内の移動も、地下鉄やバスも便利で移動しやすい。
- ただ一つの欠点は、バス停がどこなのかが、非常にわかりにくいこと。
- 特に、都市間の高速バスの発着場所が、いろいろなところに分散しており、仙台市民も知らない人がほとんどなのではないだろうか。東北の中継拠点として抜本的な改善を望む。ほぼ同じ人口規模であるが、福岡は非常にわかりやすい。



東北の玄関口・仙台駅

#### 【総合案内所（仙台駅2階）】

- インターネットの利用者数がどれくらいなのか聞いてみたかった。
- インターネットでのタイ語は必要なのか疑問。それよりも来仙者の多いフランス語やドイツ語が、必要ではないのでしょうか？
- 仙台市内の交通案内、観光案内の他、松島や平泉等の周辺観光地の案内まで、年間44万人もの人が訪れ、外国人も年間3万7千人が利用し、利用客が途切れることがなく、本当に忙しそうだ。観光客にとって



仙台駅2階にある総合案内所

は非常に便利な位置に設置されていると思う。

- カウンターも低く、椅子式なのも良いと感じた。
- 総合案内所の脇には、15分100円でインターネットが気軽に利用できるパソコンが設置されており、利用者も結構多いようだ。



総合案内所脇に設置されたインターネット

## 【るーぶる仙台】

1日券大人 600 円、1回乗車 250 円

- 仙台の観光スポットを巡る観光バス。お洒落な外観とインテリアが、日常を忘れさせ、観光への気持ちを高めていく。年々浸透し、利用客も増えているのもうなずけるが、折角乗車するのなら座って乗車したい。ピークシーズンは、非常に混雑するのが容易に予想されるので、個人的には魅力的な乗り物だと思うが、そのシーズンはあまり乗車したくない。このくらい乗車率がよく赤字であれば、民間委託でサービスを強化していくのも一つの方法か。
- 内装が普通のバスと違い、旅の雰囲気が出て良い。
- 移動場所に従った丁寧な車内アナウンスが良かったです。外国語でも対応していればなお良し。The next stop is・・・というアナウンスも途中からなくなっていたのが気になりました。
- 瑞宝殿前で下車してから、きつい坂道を昇り更に階段というのは、高齢者にとってはつらいものがあると思う。利用者の立場に立った場合、せめて坂道の入口で降りて欲しい。
- 車椅子のスペースがあったが、混雑しているときはどのように対応するのか？（運転手が介助して乗車させるというが・・・）
- またるーぶるを利用し、車椅子で瑞宝殿と青葉城址で下車したときあの坂道と階段は？瑞宝殿には、車椅子の方用の別の道があると聞いたが、その表示がなかったと思う。
- 外国人はメディアテークに行くだけの人も多いと聞く。また、戻ることが可能であれば、利用者の利便性が高くなるので、反



るーぶる：3色のバスが走っている



るーぶる内部のインテリア



下の外国語は3カ国語で次々に変わる

対回りの路線が欲しい。

- 時刻表で確認をすればよいと思うが、視察当日は繁忙期で 20 分毎に運行なのに、車内アナウンスは 30 分毎運行としていたと思う。20 分の時は 20 分毎の案内が欲しい。
- 車内の案内画面が、日本語、英語、韓国語、簡体語と画面が変わっていき、外国人にとってもわかりやすい。
- 停留所標識が韓国語、英語、簡体語と日本語と併記してあるのが良い。
- 車内後方にある、丸いバーは必要ないのではと思ったが、くねくねした坂道を登るときは、大変助かりました。

### 【瑞鳳殿】 大人 550 円、小中学生 200 円

- 上り下りの石段がきついので、せめて登りだけでもちょっとした乗り物サービスなどがあれば、流行ると思いました。往復 100 円くらいなら乗りたいです。るーぶるが見えたときに慌てて走るのがきついときなんか良さそう。
- 瑞鳳殿に上る坂道のアプローチ路は、見た目よりかなりきつい。観光客の苦情の多い場所だとも伺った。電動カートなどの乗り物があれば、ビジネスとしても成立するのでは・・・。
- 学芸員の方の説明は、非常にわかりやすく、建物の価値観が高まる。涅槃門の装飾が表と裏で違う意味とか、伊達政宗像は両目の意味等々、有料でもガイドを聞く価値が十分あると感じた。できれば、訪れる人全てに聞かせたい。
- 学芸員さんのわかりやすい説明がとても素晴らしかったです。新しくできたという東屋も素敵でした。
- 瑞宝殿での学芸員の説明が良かった。(どの施設でも言えることだが) ガイドなどの説明はその施設を理解する上で重要。ボランティアガイドがいるという点も良い。
- 瑞宝殿と涅槃門、御供所(資料館)、感仙殿、善心殿と見所が沢山あり、瑞宝殿の拝観料 550 円はお得感がある。
- 瑞宝殿観覧券売店のところに「るーぶる 1 日券提示による割引サービス」の表示は、観光客にとって親切であり、お得な感じにさせる。



瑞宝殿に上る坂は結構きつい



涅槃門



瑞宝殿

### 【坂下の喫茶店など】

- 手作りの多言語併記。このような個々の店舗取り組みが、インバウンド誘客に繋がる。
- 参道にお店が何件かあったので、バス待ち時間もそれなりに楽しめました。もっと増えると良いかも。瑞巖寺の寺町的な甘味どころとかも、もっとあれば流行ると思うし、定義山の参道のような観光地なお土産店などの雰囲気があればもっと楽しめてよいだろう、と思いました。玉こんにゃく売ってたり・・・。



### 【仙台城跡・「食」】

- 整備工事が終わって見晴らしがとても良くなっていたので素晴らしいと思いました。
- 「見聞館」はもっと大きな看板などで目立たせる必要があると感じました。ただのトイレと思われぬような工夫がほしい。金額的にも気持ち的にも気軽に楽しめる飲食店があればもっと良いと思います。
- 新しい施設の仙台見聞館の看板は、トイレと勘違いをしてしまう。早急に表示方法の変更をした方が良い。
- 仙台名物の牛タン屋さんが、満席状態で待ち時間が長いため、近くの蕎麦屋で食べた冷やとろそば 700 円。山形で食べる蕎麦とは別物。仙台で、蕎麦に期待をする人もいないのかもしれないが、ここに入っている数軒の食堂が、観光客の仙台の「食」の評価に繋がることもあり、一層のスキルアップを望む。
- 時間の関係上、牛タンは諦めたが、一般観光客が同じような状況だったら、折角仙台に来たのに・・・と不満を持たれなければいいのですが。



城址内の蕎麦屋の冷やとろそば

### 【秋保大滝】

- 日本名瀑 100 選の一つに数えられる。仙台には数少ない自然景勝地。これも仙台の多様な魅力の一つであろう。
- やはり素晴らしかったです。滝の下までいける道のりがわかりやすく表記されていれば良いと思います。ただマイカーがないとなかなか行きづらい場所かもしれないと思いました。
- 大滝の茶屋付近にある「新奥の細道、秋保大滝」の立看板が倒れて、ひもで木に括りつけていたが、早急に修繕をお願いしたい。
- 大滝から工芸の里に向かう道から県道に



秋保大滝

出るとき、標識がなかった。(右に行けば大滝等の標識) 地元の間人は間違えないと思うが、初めて訪れたものは、わからないのではないかな。

- 木々の中にしっかりと佇む落ち着いたイメージの茶屋は、思わず休んでみたくなる場所にある感じの良い建物でした。
- 硬貨が挟められたご神木は、何のおまじないだろうかと興味がわく。
- めがね橋の景観も良いので案内看板が欲しい。言われなければ、ただ、通り過ぎてしまうと思う。



途中の茶屋



ご神木に挟まっている硬貨は何かのおまじない？

### 【磊々峡散策コース】

- とても良い散策コースでした。秋保里センターまでの裏道も初めて知ったので、あの裏道の案内を目立たせても良いと思います。
- 磊々峡から秋保里センターに向かう磊々峡連絡通路で一部道幅が狭く、薄暗いところがあり、ここを通すのはどうかと思う。(車道を通らないので安全だと思うが)
- 磊々峡に散策ガイドがいて、猪飛巖の名前の由来などの説明などがあれば、散策が楽しくなるのではないのでしょうか？
- 秋保石と呼ばれる凝灰岩の大岩が、名取川の流れて浸食された奇景とのことだが、ここだけのためにわざわざ来ようというほどの魅力までは感じられませんでした。秋保温泉の宿泊客または日帰り客の散策コースという印象を受けました。



磊々峡散策コース

### 【秋保・里センター】

- 工芸やクラフト作品の展示、昔懐かしい秋保電鉄等、秋保の情報と文化を伝える複合施設。食事処も併設してあるが、一回来た人は、再訪しないのではないだろうか。あそこの〇〇を食べるためとか、あるいはお土産を買うためでも良いが、リピート性が見込め、わざわざ立ち寄るような魅力が欲しい。
- トイレは非常に清潔感があり、とても良い。
- 新しい施設で広々としているがここでも、授乳室がなく、授乳室利用者があった場合は、女子更衣室を利用しているとのことであった。

- ・秋保温泉の日帰り入浴施設一覧があり良い。
- ・秋保温泉郷観光案内所の案内カウンターは感じが良いが、左側のカウンターの低い方で、椅子で案内した方が良いのではないだろうか。



秋保里センターの概観



内部の展示

### 【秋保工芸の里】

- ・こけし、独楽、煎茶用具、仙台筆筍、木工芸、染織、茶器、生地玩具等の工房と住まいが建ち並ぶ。昭和 63 年4月にオープン。近年来場者数は漸減傾向にあるようだが、工房が伝統工芸品系のものに偏っているため、興味のない一般観光客は立ち寄りにくいものになってしまっている。
- ・ガラス工芸とか、アクセサリーショップとか、一般観光客でも興味の持てそうな工房やショップも参入できれば違う展開策も考えられるのだが・・・。
- ・伝統工芸を頑なに継承するのも重要なことだが、一方では時代ニーズに合わせたり（例えば会津漆器）、新しいことにチャレンジしていくことも必要だと思います。このままでは、いずれ存続は難しくなっていくのでは。でもどうして温泉街に工房を点在させなかったのでしょうか？
- ・何よりも店とお客さんの会話しやすい工夫が必要。例えば、店前の縁台にお店の人がいて、自由にどうぞ。麦茶でも一杯いかがですか？ 等のコミュニケーションを図る取り組みなど、工房全体で行っただけでも、ずいぶんイメージが明るくなるのではないだろうか。明るく活気があるからこそ、魅力的に映り、惹きつけられるのであって、寂しい暗いところは、敬遠されることを、工房の皆さんが、まずは共通認識として自覚し、何とかしたいと思うことがスタートなのではないでしょうか。
- ・今の枠組みを崩さずに活性化させる手法としては、工房体験＋湯巡りチケット等、温泉組合と連携した取り組み等も考えられるが、体験メニューが、観光客に魅力的に映る



秋保工芸の里



仙台筆筍の工房

かがポイントであろう。

- とても寂しい場所で驚きました。休憩所も「開館中」の札が「閉館中」と読み違えるほど寂しい雰囲気でした。個々の店はそれぞれ素敵なのに入りづらい。
- 買わないのに入ると悪いような気がして、入ってもお店の方とあまり会話せずに（むこうもある程度の距離を置くようにしているような気がしました）ちょっと残念でした。
- 中央の広場だけが、だだっ広くてもったいない気がします。あの距離感がそのままお店同士の距離感に見えました。秋保大滝のところに出ていたようなお店が少しでもあると賑わって良いだろうと思いました。定期的にイベントや物産展、コンサートなどをしかければもっと楽しい場所になるのではないのでしょうか。
- 工芸の里に大滝のような地場製品の販売があれば、賑わうのではないかと。平日に訪れたせいか、観光客もなく、寂しい感じで、店の前まで行かないと営業しているのかどうかかわからない。入店しづらい雰囲気になっていると感じた。（独楽、仙台箆等の工房など作業風景が見学できるのは良いが）
- 東屋のようなもの、若しくは、お茶が飲める喫茶店のようなものが欲しい。
- 工芸の里では、体験学習や、工房に行かなければ見られないもの（店舗と外壁の間に道具の展示をしていた）等があり、興味のある人にとっては面白いと感じるのでないかと思う。



こけしの工房

## 【その他】

- 自家用車で秋保に来る場合は良いが、JRを利用し、バスで仙台市内から秋保に来る場合は、どうなのか？不便に感じるのではないかと？
- まちなかの随所におしゃれな案内板が整備されている。デザインセンスも良く色彩も景観に配慮されており、好感が持てた。
- 秋保温泉の個々の旅館は立派なものばかりだが、温泉街としての楽しさを感じられませんでした。
- 都会的な市内から、少し足を伸ばせば自然豊かな街も味わえる点は良い。
- 工芸の里、秋保里センター、大滝と駐車場スペースがあり良い。
- 観光入込客数の約半分がイベント客であり、その時も是非みてみたいと思った。また、アジアからの外国人旅行客にとっては、観光スポットはヨドバシカメラだったりするので、都市の魅力的なところ（定禅寺通り、ラーメン国技館、科学館、フルキャストスタジアム、AERビル、メディアテークなど）を観られたらもっと良かったと思う。



ところどころに案内板が設置されている

## (5) 仙台市の観光の特徴、強み弱み



SENDAI 光のページェント



仙台七夕まつり

### 【参考資料】

- \* 1 「仙台市観光アンケート調査（実態調査）」平成 15 年度  
仙台市商工部観光交流課  
サンプル数： 2,146  
対象：ホテル宿泊客 97.6%人 仙台空港リムジンバス・るーぶる仙台乗客 2.4%  
手法：留置法（宿泊客）および直接配布・郵送回収（乗客）
- \* 2 「仙台市ビジターズ産業振興プラン」平成 16 年 6 月策定  
仙台市産業政策部経済企画課  
平成 15 年 11 月アンケート調査  
サンプル数： 1,015 対象：宮城県内・隣接県住民 手法：インターネット
- \* 3 「コンベンション参加者アンケート」  
平成 16 年 3 月、17 年 3 月、18 年 3 月策定  
財団法人仙台観光コンベンション協会
- \* 4 仙台市経済局 国際経済・観光部資料
- \* 5 「東北じゃらん 2006 年 10 月号」人気観光地ランキング  
サンプル数： 1,221 対象：読者 手法：投函
- \* 6 「地域ブランド調査 2006 市版」株式会社ブランド総合研究所  
サンプル数：24,536 全国 779 市を調査対象 調査方法：インターネット調査

# 1

## 観光入込客数

- ・ 昭和 62 年の NHK 大河ドラマ「独眼竜政宗」が最高 \*4
- ・ 平成 6 年頃から減少傾向が続いたが、近年は微増 \*4  
(宿泊客数共)
- ・ 観光入込客数の半分弱が、イベント客数 \*4
- ・ 「仙台七夕まつり」開催の夏と「SENDAI 光のページェント」開催される年末がハイシーズン \*4

観光入込客数の推移 (万人)



イベント客数の推移 (万人)

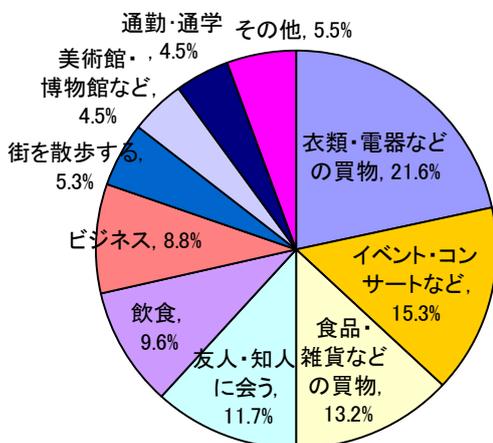
	H14	H15	H16	H17
仙台青葉まつり	74.0	88.1	80.6	80.2
仙台七夕まつり	217.8	220.3	241.0	228.0
定禅寺ジャズフェスティバル	45.0	54.0	56.0	63.0
みちのくYOSAKOIまつり	60.0	70.0	50.0	65.0
SENDAI光のページェント	223.8	215.0	250.0	280.0
<b>イベント客数計</b>	<b>620.6</b>	<b>647.4</b>	<b>677.6</b>	<b>716.2</b>
全体割合	43.9%	45.7%	46.8%	45.3%

# 2

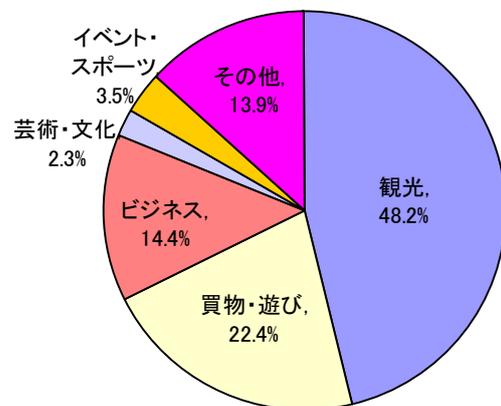
## 観光目的

- ・ 隣県・県内からの来仙目的は、「ショッピング」と「イベント・コンサート・スポーツ等の娯楽」\*2
- ・ 宿泊客の来仙目的は、約半数の人が「観光」\*1
- ・ どちらかという、仙台は観光地というより、松島、蔵王等へのアクセス地という認識を持たれている \*2

隣県・県内からの来仙目的



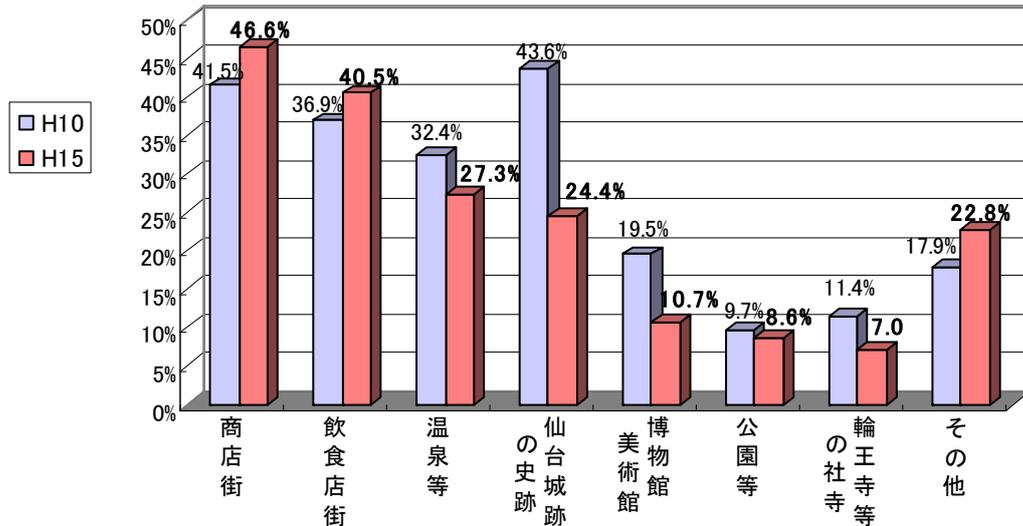
宿泊客の来仙目的



# 3

- 宿泊客の訪問先は「商店街」・「飲食店街」\*1
- 「商店街」・「飲食店街」は増加、「仙台城跡等の史跡」は大きく減少\*1

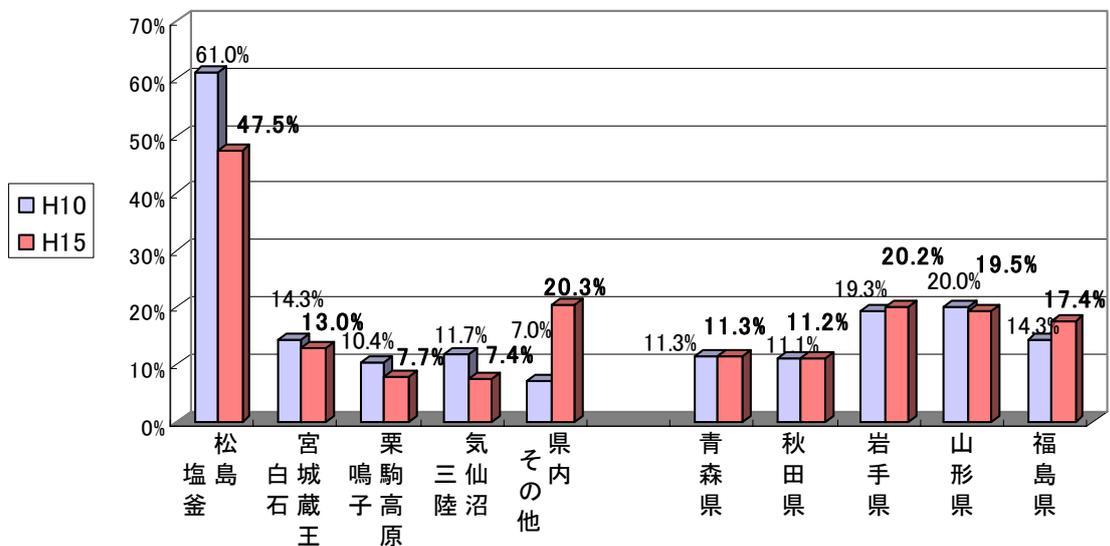
## 訪問先(市内)



# 4

- 仙台以外の宮城県内の訪問先は、多くの方が「松島・塩釜」\*1
- 仙台を拠点に各県へ分散\*1

## 訪問先(市外)

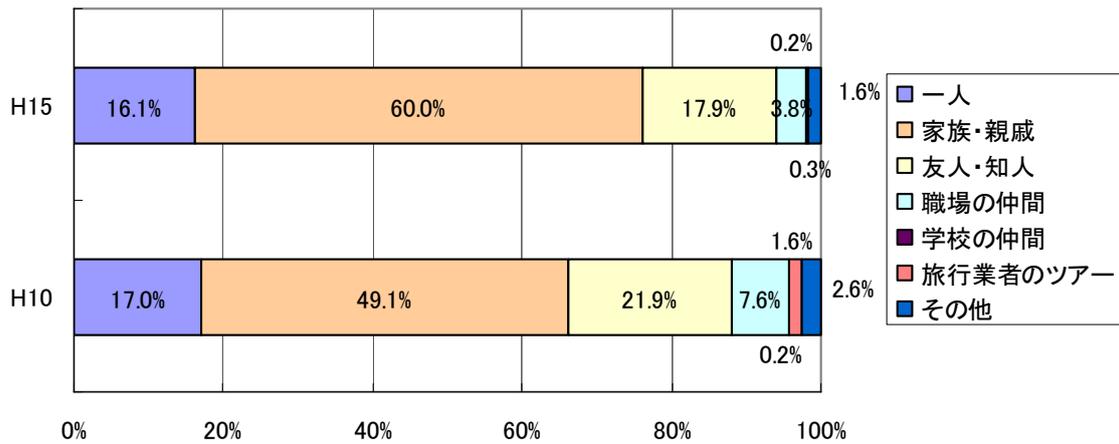


# 5

## 宿泊客

- ・市内宿泊者の62.9%が「中心部」、39.2%が「郊外」の温泉・ホテル・旅館に宿泊（平均滞在1.4日）\*1
- ・宿泊者の45.0%が「関東」、40.6%が「東北6県」\*1
- ・同伴者は「家族」が6割（回答者のほとんどが宿泊客）で、増加傾向。逆に「職場の仲間」は減少傾向 \*1

宿泊者の同伴者



# 6

## 利用交通

- 【宿泊者の来仙交通】：ほとんどが「自家用車」「鉄道」を利用  
自家用車は増加、鉄道は減少傾向 \*1
- 【隣接県・県内客の来仙交通】：44.3%が「自家用車」\*2
- 【東北自動車道】：入出台数とも減少傾向 \*4
- 【新幹線利用客数】：減少傾向 \*4
- 【るーぷるバス】：微増傾向 \*4
- 【仙台空港利用客数】：ほぼ横這い \*4
- 【駐車場数・収容台数】：駐車場数は微増、台数は横ばい \*4

来仙交通

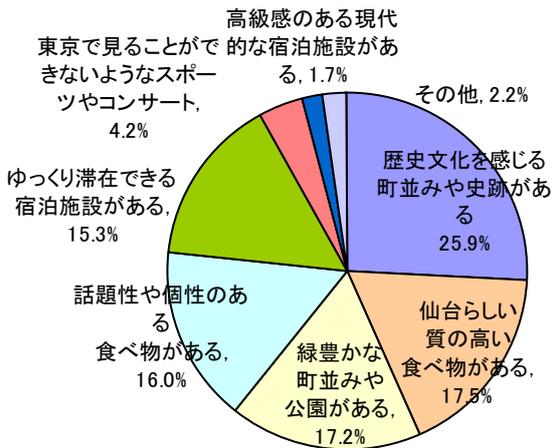
	宿泊者*1			隣県・ 県内*2	交通関連の推移					
	H10	H15	H15		単位	H13	H14	H15	H16	H17
自家用車	34.9%	51.3%	44.3%	新幹線日平均乗車人員	人	18,103	18,444	17,895	13,992	—
鉄道	52.9%	40.6%	15.9%	東北自動車道 入台数	千台	—	10,009	9,951	8,429	8,253
高速バス・バス	5.0%	6.5%	6.6%	“ 出台数	“	—	9,917	9,820	8,255	7,974
航空機	17.2%	6.3%	—	計	—	—	19,926	19,771	16,684	16,227
レンタカー	1.7%	2.2%	—	仙台空港乗降客数国内線	人	2,828,795	2,925,687	2,902,543	2,927,796	—
貸切バス	2.4%	1.1%	—	“ 国際線	“	419,481	392,584	275,188	294,288	—
フェリー	0.6%	0.5%	—	計	—	3,248,276	3,318,271	3,177,731	3,222,084	—
地下鉄	—	—	1.8%	るーぷる仙台乗車人数	人	—	249,310	246,541	265,455	278,759
バイク・自転車	—	—	0.5%	駐車場 設置箇所	箇所	—	195	199	202	208
徒歩	—	—	0.2%	“ 収容台数	台	—	4,114	4,144	4,114	4,085
その他	2.3%	1.7%	—							
無回答	—	—	30.7%							

# 7

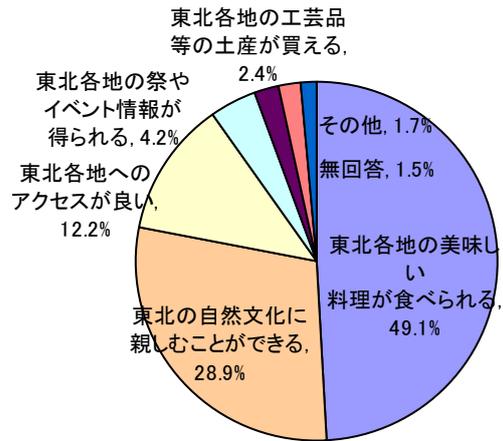
## イメージ ニーズ

- ・ 仙台のイメージは「緑豊かな都市」30.3%⇒「都会・近代都市」16.0%⇒「美しい都市」9.8%⇒「東北の中心・大都市」9.0%（65.8%人は訪れてみて「イメージどおり」）\*1
- ・ 市の魅力度ランキングで、仙台市は全国 16 位（37.6 点）\*6
- ・ 「是非仙台に行きたいと思っている」（首都圏）48.2% \*2
- ・ 仙台への期待は、東北各地の「食」と「文化に親しむ」\*2

どのような都市だったら訪仙したい？



どのような東北の魅力を仙台に期待しますか？



# 8

## 満足度

- ・ 総合満足度は、平均 69.9 点 \*2
- ・ 「宿泊先」に対する満足度は、平均 70.8 点 \*2
- ・ 「買い物・商店」に対する満足度は、平均 67.5 点 \*2
- ・ 「飲食」に対する満足度は、平均 67.6 点 \*2
- ・ 「行って良かった観光地」で、宮城県内第 5 位 \*5

行って良かった観光地  
東北 BEST20

順位	観光地名	県名	満足度
1	奥入瀬渓流	青森	65.5%
2	黄金崎不老ふ死温泉	青森	63.5%
3	裏磐梯	福島	60.0%
4	乳頭温泉郷	秋田	58.7%
5	肘折温泉	山形	56.3%
6	アクアマリンふくしま	福島	56.0%
7	角館	秋田	53.2%
8	八幡平	岩手	52.6%
9	磐梯熱海温泉	福島	51.7%
10	十和田湖	青・秋	51.2%
10	小野川温泉	山形	51.2%
12	銀山温泉	山形	50.5%
13	男鹿半島	秋田	50.3%
14	柳津	福島	50.0%
15	栗駒	宮城	49.0%
16	下北半島	青森	48.3%
16	秋の宮温泉郷	秋田	48.3%
18	白布温泉	山形	48.0%
19	けんじワールド	岩手	47.5%
20	龍泉洞	岩手	46.7%

行って良かった観光地  
東北6県別 BEST5

順位	観光地名	満足度	順位	観光地名	満足度
<b>青森</b>			<b>秋田</b>		
1	奥入瀬渓流	65.5%	1	乳頭温泉郷	58.7%
2	黄金崎不老ふ死温泉	63.5%	2	角館	53.2%
3	十和田湖	50.6%	3	男鹿半島	50.3%
4	下北半島	48.3%	4	十和田湖	50.0%
5	岩木山	46.4%	5	秋の宮温泉郷	48.3%
<b>岩手</b>			<b>山形</b>		
1	八幡平	52.6%	1	肘折温泉	56.3%
2	けんじワールド	47.5%	2	小野川温泉	51.2%
3	龍泉洞	46.7%	3	銀山温泉	50.5%
4	狛鼻溪	45.1%	4	白布温泉	48.0%
5	安比高原	44.4%	5	山寺	45.2%
<b>宮城</b>			<b>福島</b>		
1	栗駒	49.0%	1	裏磐梯	60.0%
2	松島・塩竈	44.5%	2	アクアマリンふくしま	56.0%
3	作並温泉	43.9%	3	磐梯熱海温泉	51.7%
4	鳴子温泉郷	42.4%	4	柳津	50.0%
5	仙台市	39.8%	5	会津若松(東山・芦ノ牧)	44.6%

今年行ってみたい観光地  
宮城、岩手県 BEST5

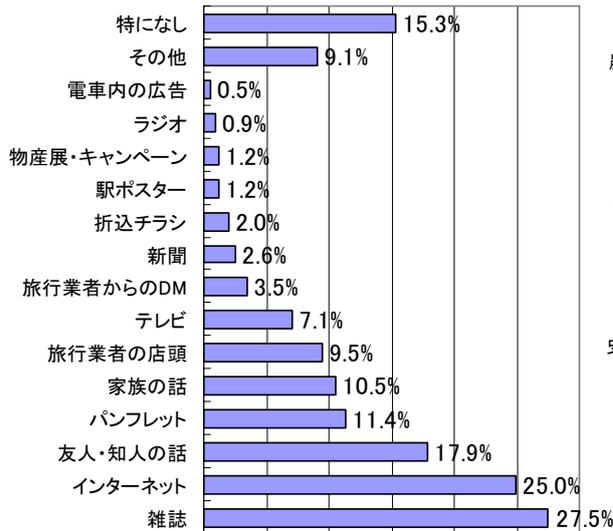
順位	観光地名	満足度
<b>宮城</b>		
1	秋保温泉	
2	気仙沼・志津川	
3	鳴子温泉郷	
4	松島・塩竈	
5	仙台市	
6	作並温泉	
7	遠刈田温泉	
8	女川・石巻・牡鹿半島	
9	宮城蔵王	
10	栗駒	
<b>岩手</b>		
1	けんじワールド	
2	花巻・花巻温泉郷	
3	小岩井農場	
4	安比高原	
5	宮古市・浄土ヶ浜	
6	遠野	
7	雫石・鶯宿温泉	
8	龍泉洞	
9	つなぎ温泉	
10	一関温泉郷・厳美溪	

# 9

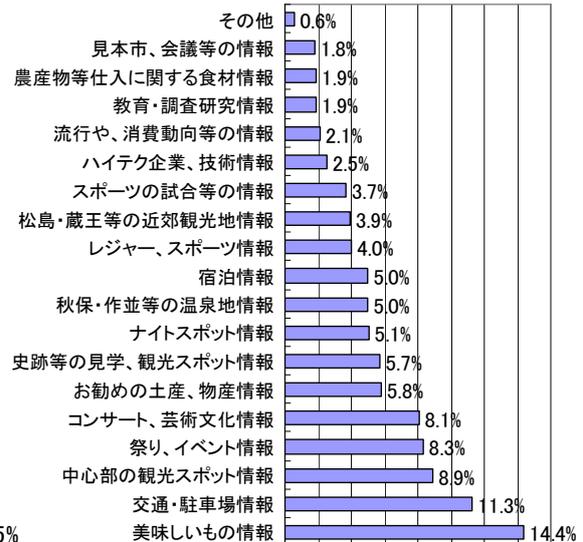
## 情報提供

- ・ 情報源は「雑誌」・「インターネット」・「口コミ」\*1
- ・ 仙台市の観光情報ホームページの閲覧率は 17.7%で、「参考になった」38.6%、「まあまあ参考になった」45.5%\*1
- ・ 欲しい情報は「グルメ・飲食店情報」・「交通情報」\*1
- ・ 観光案内所の利用客数は、漸増（H17：443,665人）\*4

今回の旅行の情報源は？



欲しい情報(隣県・県内)



# 10

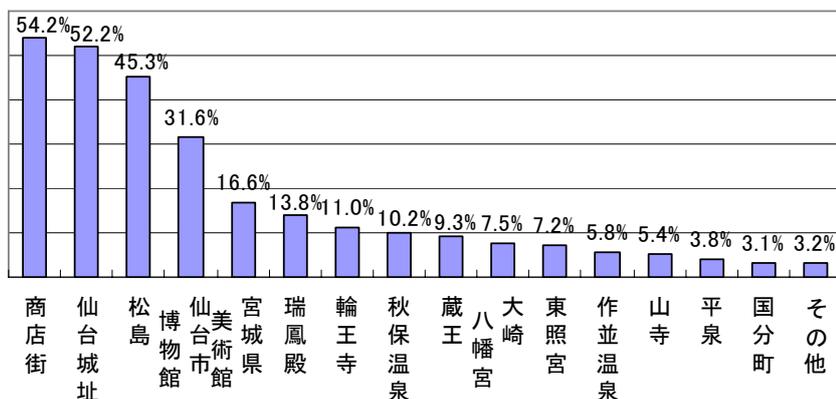
## 訪日旅行者

- ・ 国別の年間外国人宿泊客数は、アメリカ 9,184人⇒韓国 6,719人⇒台湾 8,342人⇒中国 7,367人の順（H17）\*4
- ・ 仙台以外の訪問した都市は「東京」、「京都」\*3
- ・ 利用交通は、成田空港⇒新幹線⇒タクシーまたはバス
- ・ 和食志向が強い（食べた昼食が「和食」49.0%）\*3
- ・ まちの印象は、「非常によい」47.9%、「良い」38.1%\*3
- ・ 訪問先は、商店街⇒仙台城址⇒松島⇒仙台博物館の順\*3
- ・ 市民のホスピタリティは「非常によい」55.8%、「良い」33.3%\*3

外国人観光宿泊客数

	旧仙台	秋保	作並
H11	55,918	1,594	3,370
H12	56,607	1,108	1,115
H13	53,172	822	256
H14	78,839	977	372
H15	54,220	2,358	2,448
H16	55,820	2,129	2,605
H17	53,424	1,239	1,031

仙台周辺で訪れた観光地



## 仙台市観光の強みと弱み

種別	強み	弱み
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 首都圏に比較的近い</li> <li>・ 人口 100 万人の、東北地方の政令指定都市</li> <li>・ 支社・支局地として多くの企業が立地（移動人口が多い）</li> <li>・ 学都（若年人口が多い）</li> <li>・ 夏涼しく、冬は東北地方としては温暖で乾燥し、空っ風が吹き、降雪量は少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東北の中心都市でありながら、自治体間の連携が弱い</li> <li>・ やませによって、農作物等は、被害を受けやすい</li> </ul>
観光入込客数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節変動が少ない *4</li> <li>・ イベントによる観光入込客数が多い（半数弱）*4</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史文化資源に対する入込割合が、減少傾向 *4</li> </ul>
交通	<b>【鉄道】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京⇄仙台間 1 時間 36 分（東北新幹線）</li> <li>・ JR、地下鉄南北線で、市内移動が可能</li> </ul>	
	<b>【航空機】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東北最大の国際空港</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仙台空港利用者の不満要因は、仙台駅間の利便性（バスの渋滞による移動時間に対する不満） （仙台空港アクセス鉄道開通：平成 19 年 3 月）</li> </ul>
	<b>【車】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東北自動車道、仙台南部道路、仙台東部道路があり、アクセスが良い（平成 21 年仙台北部道路開通によって環状自動車専用道路が形成）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仙台訪問で不満だったものは「交通機関（42.5%）」（択一式）*1</li> <li>・ その理由は、「案内・表示（31.8%）」⇒「混雑（20.2%）」⇒「料金（17.7%）」に関する不満</li> </ul>
	<b>【バス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各主要都市間で都市間高速バスが運行。（特に仙台⇄山形間は 1 日 70 往復の高速バスが運行）</li> <li>・ 中心地の主な観光施設を巡る、巡回バス「るーぷる」が運行されており、それが観光のシンボルとなっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バス乗り場、都市間高速バスの発着所が、非常にわかりにくいことが、来仙者の不満要因（市民ですらわからない）*2</li> </ul>

<b>情報発信</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市としての知名度ある。</li> <li>・仙台市では、英語・中国語（簡体、繁体）・韓国語・イタリア語・スペイン語・ドイツ語・フランス語・タイ語のホームページが整備されている</li> <li>・仙台観光コンベンション協会は、英語・中国語（簡体、繁体）・韓国語・タイ語のホームページ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高いホームページを持ちながら、来仙者の閲覧率が低い（仙台市ホームページ 17.7%）*1</li> <li>・東北のゲートウェイ都市でありながら、東北各地の主要観光地のホームページに直接リンクできない</li> <li>・一番欲しい情報「グルメ・飲食店情報」に十分な対応ができていない*1</li> </ul>
<b>食</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台名物は「牛タン」と「笹かま」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「食」の都としてのイメージが弱い（4.4%）*1</li> </ul>
<b>宿泊施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋保、作並温泉を抱えている</li> <li>・中心部に、宿泊収容力がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郊外に大きな温泉地があるというイメージが弱い（0.5%）*1</li> </ul>
<b>スポーツ 関連</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北楽天ゴールデンイーグルス（プロ野球）</li> <li>・ベガルタ仙台（プロサッカー）</li> <li>・仙台 89ERS（プロバスケ）</li> </ul>	
<b>訪日外国人 旅行者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪日外国人旅行者からみた、仙台市民のホスピタリティは良い *3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪日外国人旅行者が改善を望むものは、外国語表示の充実化（自由記述の51.0%）」と「会話能力の向上（自由記述の14.5%）」*3</li> <li>・FIT 旅行者への対応</li> <li>・訪日外国人旅行者に、対応できる飲食店が少なく、情報も少ない。</li> </ul>
<b>仙台の魅力 (観光資源)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかの緑の豊かな美しい都市「杜の都」</li> <li>・歴史と伝統文化のある近代都市</li> <li>・ショッピングが楽しめる商業集積都市</li> <li>・魅力的な多彩なイベント・芸術活動・スポーツ</li> <li>・学都</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反面、アーケードを歩く人が多いため、思っていた以上に緑が少ないと感じている人も多い *1</li> <li>・仙台城跡等の史跡に対するニーズは大幅に減少（H10 43.6%⇒H15 22.4%）*1</li> <li>・市のシンボルとして伊達政宗が使われることが少ない</li> </ul>

## 2. 気仙沼市の観光の現状と強み弱み

### (1) 気仙沼市の概要

#### ① 自然環境

気仙沼市は、宮城県の北東端に位置し、東は太平洋に面し、南は本吉町、西は岩手県一関市、北は岩手県陸前高田市にそれぞれ接している。

総面積は 226.67 km<sup>2</sup> で県内では 11 番目の広さがあり、北部、西部、南部を北上山系の支脈に囲まれ、そこから流れ出る大川が西から東に向かって流れ、太平洋に注いでいる。

沿岸は、三方を海に臨む半島や複雑な入り江等、素晴らしい景観を有するリアス式海岸となっており、陸中海岸国立公園及び海中公園の指定を受けている。また、気仙沼湾口に大島を抱き、四季静穏な天然の良港を形成しており、気候は、夏は涼しく、冬は比較的温暖である。

#### ② 社会環境

気仙沼市と、本吉郡唐桑町が平成 18 年 3 月 31 日合併し、新気仙沼市が誕生した新しい市で、旧気仙沼市は昭和 55 年まで、人口が増加したがそれ以降漸減した。一方、旧唐桑町は、昭和 30 年以降人口が減少してきた。住民基本台帳人口によれば、平成 18 年 7 月末現在の人口は 66,777 人（男 32,352 人、女 34,425 人）、世帯数は 23,115 戸となっている。

また本市は、古くから海（太平洋）とともに歴史や今日の発展を築いてきた漁業の盛んな市で、特に三陸の海（太平洋）は多くの恩恵をもたらし、天然の海産物の他、ワカメ・牡蠣・ホタテ・ホヤ等、日本有数の養殖漁場となっている。

気仙沼魚市場水揚量（H16）は、89,855 t 全国 13 位で、水揚量の多いものから上位 3 つは、サンマ、カツオ、サメ類の順となっている。一方、水揚高（H16）は 20,479,785 千円 全国 9 位で、カツオ、カジキ類、マグロの順となっている。

#### ③ 指定文化財

指定文化財の状況は、国指定 2、県指定 11、市指定 38 で、国指定および県指定のものは以下の通りである。

【国指定】無形民族	室根神社祭のまつりば、行事羽田のお山がけ
【県指定】建造物	補陀寺六角堂・観音寺観音堂厨子
彫刻	木造阿弥陀仏如来坐像
無形民族	新城の田植踊・早稲谷鹿踊・廿一田植踊
天然記念物	羽田神社の太郎坊、次郎坊の杉・岩井崎石灰岩化石・八幡神社の大サワラ下二本杉
名勝	巨釜・半造

### (2) 気仙沼市の観光の概要

#### ① 主な観光資源

気仙沼は、観光地というよりは港町として、現在の礎を築いてきた。そのため、誰もが

知っているような観光資源はない。主な観光資源は以下の通りである。

- 【気仙沼エリア】 海鮮市場「海の市」、氷の水族館、リアスシャークミュージアム、リアスアート美術館、浮見堂、煙雲館、補陀寺六角堂等、徳仙丈
- 【大島エリア】 十八鳴浜、龍舞崎、小田の浜海水浴場、亀山リフト、休暇村等
- 【岩井崎エリア】 岩井崎プロムナードセンター、潮吹岩、お伊勢浜海水浴場等
- 【イベントなど】 気仙沼天旗まつり(2月)、徳仙丈つつじ祭り(5月)、気仙沼港まつり(8月)、けせんぬまサンマまつり・目黒さんま祭(9月)、気仙沼・本吉地方産業まつり(10月)、島の学校

## ②観光入込客数

旧気仙沼市の観光入込客数は、平成11年の1,806,400人から微減傾向にあったが、平成16年に過去最高を記録した。海に関わるもの主な観光資源であるため、その年のハイシーズンの天候に左右される部分の大きいのが、近年は年間約170万人前後で推移している。

一方宿泊客数は、平成4年をピークに減少してきたが、下げ止まりを見せ、近年はほぼ横這い状態にある。

地域別に観光入込客数をみると、気仙沼エリアが、観光施設が整備されたことによって、入込客数が近年大きく増加し、平成元年から実に3倍強の入込客数となっている。また、景勝地である岩井崎は50万人台の横這い傾向で安定しており、唐桑エリアは減少している。大島エリアも、民宿数の減少等から漸減傾向にあったが、島の学校等の体験型観光が、徐々に成果を見せ始め、下げ止まり傾向を見せている。

観光施設別にみると、海鮮市場「海の市」が全体の入込総数の7～8割を占めており、入込数からだけみると一局集中になっている。わかりやすく言えば、気仙沼あるいはその近郊に宿泊した観光客は、海鮮市場「海の市」で海産物を購入するために立ち寄り、その他の観光施設にはほとんど回っていないということがデータから推測される。

### 【入込総数・エリア別入込客数(人)】

平成	入込総数	宿泊客数	気仙沼	大島	岩井崎	お伊勢浜	唐桑町
元	1,412,100	296,300	260,500	450,000	535,000	166,600	588,300
2	1,494,100	314,000	311,400	453,000	555,000	174,700	598,200
3	1,469,900	339,400	343,000	456,200	583,000	87,700	599,700
4	1,472,300	396,300	328,000	435,000	564,300	145,000	537,300
5	1,282,800	364,900	322,000	398,800	514,600	47,400	547,000
6	1,488,200	379,600	346,300	357,700	586,900	197,300	559,200
7	1,280,800	348,000	331,900	329,000	518,700	101,200	537,000
8	1,361,300	351,700	348,800	325,100	545,000	142,400	520,800
9	1,649,000	317,800	653,900	333,700	528,300	133,100	536,700
10	1,621,600	294,600	758,100	299,500	507,600	56,400	502,300
11	1,806,400	256,100	824,900	331,800	567,100	82,600	507,300
12	1,758,600	265,500	747,800	363,700	535,000	112,100	482,000
13	1,721,100	242,200	769,000	355,200	529,900	67,000	469,900
14	1,782,700	231,200	794,600	342,900	546,800	98,400	472,700
15	1,656,350	206,300	768,200	318,900	506,000	63,250	398,530
16	1,839,570	217,240	746,900	330,700	555,600	206,370	380,200
17	1,641,900	217,400	758,500	328,000	502,600	52,800	374,500

### 【観光施設別入込客数(人)】

平成	みなと祭り	海水浴	亀山リフト	岩井崎プロムナードセンター	リアスアーク美術館	海の市	リアスシャークミュージアム	氷の水族館	ガラスボード
元	48,000	220,000	90,759						29,909
2	90,000	238,000	93,719						31,064
3	90,000	108,080	100,063						32,115
4	90,000	160,230	87,765						28,755
5	100,000	57,630	77,046	43,936					25,593
6	102,000	222,515	67,034	22,308	7,603				21,255
7	93,000	115,300	59,572	16,317	25,525				19,591
8	91,000	161,900	53,218	15,158	27,294				16,314
9	113,000	142,000	48,497	12,153	18,880	1,048,700	82,454		15,559
10	105,000	61,800	43,082	11,216	14,446	1,302,880	60,454		12,305
11	128,000	91,800	42,697	18,351	18,645	1,520,800	54,965		11,245
12	115,000	121,500	38,074	10,174	18,895	1,306,080	44,023		10,125
13	123,000	70,800	39,018	9,848	19,090	1,412,320	45,748		8,925
14	125,000	101,874	35,354	10,073	22,344	1,506,320	51,325	59,394	7,873
15	138,800	61,052	26,485	9,831	35,197	1,352,320	47,615	51,944	0
16	141,000	219,670	29,085	8,128	31,454	1,260,700	45,187	49,170	0
17	145,000	62,070	27,901	8,968	31,448	1,298,000	46,503	45,271	0

### (3) 観光の必要性

#### ① 風待ち地区の変遷（内湾周辺）

地域の歴史を振り返ると、魚町、南町等、内湾周辺の中心市街地は、古くから交易港、漁港として栄えた港町である。

この土地は、冬季、西あるいは北西の風（ナライ）が北上山地から強く吹き下ろす。リアス式海岸の奥深い内湾は、航海を妨げる強風を避ける風よけの港であり、同時に、出帆するダシ（出し）の風を待つ、風待ちの港でもあった。近世には、長崎俵物と呼ばれた海産乾物の交易、明治以降は、カツオ漁等、動力船による漁船漁業の基地として発展してきた。ナライの風は、大正4年と昭和4年に、まちを焼き尽くす大火をもたらしたが、漁船漁業の経済力により、またたく間に復興を遂げたと言われる。

その後、戦後の高度成長期に、街並みは大きく変貌し、市民の意識も、自家用車の普及とともに、内湾、港から離れ、平坦地を求め、市街地の南、あるいは西方面に向かってゆく。内湾周辺の中心市街地は、他の多くの地方都市同様、賑わいを失い、シャッター通りとも称される状況となった。

#### ② 観光の変遷と大島の民宿の減少

昭和39年、それまで、宮古市を中心に、釜石市までの旧陸中地域のみ指定であった陸中海岸国立公園が、旧陸前の大船渡市以南、本市南端の岩井崎まで拡張編入された。

昭和42年には、大島亀山リフトが開業、以来、平成18年3月に合併した唐桑半島と一体となり、大島の龍舞崎、十八鳴浜、小田の浜海水浴場、そして、階上の岩井崎、お伊勢浜海水浴場と、自然の景観と海水浴中心の夏型観光地として発展してきた。大島には、最盛期50軒を超える民宿が営業していたが、現在は、25軒程度に減少している。

### ③観光が地域を支えるもう一方の柱に

気仙沼市は、宮城県の北東端に位置する、全国屈指の漁港都市であり、魚市場は、年間200億円を超える水揚げ金額を有し、水産業が市を支える基幹産業として繁栄してきた。

一方、昭和39年の陸中海岸国立公園編入以来、観光都市として発展し、近年180万人を超える入込み客数を有しているが、ピーク時には39万人台であった宿泊客数は、21万人程度に落ち込んだ。(旧唐桑町分を除く)

水産業は、遠洋まぐろ漁業が中核となり、地域を支えてきたが、経済のグローバル化の中で、構造的に厳しい経営を強いられ、特に平成17年は、燃油価格高騰のあおりを受け、数社が整理を余儀なくされる等、地域経済は危機的状況にあるといっても過言ではない。

この中で、観光を、名実ともに、市を支えるもう一方の柱として確立することが、喫緊の課題となっている。

これまでの自然景観のみでなく、地域の資源を見直して、「魚食健康都市」、「気仙沼スローフード」都市の宣言を活かし、「食」、自然と産業の「体験」、そして、歩いて楽しめる港町の魅力を重点に、宿泊型の観光都市づくりに取り組むことが必要とされている。

また、平成14年9月に発足した気仙沼コンベンションビューロー協議会は、気仙沼市の都市資源を活用して、交流人口の増大による、宿泊、飲食、物産の振興、地域の活性化策に取り組んでおり、都市観光推進の一翼を担っている。

## (4) これまでの観光の取り組みとこれからの取り組み

### ①魚食健康都市宣言、海の道から、港まち恋人スクエアへ

昭和61年、「魚食健康都市」が宣言され、さらには、平成元年、ふるさと創生資金により出漁準備岸壁「海の道」が整備された。以降、自然景観のみでなく、人が生きる町場の魅力を見直し、また、現代的な車社会に適応した便利な街のみでなく、人が生きてきた歴史的な街並みの魅力を見直す機運が生じた。港町・気仙沼の文化・歴史を見直し、アイデンティティを再確立しようとする動きが始まった。

見学デッキを備えた魚市場北棧橋の新築、気仙沼産業センター「海鮮市場・海の市」の建設、「港ふれあい公園」の埋め立て造成、神明崎浮見堂の改築・ライトアップ、魚浜公園と浮見堂をつなぐ「浮見海道」の新設などが続き、平成11年の「市第四次総合計画」、同じく中心市街地活性化基本計画「気仙沼らしいオリジナリティと品格のある世界に誇る『港町スクエア』の建設」を経て、平成13年3月、気仙沼観光戦略会議の提言書において、一帯は、「日本有数の漁港である気仙沼の魅力を凝縮した場所であり、来訪者が真の気仙沼らしさを感じることでできる場所である」と位置づけられ、旅情あふれる「港まち恋人スクエア」としての整備が進められることとなった。

### ②気仙沼観光戦略会議

平成11年11月、「『観光』を気仙沼市のまちづくりのキーワードと捉え、市民と行政が一体となって観光戦略を策定することにより、名実ともに備わった個性あふれる『観光都市』気仙沼市を創造すること」を目的と掲げ、公募市民を含む気仙沼観光戦略会議が発足した。

市民の英知を集め、議論を重ね、平成 13 年 3 月、「観光都市・気仙沼づくりのための提言書」をまとめ、「リアス四季海岸―海と森と人の小宇宙」そして「港まち恋人スクエア」をイメージ戦略の要とし、「環境」、「食」、「体験」と「港町の魅力」を前面に、観光のまちづくりに取り組むこととなった。

### ③歩いて楽しめるまちづくりと観光客受け入れ態勢の整備

平成 15 年には、宝くじ資金の助成を得た「港まち恋人スクエア歩いて楽しめるまちづくり事業」による、歩行者用案内サインと解説板が設置された。

同年 7 月、JR 特別列車「こがね」の気仙沼線、大船渡線運行開始にあわせ、観光客受け入れ態勢整備の取り組みとして、周遊観光バスの運行（その後、平成 8 年から運行している見どころ観光地巡回バスと統合）や、翌 16 年度には、まちかどお休み処の設置、レンタサイクルの導入、散策ガイドの作成等、平成 17 年には「中小企業活性化総合支援事業」による内湾商店会の街路灯整備が行われ、都市観光の推進が図られている。

### ④「気仙沼スローフード」都市宣言

同じく、平成 15 年に、リアス式海岸の自然環境と漁港都市としての食の優位性を基に、「気仙沼スローフード」都市が、市議会の議決を得て、宣言された。

「地域のかげがえのない財産である風土と食文化を守り、次の世代に伝えていくこと、そして多様性を認め合う心豊かな人間性を育み、自然と調和する住みよいまちにしていこう」と願って、小・中・高生を対象にしたプチ・シェフコンテストや環境教育講座等に取り組んでいる。

### ⑤食、環境と体験

気仙沼漁港の多彩な水揚げ、沿岸漁業の産物を活かした「食」は、気仙沼の大きな魅力であり、観光客にとっても、主要な目的となっている。観光業界においても、「食」で失望させないことが、おもてなしのポイントとの意識は高まっている。

また、「森は海の恋人」運動の発祥地として、漁業の営みと結びついた貴重な自然環境をアピールしており、学校向けの体験学習、教育旅行の受入れも重点的に取り組み、特に大島体験旅行予約センターを窓口にした気仙沼大島観光協会はメニューも充実し、近年、大きな実績を挙げつつある。

### ⑥風待ち研究会による貴重な建物群の再発見

平成 14 年、民間団体「風待ち研究会」が発足し、その調査活動により、内湾周辺は、昭和 4 年の大火後に、当時の伝統的な大工の技とモダンな職人の技で作り上げられた特徴ある街並みであることが再発見された。これまで、ありふれたものと見過ごされてきた建物が、実は、貴重な文化資源であることが明らかとなった。平成 15 年の活動成果報告書「昭和初期の建物の並ぶ町 in 気仙沼」で、10 件の建物調査が報告された。既に、一帯で 5 件の国の文化財登録が行われ、更に、調査・申請が進められている。

平成 16 年度に、風待ち研究会景観検討委員会が、ハウジング・アンド・コミュニティ財団の助成を受けて「気仙沼市風待ち区域の景観計画」が策定された。

### ⑦内湾商店会、活性化集団「粋」、そして、夢波止場実行委員会

内湾周辺の5つの商店会が集まって、内湾商店会を組織、内湾奥の観光棧橋エースポート、港ふれあい公園を会場に、定期的に「青空市」が開催されている。

また、市内若手店主のグループ・活性化集団「粋」が、昭和レトロの港町をテーマに、魚町地内の空き店舗を拠点に、商店街の活性化を目指し活動されている。

平成16年度の「観光客受入れ体制づくり支援事業」の4回連続講座に参加した、観光業界の若手経営者を中心に夢波止場実行委員会が結成され、内湾一帯の観光のまちづくりを推進するため、モニュメント・マストのライトアップや手作りの波止場出前テーブルの製作、設置など、出来ることはすぐに実行することをモットーに活発な活動を行っている。

### ⑧国土交通省支援調査事業等の実施

平成17年度、国土交通省の「都市観光の推進による地域づくり支援調査事業」の採択を受け、「気仙沼市風待ち区域の景観計画」の中の提案事項を取り上げて、実験的に事業化するとともに、内湾商店会の定例イベント「青空市」と協調しつつ、景観アンケート等を実施、交流人口の増大に資するところを検証し、名実ともに備わった観光都市への一歩を進めることとなった。

平成18年度は、同じく国土交通省「地域再生等担い手育成支援調査事業」の採択を受け、「観光コンシェルジュ」制度の創設や、中心市街地の賑わい創出に取り組むことになった。

### ⑨広域観光連携の推進

先の「気仙沼観光戦略会議」の提言にも挙げられているが、平泉、松島等との広域連携の重要性は、市内においても認識が進んでおり、平成17年11月のシンポジウムにて、東北の母都市である仙台市、松島町、平泉町と、気仙沼市の4首長による共同宣言を行い、「平泉―浄土思想を基調とする文化的景観」の世界遺産登録を弾みに、国際競争力のある観光地を目指し連携を強化することとしている。

## (5) 観光モニター体験調査

①実施日時：平成18年8月9日（水）

②出席者（敬称略、順不同）：

仙台市：観光交流課佐藤主幹、原野主事、（財）仙台観光コンベンション協会 小島  
気仙沼市：橋本観光課長、千田課長補佐  
松島町：齋藤産業観光課主事、（社）松島観光協会 猪俣  
平泉町：齋藤農林商工観光課長、小野寺主事、（社）平泉観光協会 山平事務局長  
東北産業活性化センター：今野プロジェクト振興部長、我妻課長代理  
東北地域環境研究室：伊藤

### ③観光体験コース

- 11:10 気仙沼駅前発（気仙沼市マイクロバスで移動）
- 11:20 気仙沼市観光物産センター（エースポート）
- 11:40 エースポート発（大島汽船で移動）
- 12:05 大島・浦の浜着ご昼食、その後気仙沼観光現状レクチャー
- 13:45 亀山リフトで頂上へ
- 15:50 大島浦の浜発
- 16:15 エースポート着
- 16:15~17:00 散策（港まち恋人スクエア、風待ちエリア）
- 17:20~17:50 海鮮市場・海の市 会議室にて意見交換

### ④調査結果

#### 【道路アクセス】

- 松島町から気仙沼市までは標識があり、迷うことなく着いたが、市街地に行く道で「後どれくらいで市内中心部なのか」がわからなくなった。（標識を見落としてしまったと思うが）わかりやすい標識があれば良いと思う。
- 三陸自動車道が気仙沼まで整備されれば、時間が短縮でき、気軽に気仙沼を訪れることができると思う。（高速と一般道を利用し、松島から片道2時間15分は、日帰りドライブとしては疲れてしまう）
- 帰路のとき、国道45号線と284号線の分岐の交差点が、わかりづらかった。
- 仙台から一関経由で284号線を車で移動したが、一関ICからの標識がわかりやすく、迷うことはなかった。

#### 【気仙沼駅】

- 乗り換えや待ち時間等を考慮すると、電車で松島から気仙沼に行く気にならない。以前、仙台駅から気仙沼駅（東北本線）までの直行快速に、松島からも乗車可能で、このときは、電車を利用し気仙沼に行ったこともある。列車で向かうお客様にも勧めるところができ、利便性もあった。復活はないのでしょうか？
- 仙台8:51 発南三陸1号（気仙沼駅10:59）は、乗り換えもなく便利であるが、在来線車内（向かい合せボックス型座席）での2時間は、かなり長く負担を感じる。
- 1番ホームの一部が傾いており、車椅子や高齢者には少し危ない。
- 駅のロッカーは、屋外（屋根付）にあるが、荷物を預けるのにはやや抵抗感が・・・



1番ホームの傾斜、ラインはあるのだが・・・



駅舎脇に設置されているコインロッカー

## 【気仙沼駅前観光案内所】

- 利用者が休めるスペースがあるのは良い。  
（ソファ・テーブル）
- 担当者の方の感じが良かった。
- レンタル自転車置き場がもったいない気がする。ポスターやパンフレット展示スペースとして活用したら、もっと気軽に観光客が立ち寄れるのではないか。
- レンタル自転車が、エースポート等の観光施設に乗り捨てできるシステムは非常に良い。
- レンタサイクルの乗り捨て可能な点は良いと思った。
- レンタル自転車の利用度は高くないようだが、キーを提示すれば割引が受けられるとか、レンタル料金＋入館料＋昼食＋割引などの、お得感のあるパッケージ型のフリーパスチケット等によって、利用しやすく、まちなかをゆっくりと移動させ、かつ経済効果が期待されるようなソフト的な取り組み方法もあるのでは。鳴子温泉の湯めぐり手形の気仙沼版のようなやつ
- 安全性に配慮した転倒しにくい3輪自転車トライクも数台入れてみては。
- （参考：秋保里センターでも自転車の貸し出しを行っている。基本的には無料だが預かり金 1,000 円をいただいている。H17 年度利用者は 358 人）
- カウンターが多少高く、利用者は立ってしか利用できず気後れしてしまう。（参考：仙台駅総合案内所や田沢湖駅内の観光案内所フォレイク等は、ローカウンターの椅子式で圧迫感がないため、気軽に話しかけやすい。）



気仙沼駅前観光案内所



同案内所内のレンタサイクル置き場



同案内所内のカウンター



仙台駅内の総合案内所のカウンター



田沢湖駅内の観光案内所のカウンター

**【巡回バスのバス停】 AB区間 250 円、小学生 200 円 どちらか一つの区間 150 円、小学生 100 円**

- ・ 平日に電車利用で気仙沼駅に着いた場合にエースポートまで行く市内巡回バスがないのは観光にとっては不便。夏のシーズンだけでも平日に巡回バスを走らせられないのか？
- ・ 土・日・祝日運行とのことだが、表示が小さく運行日もわかりづらい。
- ・ 時刻も小さく、雨に濡れたせいか、カバーもよれており、改善の必要あり。

駅前巡回バス乗り場の時刻表

**【気仙沼市観光物産センター（エースポート）】**

- ・ エースポートに駐車場が隣接され良い。駐車場の台数確保も十分であると感じた。
- ・ 汽船の時刻表が発券所に掲げてあり良い。（松島とは違う）
- ・ 1階の待合いロビーは中途半端。
- ・ ガラス越しのチケット売り場は親近感がわかない。
- ・ 1階にロッカールームがありながら、サイン表示もなくわかりづらい。
- ・ コインロッカーの場所がわかりづらく、小さいサイズのロッカーだけで、大きいサイズのものなかった。（松島の場合は大きいサイズもあり、ロッカーに入らない荷物は同料金で預かっている。手荷物預かり所はあるのでしょうか？）
- ・ 折角職員がいるのであれば、手荷物預かりでもよいのでは。スローツーリズムを目指すのであれば、地域の人々と可能な限り接触させる場面を意図的につくる方が、気仙沼の印象が深くなると思う。
- ・ 観光客は面倒くさいのが嫌い、チケット売り場で荷物を預けて、大島の民宿まで運んでくれるようなチェックインできるような、有料サービスがあったら便利かも・・・。
- ・ 2階の展示関係は、全体的に魅力に欠ける。物産品については展示品がくすんでいると、かえって購買意欲をそぎ、逆効果になるのではないか。
- ・ 地域の方たちの？展示コーナーには、解説文が少なかったように思う。せっかくの展示品の魅力が伝わってこない。
- ・ エースポート2階の牡蠣棚の模型などの展示があり良かった。



エースポート内の乗船チケット売り場



エースポート内待合いロビー



- 宿泊相談についての対応窓口が2階にあるので、1階に移転できれば気軽に立ち寄れるのでは。また、1階に売店があるが2階の空きスペースを利用して物産コーナーとして充実させてはどうか。
- まず2階はどうしても敬遠される。ガイド詰め所、会議室等の利用は良いのであろうが、観光客が利用するような窓口案内機能や物販施設等は、よほどのものでないと利用されないと考えべき。
- 観光協会が2階にあり、観光客が気軽に利用できるのか疑問であった。
- 身障者用のトイレに簡易ベッドがない。成人のオムツ交換はどのように対応しているの？
- 松島では授乳室の利用が多いが授乳室がなく、対応に苦慮している。エースポートにも授乳室はなかったがその対応は？



2階にある観光協会

#### 【大島汽船】 往復 800 円、子供 400 円、えびせん別途料金

- 桟橋にテントがあるのは、暑さや雨が凌げるので良いと思った。
- 船の乗り心地は快適で、デッキでのかもめのえさやりも楽しかった。かもめのえさやりも観光になると思う。こんな風にえびせんをあげるといいですよ、かもめの子どもは茶色ですよ、くちばしがぶつかってもそんなに痛くはないですよ、などということを書いた説明板を作ってえびせんを売る。えびせんは小袋も販売する。
- 運賃が 100 円 200 円上がっても、えびせんを無料提供し、かもめのえさやりを楽しませた方が良いと思う。ただならやってみようと思う観光客も多いはず。お客さんに満足してもらい、事業者にもメリットがあるような工夫を。
- 安ければ良いということではなく、高くともそれ以上の満足度をいかにしたら与えることができるかが重要。湯布院などはその好例。
- 汽船は、住民にとっては日常の足であるが、観光客にとっては、観光の一つであり、大島観光の第一歩である。船内での観光案内は無理かと思うが、何か一工夫欲しい。
- 乗船券を下船してから集めるという案内が必要。
- 旅行時の乗船券やパンフレットを見て後でも楽しむので、大島への乗船券は観光の雰囲気がなく、味気なかった。気仙沼の見所の写真の半券でもあれば旅の思い出になると思う。



大島汽船のデッキで楽しめるかもめのえさやり



大島汽船の室内

【大島（船着き場～亀山）】 亀山リフト：大人往復 700 円、片道 500 円

- ・ 浦の浜の船着き場の周辺が寂しいように思った。大島の第一印象になるので残念。
- ・ 船着き場の建物も普通で、大島についても、チケットのもぎりを受けるだけ。ホスピタリティ面でもう一工夫が欲しい。（参考：大間ではフェリーで来訪する観光客のために、ウェルカム旗振り隊が大漁旗で、歓送迎してくれる。そこまではと思いますが・・・）
- ・ 亀山リフトは、古いという説明を聞いていたので不安だったが、とても快適に楽しめた。木立の間を行くとき、セミの合唱が素晴らしく、観光案内放送がなかったらもっと良かったのに・・・と思うほどであった。係員の方も親切。
- ・ 大島のリフトは所要時間が長いため、2人乗りであればカップルや友人で乗って、楽しさが共有できて良いのではないか。
- ・ 亀山リフトは、リフトや展望台がきちんと整備されていてよい。古さを感じさせないよう綺麗に塗装されており、係の方も親切・丁寧な接客態度で楽しかった。存続を望む。
- ・ レストハウスに展望台からの眺めの写真を展示したらどうか。（展示してあったかもしれないが・・・）天気が悪いときはこの写真を見てもらい、素晴らしい眺めを味わってもらえるし、空きスペースの活用にもなる。
- ・ 亀山にリフトで昇ったが、あいにく霧のため視界が利かなかった。展望台付近に何枚か風景写真や風景画（もちろん風雨に耐久性のある素材のもの）が設置されていれば、お客様の失望感を少しでも慰めることができるのではないか。
- ・ 山頂で素晴らしい景色が眺望できるはずであったが、あいにく霧で何も見えない。リフトで上ってくる人も多く、観光客の不評を買わないよう、チケット売り場で、山頂の眺望の状況を情報提供をすべきであろう。
- ・ 3人の職員がリフト降り場で対応しているが、ここよりも、浦の浜の船着き場での送迎を工夫した方が、観光客の心に残る。
- ・ 亀山リフトのスタッフ紹介サインは、ほのほのとして好感が持てた。
- ・ 大島での見学時間が欲しかった。（体験学習など）



浦の浜の船着き場



亀山山頂はあいにくの霧



亀山リフト降り場



亀山リフトスタッフの紹介

## 【内湾散策】

- ・ 浮見海道は素晴らしいが、もう少し距離があるともっとよい。少しもの足りない。
- ・ 浮き見堂の景観は、気仙沼の景観スポットの一つなのだが、民家が混在しており、ライトアップの時以外は、イメージアップに繋がっていない。時間をかけて丁寧に景観整備に取り組んで欲しい。
- ・ 山内宏泰氏の愛嬌あるほのぼのタッチのイラストを、パンフレットだけでなく街内の看板でも使用し、統一感があってよい。
- ・ 浮見海道にあるイラスト案内板が、読みやすく、ふと足を止めて読んでしまう作り。でもガムテープの汚れはいただけない。
- ・ 管絃窟、遊歩道とも、恋人スクエアという名前から想像する雰囲気はまだ持っていないのが残念。
- ・ 管絃窟に物語性を持たせているのであれば、周辺の整備をした方がよい。「恋人スクエア散策ガイド」のイラストを見て、その場所に行っても「これで、成就する訳？」と疑問を持つと思う雰囲気。また、二人でここに来ようねと思わせる雰囲気作りが必要。
- ・ 屋号がある店構えは面白い。暖簾の活用はよい考え。観光客が入りやすい店構えをしていけば、散策も楽しくなる。
- ・ 商店街の昭和を感じさせる町並みは、まるでタイムトリップしたかのように驚いた。ただ「気仙沼風待ち地区」のパンフレットイラストにあるような統一感は、現在感じられないので更なる徹底を望みたい。
- ・ ノスタルジックなポスターのイメージが体験できるように、波止場の照明や魚町屋号通り等のライトアップを工夫して雰囲気が出せるとよい。
- ・ 擬洋風建築やレトロな町屋、店蔵などの景観整備は、個人の努力だけでは難しい。また、自治体の財政も厳しい時代だけに、基金などによって、着実に一棟ずつ整備していかなければいつまでたっても進まない。  
(参考：村上市では、市民基金によって町屋の外観再生や、観光客の支援金によって黒塀1枚 1,000円運動を展開し、着実にまちの景観を整備している。)



浮見海道



イラストタッチの説明板



浮見堂付近の景観



暖簾を活用した景観づくり

- 魚町の町並みが再現されればもっと良くなると思う。
- 武山米店などの店舗の見学ツアーがあれば面白いと思う。
- 気仙沼駅から内湾に出るまでの商店街にも、「港町」を感じさせるものがあればいいと思う。街路灯の飾りはサメだったが、目立たないように思う。

## 【氷の水族館、リアス・シャーク・ミュージアム、海鮮市場「海の市」】

氷の水族館：大人 300 円、中高生 200 円、小学生 100 円

リアス・シャーク・ミュージアム：大人 400 円、中高生 300 円、小学生 100 円

- どちらもユニークな展示施設で楽しめた。サメに触れる体験コーナーも良い。
- リアスシャークミュージアムでは、トラザメに触ることができて新鮮だった。館内では気仙沼の観光案内映像を見ることができて楽しめた。館内での気仙沼ラーメン、ふかひれラーメンへのアプローチとして効果的であると思う。
- リアスシャークミュージアムと氷の博物館は共通入場券もあるが、別々に料金設定がなされている。氷の博物館はそれほど大きな施設ではないので、料金的には統一した施設として、共通入場券だけ販売してはどうか。
- 海の市は、閉館間際であったため、魚介類が少なく、期待したほど安くもないように感じた。
- リアスシャークミュージアム、氷の水族館は初めて訪れたが、面白くて人に勧めたい。同じ場所にあるのだから、2館共通券だけにして、少し安くしたらどうか？（十分安いと思うが）



氷の博物館



トラザメに触ることが出来る

## 【食】

- 海鮮丼 1,000 円。さすが海産物の「食」を前面に出したスローフードをというだけあって、食材は新鮮。値段も手頃。
- ふかひれラーメンは美味しかった。気軽に食べられる値段であれば、次も食べたいと思う。
- ふかひれラーメンは、ふかひれが麺の上のっているだけでなく、麺にもふかひれエキスが練りこまれコラーゲンたっぷりであることを知り興味が増したので、そうした情報を積極的にPRしたほうが良い。



海鮮丼

- 一杯 1,600 円。値段は安くないが味は絶品。麺にもフカヒシのエキスが練り込んであり、説明されると納得できる。フカヒシづくり、麺づくりの物語を楽しく上手に、伝えることが付加価値を高めるためには必要。
- ラーメンが出てくるまで、随分時間がかかった。これもスローフード運動の戦略の一部だったのか??
- この次は、さんま出汁の気仙沼ラーメンや、お寿司を食べてみたいと思わせる。



ふかひれラーメン

### 【情報発信】

- 日本有数の漁港であることを前面に出した見せ方を展開してはどうか。特徴的な漁船の展示（実際に乗って中を見学できる）、そこで漁の方法を解説（ビデオでも可）すれば、大人の好奇心も刺激するのではないか。実際に漁の内容、大変さなどを知れば、魚の味もまた格別になる。
- 「食」は気仙沼観光の大きな目玉だと感じる。食に関するパンフレットはあるが、ジャンル別編集ではないのが惜まれる。ふかひれは希少価値を持ち、高価だが魅力的な食材だと思うので、かつて作成していたという「ふかひれマップ」の再発行を望みたい。
- 飲食店ガイドマップは便利。気仙沼らめん団のPRページがあるとよい。
- ふかひれラーメンの暖簾は、観光客にとって安心して食事ができるという点で良い。ただ、暖簾の意味がパンフレットに掲載されていないので、暖簾の意味が分からないと思う。魚拓かと思ってしまうかも。（駅前の店舗はそんな感じに貼付してあった）
- 気仙沼ラーメンの幟旗の図柄は、Tシャツにして、宣伝広告PRや土産品にしたら面白い。コストもさほどかからない。皆で着ることが話題づくりになり、情報発信ツールとして大いに活用されたいかがでしようか。提案です。
- 外国語併記の案内板やパンフレット等が今後必要になってくると思った。
- 散策ガイドが読みやすく良く、また市内随所に街の案内図があり良かった。
- 気仙沼の魅力（観光資源や特産品、食など）は、初めて訪れる人にとっては良く分からない。このため、観光客が15~20分くらいの映像で予習して、観光をスタートすることができるような場所が必要なのではないかと感じた。その場合、観光客が一番利用しやすい場所が適切な施設になる。
- 少なくともふかひれラーメンは売り上げが伸びますよ。現実に紹介ビデオを見て、皆食べてみたわけですから。観光客は、寿司や海鮮丼も食べたいというニーズも当然あるので、半々セットとか、半盛りふかひれラーメンというようなバリエーションもあるともっと良いかもしれません。



気仙沼ラーメンの幟旗

## 【その他】

- 駅前に着いたとき、時間をつぶしたり、休憩できそうな場所が、目に付くところに見当たらず不便に感じた。駐車のことを考えると気軽にどこかに寄れず、市内を車でぐるぐると回り、コンビニで一休みをした。
- 最初の車窓から眺めた印象は、大島以外は魅力がある街なのかわからないというのが本音。いろいろと散策をしたりすると、発見がある街だった。
- 海産物の新鮮さには感動した。食の新鮮さを大きく打ち出し、宿泊と食事を分け、市内に宿泊客を外出させる工夫があれば面白いと感じた。
- 「食」のまちとしてアピールするのであれば、泊食分離の展開策を検討して欲しい。まちなかで、美味しいものを食べたいニーズは少なくないはず。その際、ホテルの賛同が得られるかが大きな鍵。
- 天候が曇り時々小雨だったせいか、港町の活気があまり感じられなかった。港町・賑わいを表す一つのツールとして大漁旗などの活用も良いのでは。
- いかにも昭和の映画ポスターのパロディといった感じの新作ポスターが印象的だった。特色をいかして映画のロケ地として整備してはどうか。
- 乗り合いジャンボタクシーの料金が高く、選択肢に入らない。
- 気仙沼には、全国的な知名度の高い観光資源はなく、交通アクセスにも恵まれていない。しかし1回だけでは良く分からないという奥深さを感じる。そのあたりが気仙沼の魅力なのかも・・・



漁船の並ぶ風景は気仙沼港を象徴する風景

## (6) 気仙沼市の観光の特徴、強み弱み



気仙沼湾の景観



気仙沼はサンマのまちとして有名

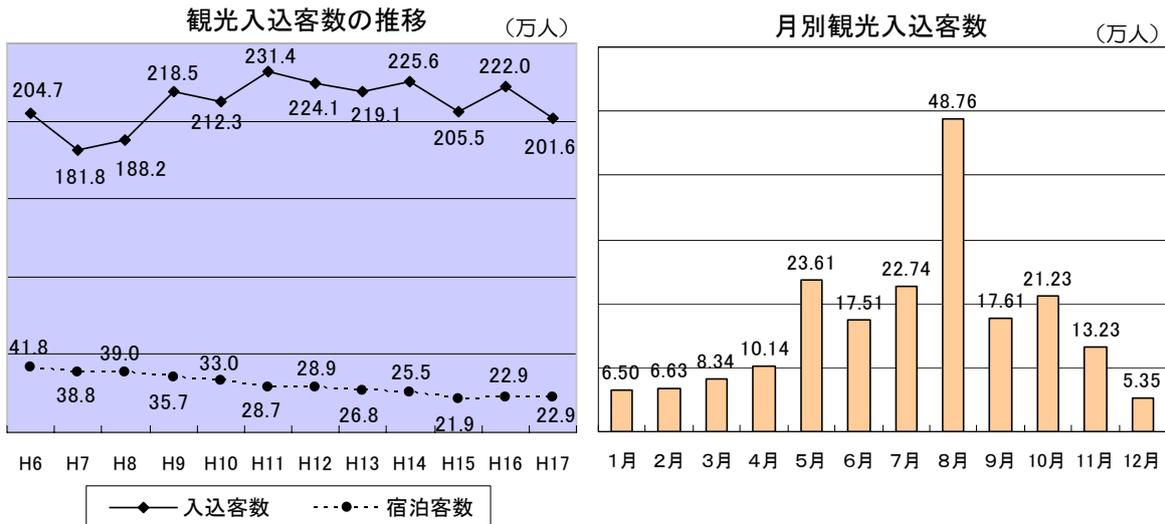
### 【参考資料】

- \* 1 「平成 15 年度観光動態調査及び経済波及効果調査報告書」平成 16 年 3 月  
宮城県産業経済部観光課  
サンプル数：観光地点 584 男性 53.9%、女性 46.1% 手法：ヒアリング  
宿泊地点 398 男性 52.5%、女性 42.7%、無回答 4.8% 手法：留置法
- \* 2 「平成 17 年度観光動態調査」平成 18 年 3 月 気仙沼湾観光協会  
サンプル数：106 男性 79.8%、女性 20.2%  
対象：ホテル宿泊客 観光案内所 手法：留置法
- \* 3 気仙沼市産業部観光課資料
- \* 4 宮城県観光統計概要 宮城県産業経済部観光課
- \* 5 「気仙沼地域における食の活用による観光振興調査」平成 14 年 3 月  
財団法人東北産業活性化センター
- \* 6 「東北じゃらん 2006 年 10 月号」人気観光地ランキング  
サンプル数：1,221 対象：読者 手法：投函
- \* 7 「地域ブランド調査 2006 市版」株式会社ブランド総合研究所  
サンプル数：24,536 全国 779 市を調査対象 調査方法：インターネット  
調査

# 1

## 観光入込客数

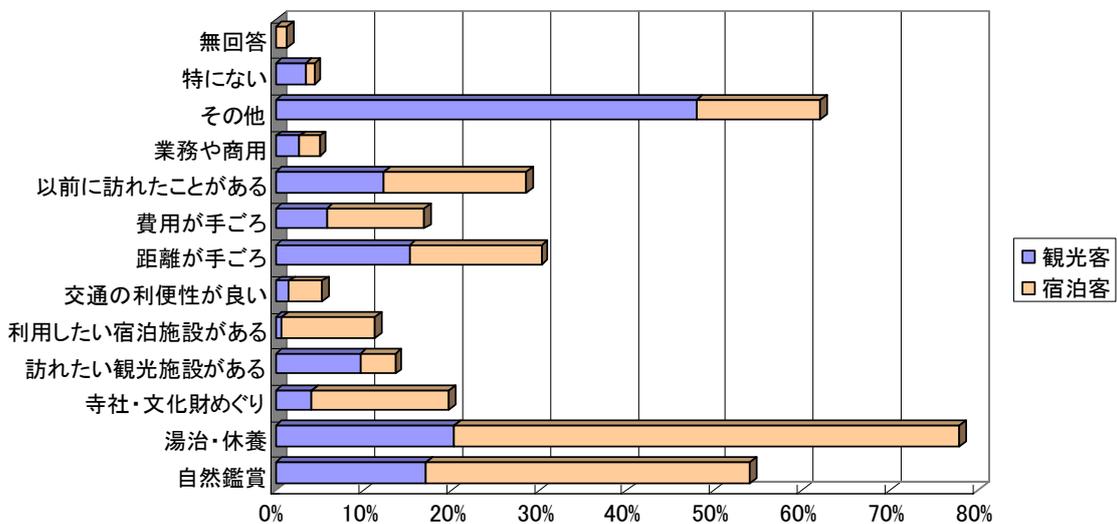
- 平成 11 年の 231.4 万人から微減傾向 \*4
- 夏休みと海水浴シーズンが重なる8月がハイシーズン \*4
- 観光客は宮城県内からの来訪者が多い \*1  
(仙台市 8.6%、仙台市以外の県内 36.1%)



# 2

## 観光目的

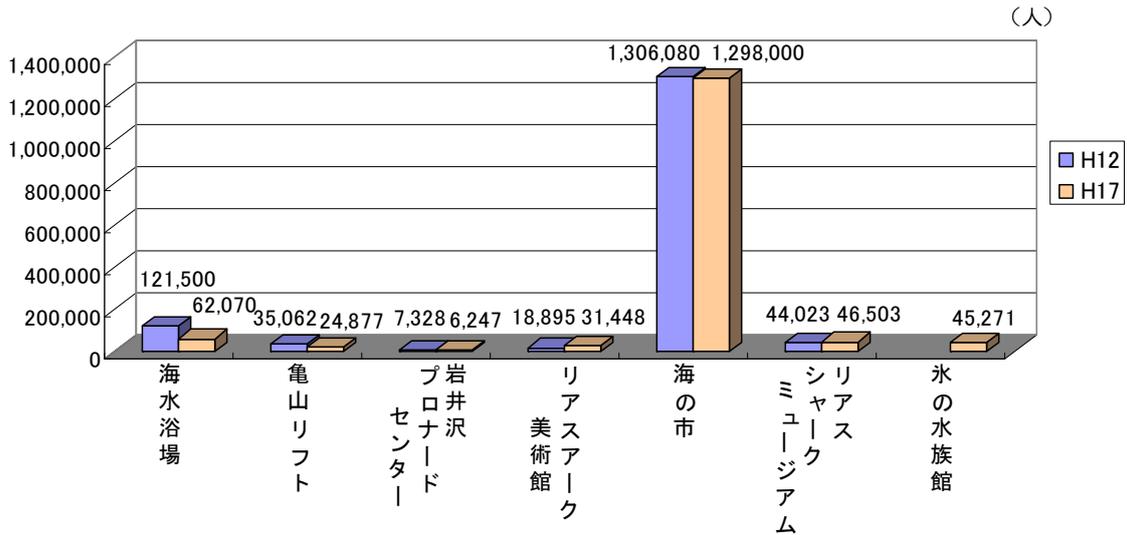
- 来訪者の目的は、「湯治・休養」。「その他」の回答も多い \*1
- 他のアンケート調査結果では、宿泊客の来訪目的は、「海鮮の食事」、「魚市場を見る」、「漁港風景」、「魚介類の買物」が上位に来ている \*2



# 3

- ほとんどの観光客が「海の市」を訪問 \*3
- 海水浴場は、シーズンの天候で大きく変動 \*3
- 「海の市」、「氷の水族館」、「亀山リフト」共、減少傾向 \*3
- 逆にイベント客は、増加傾向 \*3

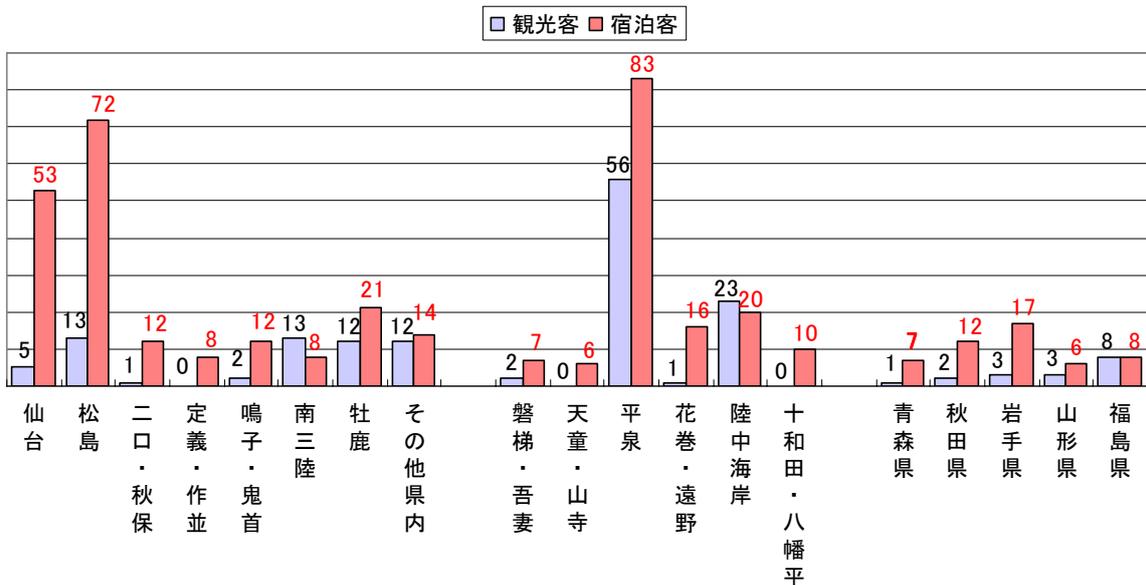
## 訪問先(市内)



# 4

- 気仙沼以外の宮城県内の訪問先は、「松島」「仙台」「牡鹿」\*1
- 県外の訪問先で一番多いのは「平泉」、次が「陸中海岸」\*1

## 訪問先(市外)

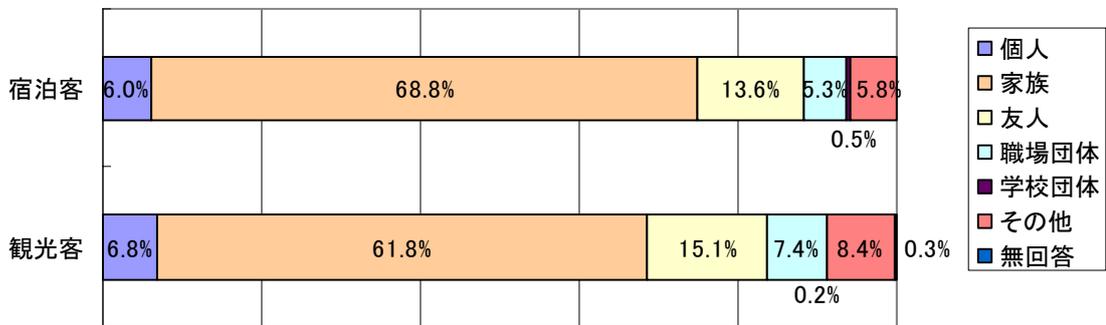


# 5

## 宿泊客

- 宿泊客数は、平成4年をピークに減少してきたが、平成15年以降は、約22万人前後でほぼ横ばい（P11 グラフ参照）\*3
- 大島エリアは、民宿数の減少から漸減傾向にあったが、島の学校等の体験型観光が、徐々に成果を見せ始め、下げ止まり傾向を見せている \*3
- 宿泊客の30.9%が県内、30.6%が関東、26.0%が東北 \*3
- 宿泊者の68.8%は家族 \*1

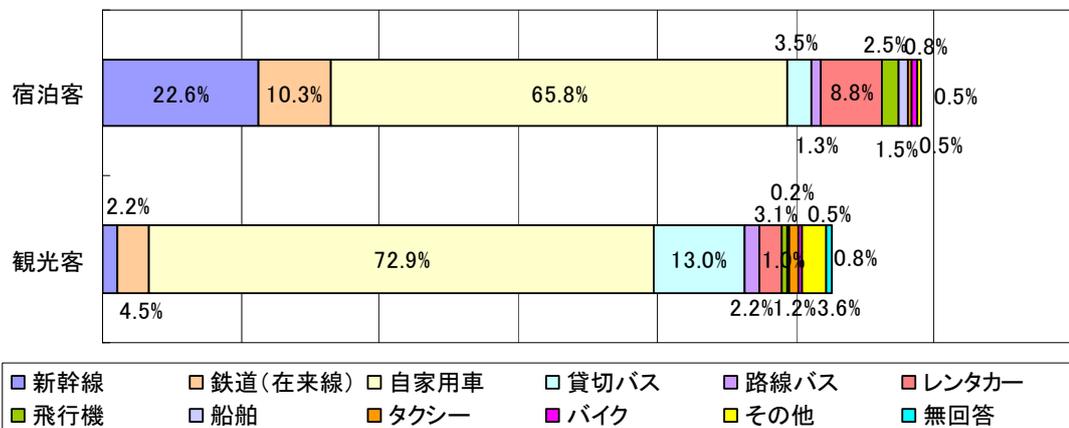
宿泊客・観光客の同伴者



# 6

## 利用交通

- 【利用交通】：約7割が「自家用車」利用 \*1  
(観光客 72.9%、宿泊客 65.8%)
- 【新幹線】：宿泊客の約2割は新幹線利用 \*1
- 【巡回バス】：運行日数は137日 利用した人は僅か2,876人 (H17実績) \*3 27%が「知らなかった」\*2
- 【旅客船】：大島の民宿数の減少に伴い、利用者数も減少傾向にあったが、近年は30万人前後で横ばい \*3



# 7

## ニーズ

- 訪れたい季節は「夏」35.3% \*2
- 「今年行ってみたい観光地」では宮城県内第2位 \*6
- 市の魅力度ランキングで、気仙沼市は全国91位37.6点 \*7
- 気仙沼の魅力は、新鮮な魚介類を活かした「食」\*2

今年行ってみたい観光地 東北 BEST10

1	秋保温泉	宮城	235
2	男鹿半島	秋田	195
3	銀山温泉	山形	192
4	乳頭温泉郷	秋田	151
4	スパリゾートハワイアンズ	福島	151
6	アクアマリンふくしま	福島	144
7	けんじワールド	岩手	137
8	奥入瀬溪流	青森	127
9	気仙沼市・志津川	宮城	123
10	鳴子温泉郷	宮城	120

今年行ってみたい観光地 東北6県毎 BEST5

青森		宮城		山形	
1	奥入瀬溪流	1	秋保温泉	1	銀山温泉
2	黄金崎不老ふ死温泉	2	気仙沼・志津川	2	鶴岡(湯野浜・湯田川・温海)
3	十和田湖	3	鳴子温泉郷	3	山形蔵王
4	浅虫温泉	4	松島・塩竈	4	かみのやま温泉
5	下北半島	5	仙台市	5	肘折温泉
6	白神山地	6	作並温泉	6	白布温泉
7	弘前市	7	遠刈田温泉	7	米沢市
8	津軽半島	8	女川・石巻・牡鹿半島	8	天童温泉
9	八戸市	9	宮城蔵王	9	山寺
10	酸ヶ湯温泉	10	栗駒	10	酒田、さくらんぼ東根温泉
岩手		秋田		福島	
1	けんじワールド	1	男鹿半島	1	スパリゾートハワイアンズ
2	花巻・花巻温泉郷	2	乳頭温泉郷	2	アクアマリンふくしま
3	小岩井農場	3	角館	3	二本松・岳温泉
4	安比高原	4	玉川温泉	4	会津若松市(東山・芦ノ牧)
5	宮古市・浄土ヶ浜	5	十和田湖	5	猪苗代
6	遠野	6	田沢湖	6	大内宿・湯野上温泉
7	雫石・鶯宿温泉	7	大曲	7	裏磐梯
8	龍泉洞	8	小安峡温泉郷	8	飯坂温泉
9	つなぎ温泉	9	八幡平	9	喜多方市
10	一関温泉郷・蔵美溪	10	鳥海山	10	磐梯熱海温泉

もう一度行きたい観光地 東北 BEST10

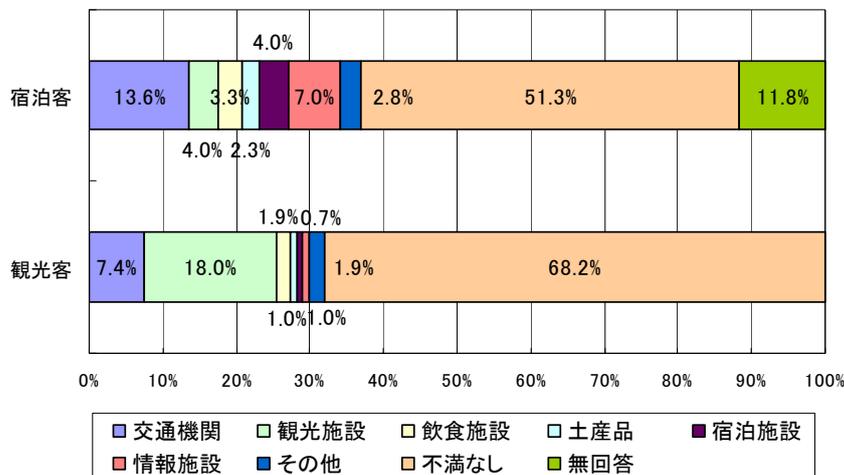
1	乳頭温泉郷	秋田	51.1%
2	アクアマリンふくしま	福島	51.0%
3	銀山温泉	山形	48.4%
4	黄金崎不老ふ死温泉	青森	44.2%
5	奥入瀬溪流	青森	43.1%
6	けんじワールド	岩手	42.6%
7	小野川温泉	山形	41.9%
8	肘折温泉	山形	40.6%
9	会津若松市(東山・芦ノ牧)	福島	39.7%
10	磐梯熱海温泉	福島	37.9%

# 8

## 満足度

- 「不満はなかった」観光客 68.2%、宿泊客 51.3% \*1
- 観光客が不満に感じたことは「観光施設」18.0% \*1
- 宿泊客が不満に感じたことは「交通機関」13.6% \*1
- 他アンケートでは「遠い」15.9%「交通機関」14.6%が不満 \*2
- 美味しかった料理は、「刺身等の海鮮料理」38.1%⇒「寿司」11.9% ⇒「ふかひれラーメン」7.1% \*5

旅行中に不満に感じたこと



行って良かった観光地 岩手県、宮城県 BEST5

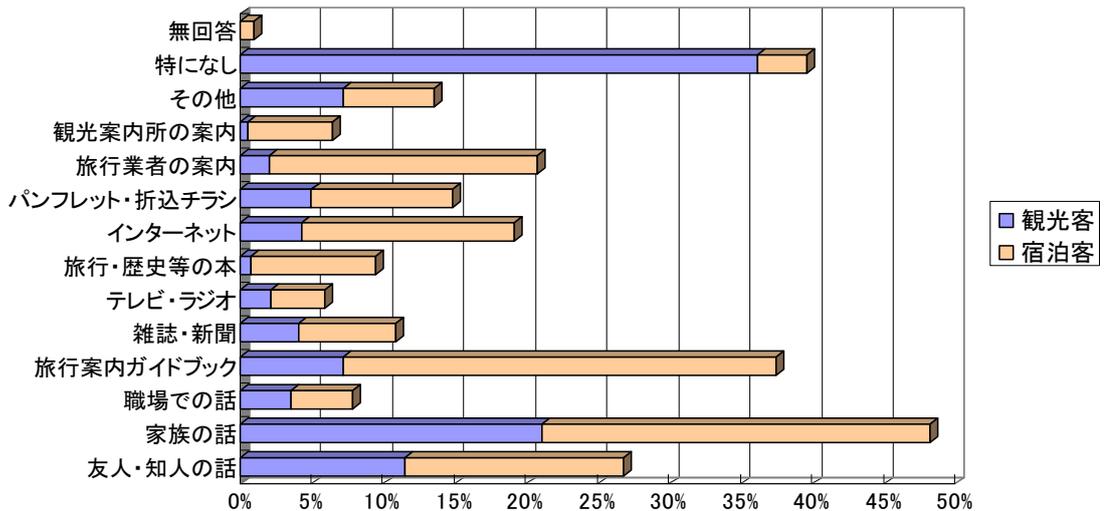
岩手	
1	八幡平 52.6%
2	けんじワールド 47.5%
3	龍泉洞 46.7%
4	猊鼻溪 45.1%
5	安比高原 44.4%
宮城	
1	栗駒 49.0%
2	松島・塩竈 44.5%
3	作並温泉 43.9%
4	鳴子温泉郷 42.4%
5	仙台市 39.8%

# 9

## 情報提供

- 観光客の情報源は「特になし」36.1%⇒「家族や親戚の話」21.1% ⇒「友人・知人の話」11.5% \*1
- 宿泊客の情報源は「旅行案内・ガイドブック」30.2%⇒「家族や親戚の話」27.1%⇒「旅行業者の案内」18.8% \*1
- 観光案内所の利用客数は、年1～1.3万人（H17 13,047人） \*3

観光地を選ぶのに参考にした情報源

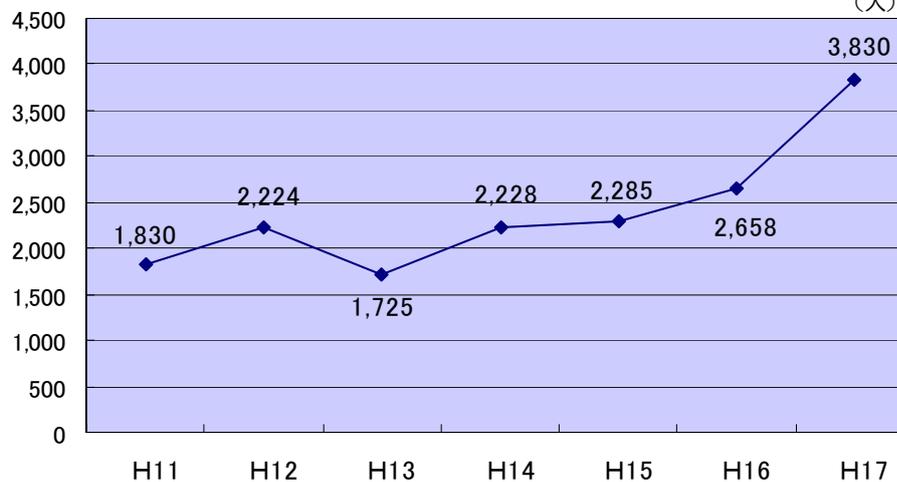


# 10

## 訪日旅行者

- 石巻・気仙沼の外国人観光宿泊客数は、増加傾向 \*4
- 観光目的の訪日外国人の訪日動機は、「日本人の生活の見聞・体験」32.1%⇒「買物」31.9%⇒「日本への憧れ」29.2%⇒「日本食」26.8%⇒「自然・景勝地」24.4%⇒「リラックス・温泉」23.1% ⇒「歴史・町並み・建造物」16.2%⇒「伝統文化の見聞・体験」15.0%の順 \*8

石巻・気仙沼の外国人観光宿泊客数



## 気仙沼市観光の強みと弱み

種別	強み	弱み
<b>地域特性</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リアス式海岸の特異な景観美 (陸中海岸国立公園)</li> <li>• 全国屈指の漁港都市で、海産資源の豊かな町：H17 水揚量 11.9 万 t・水揚額 217 億円で共に全国 9 位 (特にふかひれ、サンマは有名)</li> <li>• 夏涼しく、冬は東北地方としては温暖で降雪量は少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 首都圏や仙台、盛岡等の大都市から遠い</li> <li>• 基幹産業である漁業の水揚額が大きく減少。特に遠洋マグロ漁業は、グローバル化の影響を受け厳しい状況</li> <li>• 中心市街地は賑わいを失い、シャッター通り状態</li> <li>• 人口は、昭和 55 年をピークに減少傾向</li> </ul>
<b>観光 入込客数</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 海水浴、みなとまつりが開催される夏季の入込客数が多い</li> <li>• 入込客数 100 万人以上の観光施設「海の市」を有している *3</li> <li>• 体験学習の入込数が増えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 季節格差が大きい</li> <li>• 夏季がハイシーズンで、入込数は天候に大きく左右される</li> <li>• 「海の市」に一極集中</li> </ul>
<b>交通</b>	<p><b>【鉄道】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 仙台⇄松島⇄気仙沼⇄平泉を結ぶ特別列車「こがね号」が1日1往復運行 (仙台⇄気仙沼間2時間23分)</li> <li>• 仙台からの直通電車「快速南三陸号」が1日1往復運行(2時間8分)</li> <li>• 一関⇄気仙沼間1時間20分</li> </ul> <p><b>【車】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 駐車場 10 箇所</li> <li>• 総収容台数：普通車 898 台、バス 50 台</li> </ul> <p><b>【バス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 市内の主な観光施設を巡る「見どころ観光地巡回バス」が運行</li> <li>• 東京⇄気仙沼間の夜行高速バスが、1日1往復運行(7時間30分)</li> <li>• 仙台⇄気仙沼を結ぶ都市間バスが、1日8往復運行(約2時間30分)</li> <li>• 一関⇄気仙沼間の特急バスが、1日9往復運行(約1時間10分)</li> </ul> <p><b>【航空機】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「こがね号」の運転日が土・日・祝日に限られている</li> <li>• 仙台からは、東北新幹線(一ノ関駅乗継)⇒大船渡線 あるいは東北本線(小牛田駅経由)⇒気仙沼線の方法があるが、いずれも乗り換えが必要で、負担に感じる人が多い</li> <li>• 不満要因は「交通機関」</li> </ul> <p>• 高速道路がない (一関ICから約1時間10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 大島へ渡る架橋がなく、車をおいて旅客船を利用するか、有料カーフェリーを利用しなければならない</li> </ul> <p>• 土・日・祝日、ハイシーズン期間だけの運行で、観光客に認知されておらず、利用客が少ない *2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 空港へのアクセスが悪い (仙台空港まで3時間)</li> </ul>

	<b>【船】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>唐桑、大島クルーズで、海上から三陸特有の景観が楽しめる</li> <li>特に大島クルーズでは、カモメの餌付けが楽しむことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カモメの餌付けは、なかなか楽しいが、観光客に周知されていない</li> </ul>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>フカヒシやサンマの産地として知名度がある</li> <li>気仙沼市、気仙沼市観光協会、気仙沼コンベンションビューローが、それぞれのホームページ（以下HP）を有している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スローフード都市宣言「食」のまちを掲げながら、観光客が一番欲しいグルメ、お薦め飲食店に関する具体的な情報が入手できない *1</li> <li>いずれのHPも、外国語版が整備されていない</li> </ul>
食	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体初のスローフード都市宣言を行い、食による魅力的なまちづくりを全国にアピール</li> <li>名物は寿司、サンマ、マグロ、新鮮な魚介類、海藻類をはじめ、特にフカヒシの生産量は世界一</li> <li>ふかひれラーメン、気仙沼ラーメン、気仙沼港町弁当等、新しい名物料理づくりに力を入れている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>寿司店のほかには昼食に「魚」を食べられる飲食店が少ない</li> <li>フカヒシは、ほとんどが市外に出荷され、市内では僅かしか味わえない</li> </ul>
宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地にホテル・旅館が、階上・唐桑、大島等の観光地に民宿が数多く立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季のハイシーズンと冬季のオフシーズンの入込客数の格差が大きい。特に大島の季節格差が激しい *1</li> <li>泊食分離等の旅行形態の変化に対応したシングル、ツインの個室タイプが少ない</li> <li>温泉は市街地の大型ホテル1箇所だけのため、プールの「温泉」を売りにできない</li> </ul>
訪日外国人旅行者	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪日外国人旅行者の「日本食」ニーズにはぴったりのまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人旅行者が少ないことから外国語表示が少なく、対応できる飲食店等もほとんどない (外国人宿泊客は年間500人弱)</li> </ul>
気仙沼の魅力 (観光資源)	<ul style="list-style-type: none"> <li>リアス式海岸の特異な景観。岩井崎や巨釜・半造等の観光名所が多く、全国百選に選ばれた海水浴場を2ヶ所有している</li> <li>新鮮な三陸の海の幸が味わえる「食」と、魚介類が買える港町</li> <li>昭和初期の擬洋風建築が残るレトロな街並み</li> <li>東北最大の有人離島が25分と近く、多くの体験メニューを提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>風待ち研究会の発足により、資源調査が行われたものの、修景がなかなか進まない *1</li> </ul>

### 3. 松島町の観光の現状と強み弱み

#### (1) 松島町の概要

##### ① 自然環境

松島町は、宮城県の海岸部中央にあり、仙台市の北東 20km に位置する。町域面積は 54.00km<sup>2</sup> で、町土の 50%は松島丘陵を中心とする森林である。北部には丘陵が起伏し南部の低地には住宅地が広がっている。また、北端に鳴瀬川、吉田川が西から東へ流れ、町内では高城川が南北に流れ松島湾に注いでいる。松島湾には大小 260 余りの島々が浮かんでおり、その特有の美しい景色が日本三景の一つに数えられている。

##### ② 社会環境

美しい自然と伊達政宗の歴史的背景のもと、瑞巖寺をはじめ山内寺院、歴史資料館、博物館、美術館等の歴史的・文化的建物が残されており、国内有数の観光地となっている。人口は 16,420 人（平成 18 年 3 月末現在）となっており、昭和 61 年をピークに年々減少し、年々高齢化が進んでいる。

##### ③ 指定文化財

指定文化財のうち、国指定および県指定のものは以下の通りである。

【国指定】 特別名勝 松島

国宝	瑞巖寺本堂（元方丈）、瑞巖寺庫裏及び廊下、圓通院霊屋
絵画	観瀾亭障壁画、本堂障壁画
彫刻	木造五大明王像
工芸品	雲版
書跡典籍	奥州御島頼賢碑

【県指定】 建造物 観瀾亭、陽徳院霊屋、日吉山王神社本殿、瑞巖寺総門

絵画	仏涅槃図、釈迦説法図、性西法身像、蘭溪道隆像、明極聰愚像、 仙台城本丸大広間障壁画鳳凰図
----	---

彫刻	木造伊達政宗倚像
----	----------

工芸品	脇差、梵鐘、銅鐘
-----	----------

#### (2) 松島町の観光の概要

##### ① 観光客の受け入れ体制

役場担当：商工観光班 5 人（内観瀾亭職員 1 名）

臨時職員：7 人（観瀾亭）、14 人（県営有料駐車場）、6 人（福浦橋・カフェベイランド）

非常勤嘱託員：4 人（松島海岸駅前観光案内所）

【社団法人 松島観光協会案内所】

観光客に適切な観光情報を提供している。

【松島海岸駅前観光案内所】

外国人観光客にも適切な観光情報を提供するため臨時職員による外国語対応の

観光案内を行っている。また、平成17年1月1日より「i」案内所としての指定を受けている。

【松島旅館組合案内所】

観光客に宿泊情報を提供している。

## ②主な観光資源

特別名勝松島探訪の中心地として、宿泊施設・お土産物店・歴史施設・文化施設といった観光施設が集積している。

観光施設の主なものとしては、伊達政宗ゆかりの地として「瑞巖寺」(国宝)をはじめとする歴史施設や、水族館・博物館といった文化施設が立地している。町管理施設としては、観瀾亭博物館、福浦橋があり、県営有料駐車場の受託管理を行っている。松島町は、古くから日本三景に数えられ、また歴史的な観光資源も多く、東北を代表する観光地である。主な観光資源は以下の通りである。

【自然資源】 松島、福浦島、雄島

【文化遺産】 瑞巖寺、五大堂、円通院、天麟院、陽徳院、観瀾亭、頼賢の碑

【観光施設】 マリンピア松島水族館、藤田喬平ガラス美術館、松島オルゴール館、みちのく伊達政宗歴史館、福浦橋、松島さかな市場

【イベントなど】 白衣観音・桜祭り(4月)、瑞巖寺灯道(8月6～8日)、瑞巖寺大施餓鬼会道(8月16日)、松島灯籠流し花火大会(8月17日)、日本三景松島園遊茶会(10月)、観瀾亭お月見の会(10月6～8日)、KHB松島ハーフマラソン大会(10月)、松島芭蕉祭並びに全国俳句大会(11月)、松島かき祭り(2月)

## ③観光入込客数

観光入込客数は、昭和30年代後半から年々増加傾向をみせ、昭和62年のNHK大河ドラマ「独眼竜政宗」放映により546.4万人でピークに、その後は次第に微減傾向に転じ、過去5年間を見ると500万人を割り、平成10年には370.8万人、平成17年には341.9万人と減少を続けている。

宿泊客数は平成元年では122万人であったが、年々減少傾向にあり、平成10年にはついに100万人台を割り込み、平成17年には67.7万人と大幅に減少している。この主な要因としては、景気の低迷、観光ニーズの多様化、観光旅行形態の団体旅行から小グループ化への移行等が大きな要因として考えられる。

宿泊・日帰りの構成比を見ると、宿泊客は平成17年では全体の約20%となっているが、平成元年の約25%から5ポイントも下がっており、ここ15年間の落ち込みは大きく歯止めがかからず、閉鎖する旅館が出始めており、観光がもたらす経済効果を含め深刻な状況にある。

## 【入込総数・イベント別入込客数(人)】

平成年	入込観光客数	宿泊客数	松島かき祭り	瑞巖寺灯道	花火大会	お月見会	園遊茶会	芭蕉祭
元	4,915,000	1,220,000	70,000		250,000		1,000	2,566句
2	5,020,000	1,188,000	75,000		277,000		1,700	2,223句
3	5,257,000	1,161,000	103,000		337,000		2,348	1,974句
4	5,164,000	1,106,000	100,000		267,000		2,543	2,049句
5	5,162,000	995,000	130,000		250,000		2,572	2,014句
6	4,933,000	1,020,000	130,000		248,000		2,481	1,821句
7	4,567,000	1,063,000	100,000		270,000		3,454	1,905句
8	4,352,000	1,004,000	100,000		240,000		4,506	1,832句
9	4,290,000	1,026,000	125,000	15,200	275,000		5,000	1,770句
10	3,708,000	942,000	100,000	33,000	180,000		7,000	1,976句
11	3,665,000	905,000	120,000	45,000	220,000		5,000	1,964句
12	3,661,000	930,900	150,000	46,000	270,000	299	3,000	1,837句
13	3,703,000	886,100	180,000	36,000	280,000	302	3,000	1,866句
14	3,737,000	825,700	100,000	55,000	220,000	938	3,100	2,072句
15	3,698,000	791,600	105,000	52,000	150,000	2,130	3,000	2,087句
16	3,660,000	785,600	155,000	78,500	180,000	1,475	2,500	2,536句
17	3,419,000	677,500	125,000	63,000	110,000	3,040	3,000	2,019句

### ④観光客の特色

一般的に首都圏・北関東地区からの観光客の割合が多い。また、春先の修学旅行時期は、福島県・山形県・岩手県・秋田県の近隣県からの修学旅行生（小学生）が多く訪れる。夏期・秋期はともに家族連れや友達同志等の小グループ観光客が多いが、秋期からは職場等の団体客が増加してくる。来訪回数が2回目以上というリピーター率は約7割となっている。

観光の目的としては、名所・旧跡めぐり、自然観賞型が定着しているが、夏期における名所・旧跡めぐりは減少の傾向にある。また、近年は交通網の発達から、松島だけを目的とした単一目的型観光よりも周遊型の観光（約55%）が増加している。

### ⑤交通アクセスと域内交通

首都圏からは東北自動車道及び三陸自動車道を利用し、松島海岸インターチェンジよりマイカーでアクセスする観光客が多い。また、自家用車の比率は56%（H12）である。松島はJR東北本線と仙石線が走っており、仙台駅から25分と立地条件に恵まれてはいるが、鉄道利用者は約23%にとどまっている。それ以外には、バス・飛行機（仙台空港）・レンタカー・タクシーといった交通手段である。

平成12年10月より仙台空港と松島（塩竈）を結ぶ直行バスが運行開始した。運行数は1日7往復で所要時間1時間30分・片道2,100円（大人）である。

また、平成17年4月より駅から各ホテルと観光名所を結ぶ松島循環バスが運行を開始し、100円（大人）運賃で、1日22便が運行している。

## （3）観光の課題

### ①国内観光需要の開拓

「国内旅行の空洞化」が叫ばれて久しいが、観光収入に依存する本町としては、国内旅行

の活性化は重要課題である。近年は活性化対策の一環として観光誘客に力を注ぎ、資本投下に力を注ぐ自治体が増えてきており、今後は従来の景観鑑賞型の観光地から個性のある、また、訪れてみたい観光地に転換を迫られている時代にきている。

新しい観光需要の開拓のために官民あげて魅力づくりを提案・実践していく必要がある。

## ②国際化時代への対応

仙台空港の国際定期便就航やチャーター便開設、更には東北新幹線、東北自動車道・三陸自動車道の整備等により、本町を訪れる外国人観光客も着実に増えてきている。このことから、外国語パンフレットの充実はもとより、外国人観光客へのサービスの向上及び快適に観光できる環境づくりに努めていく必要がある。

## ③おもてなし（ホスピタリティー）

地元で暮らす住民が、松島に住んで良かったという誇りを抱くことが、多くの観光客を呼び寄せる原動力になる。また、一部観光業者の接遇の善し悪しはその土地の印象を左右してしまうことから、観光業従事者全体の接客サービス向上のための意識改革と研修機会の拡大を図る必要がある。

## （４）これまでの観光の取り組みとこれからの取り組み

### ①観光関係団体・組織の育成

#### 【社団法人 松島観光協会】

観光関係団体・企業等で構成する松島観光協会は、松島観光地の紹介・宣伝・観光客の誘致等の観光事業を実施しているが、観光産業の発展を図るため、同協会のより効果的な観光事業推進と組織及び財政基盤強化の指導に努めている。

また、平成14年より4月1日より公益法人として設立が認可され、なお一層の事業推進及び発展を目指している。（会員数146社、職員数5人）

#### 【「冬のおき松島」実行委員会】

「冬の松島」の魅力向上のために、低価格の1泊朝食プランの宿泊旅行商品をベースに、体験メニューや観光施設の割引券をセットし、滞在型の観光振興を図っている。当面は観光資源の再発掘と、その魅力づけをしながら、商品付加価値を高めていくことを目的に「冬のおき松島」キャンペーンを実施している。（12月1日～4月28日）

#### 【夏のおき松島《瑞巖寺灯道》実行委員会】

松島観光の財産の一つである奥州随一の名刹瑞巖寺の仏教文化に支えられた伝統・歴史活用し、古来からの寺町文化や自然環境を融合させ、夏の夜の松島を演出する《瑞巖寺灯道》を実施している。（8月6～8日）

#### 【松島のおき体験観光推進実行委員会】

松島における滞在型観光を目指すため、既存の体験メニューの整備及び新たな体験メニューの開発・検討を実施している。平成17年4月1日より松島観光協会のホームページにて、35の体験メニューの紹介をしている。

### 【四季彩食松島推進協議会】

松島の海産物（牡蠣・アサリ・穴子・海苔・ハゼ等）や農産物（トマト・大豆・米等）等の素材を活かし、四季を通じて提供できる新名物料理の開発により観光地としての賑わいをつくること目的として事業を実施している。平成 15 年より3ヶ年開催している「松島・四季彩食料理コンテスト」も年々提供数が増加（平成 16 年度は 5,000 食）している。また、地産地消の取り組みとして、一次産業と三次産業を結びつけるためのシステムづくりに向けた事業を推進していく。

### 【松島善意通訳者の会】

昭和 61 年7月より外国人観光のため通訳ボランティア「松島善意通訳者の会」が結成された。以後、一般外国人観光客及び外国大使館や国際会議出席者らの松島訪問の際にも活躍している。

### 【松島町国際交流協会】

平成 11 年5月に設立、町の国際化推進に向け、留学生との交流や外国人研修生の支援等、草の根レベルからの国際交流事業を実施している。

## ②姉妹都市交流等

### 【フランス領ニューカレドニア イル・デ・パン島】

- ・ 姉妹島締結（昭和 55 年9月4日）
- ・ 松島町国際交流協会が主催の「町民の翼」で 34 名が親善訪問（平成 11 年8月）
- ・ 姉妹島締結 20 周年記念でイル・デ・パン島民 26 名が来町（平成 12 年6月）

### 【秋田県にかほ市（旧象潟町）】

- ・ 夫婦町締結（昭和 62 年8月1日）
- ・ 10 周年記念交流（平成9年8月）

### 【熊本県上天草市（旧松島町）】

- ・ 友好都市締結（昭和 63 年 10 月 16 日）
- ・ 町制 70 周年記念式典で訪問交流（平成 10 年 11 月）

## ③観光客誘致事業

通年型観光を目指し、特に冬季観光客の増加を図るため、「とっておきの松島」キャンペーンをはじめ、物産展参加等の各種誘致事業を展開している。

- ・ 宮城県観光連盟主催観光展
- ・ 日本三景観光連絡協議会キャンペーン（旅フェアへの共同出展）
- ・ 仙台・松島観光協議会キャンペーン
- ・ 仙台松島国際観光テーマ地区推進協議会キャンペーン
- ・ 「とっておきの松島」キャンペーン
- ・ みやぎまるごとフェスティバル

## ④広域観光の推進

### 【国際観光テーマ地区推進協議会】

国際観光モデル地区に指定されている5市4町が国際観光テーマ地区として、国際観光の

振興を推進している。

#### 【仙台松島地区観光協議会】

仙台松島地区を中心とし、これに隣接する地域の市町並びに観光事業関係を有する23団体で広域的誘客宣伝を実施している。

#### 【宮城県観光連盟】

宮城県内観光事業の振興と地方文化産業の発展、併せて国際親善に寄与している。

#### 【日本三景観光連絡協議会】

日本三景の広島県廿日市市宮島町（厳島）、京都府宮津市（天の橋立）、そして松島町が、日本三景を広く宣伝紹介し、日本三景の観光事業に関する相互提携、ポスター、パンフレットの共同製作を実施している。また、平成14年度より首都圏や主要都市において開催される日本観光連盟主催の「旅フェア」に参加し、全国のエージェント・観光業関係者、そして広く一般の方々にも、日本三景を広くPRする活動を実施している。

#### 【仙台観光コンベンション協会】

仙台市との観光連携及び観光宣伝・コンベンションに関する事項の推進を図る。

#### 【せんだい・宮城フィルムコミッション】

仙台市・松島町・宮城県内の地域を、映像によるシティセールス及び地域への誘客を目的とした「せんだい・宮城フィルムコミッション」の設立（H15）より加盟し、映像製作会社やマスコミ等に対する地域の情報提供や撮影支援等を実施している。ちなみに松島町においては平成16年度18件、17年度は23件の撮影支援を実施している。

#### 【その他】

日本観光協会、全国観光所在町村協議会、宮城県観光物産振興会、奥の細道サミット、特別名勝松島をきれいにする会

#### 【研究等】

- ・県境を越えた2市2町（仙台市・気仙沼市・松島町・平泉町）広域観光連携の調査研究
- ・「スローフード&シティ」ダイヤモンド（気仙沼市・松島町・平泉町・遠野市）構想の調査研究
- ・未来都市づくりエリア（塩竈市・多賀城市・松島町・利府町・七ヶ浜町・大和町・富谷町・大郷町・大衡村）2市6町1村の広域観光連携の調査研究

## **（5）観光モニター体験調査**

①実施日時：平成18年8月19日（金）

②出席者（敬称略、順不同）：

仙台市：観光交流課佐藤主幹、原野主事、仙台市総合観光案内所 伊藤  
気仙沼市：橋本観光課長、藤田気仙沼市観光協会事務局長  
平泉町：齋藤農林商工観光課長、小野寺主事、（社）平泉観光協会 石神  
松島町：小松産業観光課観光班長、齋藤主事  
東北産業活性化センター：今野プロジェクト振興部長  
東北地域環境研究室：伊藤

### ③観光体験コース

- 11:00 JR松島海岸駅前観光案内所「i案内所」見学
- 11:15 観光現状レクチャー（宮城県松島公園管理事務所会議室）
- 12:00 マリンピア松島水族館見学
- 12:30 社団法人松島観光協会（松島海岸レストハウス）
- 12:45 福浦橋 カフェベイランド（昼食アナゴ料理等）
- 13:45 五太堂三十三年御開帳拝観
- 14:00 瑞巖寺拝観
- 14:30 円通院拝観
- 15:00 松島湾遊覧船（仁王丸）
- 16:15 観瀾亭で意見交換

### ④調査結果

#### 【松島海岸駅】

- 電車で観光地だけあって、利用客は多い。外国人観光客も結構利用する。
- 鉄道は、仙石線で仙台駅から松島海岸駅までの所要時間は、普通 40 分、快速 33 分で、30 分毎にダイヤが組まれているため、不便は感じない。違う町に行くという間隔より、仙台市の郊外に行くという感覚の方が近い。
- しかし、JR東北本線松島駅とJR仙石線松島海岸駅のどちらの駅の方が、便利なのか、初めての人に分かりにくく、紛らわしくないのだろうか・・・？
- 日本を代表する観光地の玄関口としては、駅舎の規模が小さく、老朽化は否めない。
- 駅舎を降りた時に、観光地松島に来たぞと言うような気持ちを高揚させるような雰囲気もなく、外国人観光客から見ても駅前に日本情緒を感じないのではないだろうか。ごく普通の駅舎。
- 駅舎、トイレ、大型の案内板、i案内所、宿泊案内所などの施設が整備されているが、景観的な統一感がなく、ばらばらという印象。
- 駅舎建て替えが、大きな課題・目標の一つのようだが、改築の際は、京都駅のような超現代建築の駅舎ではなく、松島の景観や日本的な情緒に配慮した駅舎を望む。
- サインは、英語併記がされている。
- 東北本線と仙石線を繋ぐ駅の構想があるようだが、接続できれば利用客の利便性が向上すること間違いなしと感じた。



松島海岸駅



駅舎隣の公衆トイレ

## 【2次交通・駐車場等】

- 松島海岸駅－観光地－ホテル－松島駅を循環するようなルートで100円循環バスが、運行されており、観光客にとっては便利良さそう。
- 広い範囲に観光施設があるので、歩いて観光をするには体力を要する。現在運行している宿の送迎を目的とした巡回バスを、各観光施設へも廻してもらったらどうだろうか。
- 松島は見所が本当にたくさんある。ミュージアムや眺望のよい所等にも行こう思うと一日では足りないくらいである。こうした観光スポットを効率的に回れる足がほしい。循環バスの一層の活用を望む。
- タクシー乗り場には、所要時間、料金が表示されており親切だが、タクシー、循環バス共、外国語併記がされていない。
- 繁忙期の週末やイベントが行われる際の駐車スペースを増やしてほしい。せっかく来て、駐車できないため帰ったのでは、リピーターが増えないのではないだろうか。
- 歩いて歴史的雰囲気を楽しむためには、やはり48号線が障害となっている。長期的には、交通体系の見直しが必要と思う。
- 入込客の7割が車利用客。駐車場問題と渋滞解消がなされない限り不満要因も解決しない。敬遠されてしまわないよう整備が急務。
- 海岸周辺の駐車場合計台数が、約1,000台は明らかにキャパ不足。このことによって駐車場が入れず48号が、慢性渋滞を引き起こしているのは深刻な問題。
- 特別名勝に指定されているため、駐車場が新たに整備できないのであれば、パーク＆ライドで期待した効果が上がるのかどうかなど、思い切ってイベント時の実証実験などによって、検証してみる必要があるのではないか。
- 国道の問題がなければ人力車も似合いそうですね



タクシー乗り場の料金表示



満車の駐車場

## 【松島海岸駅前ビジット・ジャパン案内所】

- ビジット・ジャパン案内所（旧i案内所：外国人観光客に対応多様な案内所）と旅館案内所が隣接しているので、同じところが運営していると思われるかもしれない。駅舎改修の時には、ビジット・ジャパン案内所は是非駅舎内に置いてほしい。
- 松島駅は分からないが、海岸駅前での案内は行き届いている。外国人への案内に対する補助、旅館、遊覧船の案内などは評価できる。



松島海岸駅前ビジット・ジャパン案内所

- ・利用者も案内する人も立って対応するため、落ち着いて案内を受けることができない。
- ・小庇はあるものの、基本的に利用者屋外。天候の悪いときや冬場はつらい。
- ・駅舎内にあるのが理想的だが、改修が見込めないとすれば、建て替えも検討する必要があるのではないか。利用者からすれば、室内で座って案内サービスを受けたい。
- ・日本三景の町の観光案内施設としては、建物には美しさも求められる。現在の建物は残念ながら、松島の景観との調和を考えた場合には、ちょっと……。

### 【マリニピア松島水族館】 大人 1,400 円、小中学生 700 円、幼児 350 円

- ・施設は古いが、体験コーナーを設ける等、展示に工夫がみられ、楽しめた。
- ・水槽内の魚の説明板が、ところどころ明かりが付いていなくて読みにくかった。
- ・施設が老朽化はしているが、工夫次第で改善がみられる点が多く見受けられた。例えば、アシカショー等を行う会場の隣の入り口を歩いて行くと、途中で片側が水槽でもう片側が白い壁になっているところがある。寂しい感じのするその通りに、海の生き物などのイラストが描かれると通路が明るくなり、その先にどんな生物がいるのだろうかとわくわく感が持てるような気がする。また、各水槽に生き物の名前や生息地などが書かれた案内板があるが、多くが暗くて近づかないと読めないものであった。施設自体を改修しなくとも、観光客を満足させる対策方法がいくつかあるように思えた。
- ・マリニピア松島水族館のイロワケイルカや『黒磯の海』はずっと見ていて飽きないくらい楽しむことができた。ドクターフィッシュを機会があれば体験してみたい。
- ・水族館だが遊具も多いため雑然とした印象があったが、遊園地が近くにないこともあり多くの家族連れが楽しんでいた。
- ・動物園と比較して入館料(大人 1,400 円)が割高に感じた(仙台市八木山動物公園は大人 400 円)。
- ・残念ながら、他の水族館と比較すると、古くさは否なめず、おおっというような見せ場がない。その割には近年に建てられた水族館と入館料が同じくらい(アクアマリンふくしま大人 1,600 円)で、割高に感じる。



マリニピア松島水族館

### 【海岸のゴミ景観】

- ・ごみを処理するのに、多大な費用がかかるということだったが、松島へ訪れる観光客が期待しているのは、瑞巖寺や五大堂などへの見学よりも、第一に松島の景観だと思う。期待を胸に松島を訪れた観光客が汚れた海を見たら、これが今の松島の現状か、とがっかりするのではないだろうか。
- ・その期待を裏切らないために、海の浄化を推進する何らかの対策を練る必要があるように思う。(例：浮遊する一般ごみだけでも1日1回取り除くようにする)



海岸に漂うゴミ

- 観光客の第一目的は、日本三景の松島の景観。観光の強みも松島の景観。この海岸の汚れた景観は、訪れる観光客の期待を大きく裏切る。イメージダウン。
- 松島の景観から恩恵を受け、観光によって地域が潤っていることを皆が再認識し、景観保全の先進地、さすが松島と思わせるような、景観を守るための活動を外にアピールする必要があるのでは。



観光客の第一のお目当ては、日本三景の景観

### 【松島海岸レストハウス】

- 景観に配慮して落ち着いた外観は好感が持てる。
- 木のぬくもりが感じられ、また開放感ある明るい室内で居心地が良かった。
- 繁忙期はトイレの清掃を頻繁に行って、利用者に気持ちよくきれいに使用してもらうことが大切。
- 案内カウンター、丸柱、ロッカールームまで、至るところに張り紙が貼られている。景観の町であるがゆえに、掲示板に整然と美しく貼るような配慮が欲しい。必要情報は、きれいに掲示板に！
- 案内所のカウンター内の事務デスクは、パソコンやパンフレットなどいろいろなものが置かれており、またカウンター内の右側の空間が狭まっているため、カウンター幅の半分しか機能できず、実質一人でしか対応できない状態になっている。
- また、閉鎖的な感じも受けるため、カウンターを通路側に出すなどして、せめて職員が2人で対応できるような改善策を検討する必要があると思う。また、低いカウンターは良いと思うのだが、前屈みで案内を受けることになり苦痛。椅子式ならもっと良いと思うのだが・・・。また、パソコンが観光客にも利用できるのもっと便利。



松島海岸レストハウス



はり紙があちこちにされている



松島海岸レストハウス内の案内カウンター



田沢湖駅内の観光案内所のカウンター

## 【カフェペイランド・「食」】

- 昼食の「穴子天丼セット」松島らしく絶品で値段も評価できる。
- 丼からはみ出す大きな穴子がのった穴子天丼セットは、コーヒー、デザート付き1,000円は格安で、見た目も豪快だが、女性には少し量が多いと思われる。
- 町直営のこのカフェでは、季節毎の定食を提供しており、黒字経営には敬意を表する。
- 英語でのメニュー表示はとても良い。
- 窓からの眺めが素晴らしい。
- 福浦橋を渡った島に何があるのか、何ができるのかなどを説明したパンフレットなり説明板がテーブルに置いてあると、それを読んで興味を持ち、橋を渡る人が増えるのではないかな。
- 新たな「食」による観光振興を目指して、四季彩コンテストを実施おり、非常に良い取り組みだと思った。同時に松島の「食」の名物が少しぼやけているだけに、あそこに言ったらまずは〇〇を食べなければ・・・というように、名物メニューの合意形成を図り、それを皆で推進していくことも必要だと思う。季節毎でも、もちろん良いと思いますが。



穴子天丼セット



英語のメニュー表示

## 【瑞巖寺】 大人 700円、小中学生 400円

- いつ来て見ても素晴らしいところ。案内人がいるとなお一層興味深く観覧できるので、ガイドの存在をもっとアピールしてほしい。ガイドを頼みたくてもどうしてよいか分からない人もいるのではないかな。
- 杉木立を歩く石畳が、非常に心地よい。
- ガイドを受けることによって、その観光資源に対する価値観はむしろ、旅全体の満足感にまで影響する。利用料金や人数の問題等、個人客が気軽にガイドを頼みにくいところもあり、時間毎にフリーの客が集まれば低料金でガイドを受けることができるなど、もっと安価で利用しやすいシステムを検討していく必要があるのではないかな。そのことが、結果的にはリピーターやロコミ客に繋がると思う。



瑞巖寺



庫裏の特徴的な煙出し

【円通院・三慧殿】 大人 300 円、高校生 150 円、小中学生 100 円

- 周辺の舗装や店構えも風情があってよい。庭も素晴らしい。
- バラ寺としてのPRをもっと強化してはどうか。瑞巖寺改修中はここが、一番の観光スポットとなるのではないか。
- 瑞巖寺を始め、今回初めて訪れた円通院の庭園や三慧殿の凝った内装に感動した。
- 光宗公の生き様が、三慧殿の装飾から垣間見られた。瑞巖寺同様、ガイド説明を受けると、松島の印象が深まる。
- 落ち着いた庭園は、観光客の心を和ませる。
- 茅葺きの円通院「大悲亭」で行われていた数珠づくり体験は、資源をいかした良い体験メニューだと思った。
- ガイドシステムは、瑞巖寺とワンセットで是非ご検討を！



三慧殿



近年につくられた枯山水の庭



大悲亭



数珠づくり体験

【寺町景観整備】

- 寺町構想に沿って、アスファルト舗装から、京都を参考に敷石の道路に改修され、また茶屋が整備されていたり、観光客の誰も利用しなかった場所から、回遊する場所に姿を遂げている。
- また、黒塀ができたり、ギャラリーができたり、ミニコンサートが開かれたりといった更なる構想の推進と展開を期待したい。このような成果の積み重ねが、観光客に徐々に評価されていく。小布施町も、このようなところから始まっている。



石畳で整備された寺町の道路

**【遊覧船】 中学生以上 1,400 円、小学生 700 円、グリーン席は+600 円、えびせん 100 円**

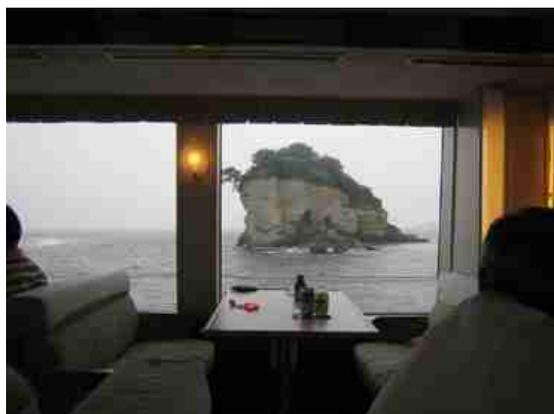
- 湾内の島の地図があると、船内の案内放送がもっと楽しく聞ける。(あったのかも知れないが・・・) 全部の島の名前はいらませんが、船内放送に出てくる島は載っているとよい。
- グリーン席 600 円増しは高い気がする。むしろ2階グリーン席を標準として値引き料金を1階に適用してはどうか。
- 普通席料金は妥当な値段だと思うが、グリーン席にプラス 600 円は割高に思う。
- 遊覧船は変化が少なく、ともすれば退屈である。できるだけ島の近くまで寄るルートであれば、島の様子がうかがえて面白い。
- 松島の魅力を紹介するには、やはり遊覧船は外せないと感じた。今後も、観光客へ是非お勧めしたい。
- 期待が大きいほどに、感動する観光客は少なく、こんなものかと思う観光客が多いのではないかと。料金に対する顧客満足度(CS)調査をしたら、かなり厳しい評価を受けるのではないだろうか。飽きさせないサービスや乗って良かったと思わせる工夫がもっと必要だと思う。松島に行く人に、口コミでお薦めしようとはまでは思えなかった。
- 一番のセールスポイントであるほどに、観光客の満足度を検証してみる必要があるのではないだろうか？
- 最初の15分くらいは、案内放送を聞いていたが、集中力が切れてしまった。近くに座っていたお客さんも、後半はかなり飽きてしまっていたようだ。
- 遊覧船が高いと感じさせないように、瑞巖寺・三慧殿・福浦橋や食事・観覧亭の抹茶などとセットになった、松島まるごとパスポートのような商品造成もあるのではないだろうか



遊覧船の船着場



2階グリーン席



船窓から眺める島々

**【観覧亭・松島博物館】 博物館：大人 200 円、高大学生 150 円、小中学生 100 円**

- 観覧亭も黒字とのこと。職員の抹茶、和菓子のもてなしへの努力に敬意を表します。
- 観覧亭からゆったりと松島を眺めながら、歴史的な建物の中で、豊臣秀吉や伊達政宗、忠宗が築いてきた歴史に思いを寄せながらいただく抹茶は格別に滋味深い。
- もう既に行っていると思いますが、松島をイメージアップするこの施設を活用して行うせ

ミナーなどに積極的に活用されたら良いと思う。

- 隣接する松島博物館には、貴重な歴史的な資料が展示されているが、展示の扱いがこれで良いのだろうか心配するほど。
- 貴重な資料も多いだけに、改装し、もっとありがたいを持たせた方が、拝観された方の価値観が高まるのではないかと。



観覧亭

### 【その他】

- 観光施設は国宝級の建築が多く、集中しており、散策に最適。
- 48号線沿いの店は一時期に比べると、きれいに魅力的になってきた。寺まち構想を進めて欲しい。
- 五大堂の三十三年に一度の御開帳はすばらしく、見るに値する行事だった。記念品が付いてくると考えると料金も妥当だと思う。
- 旅館ホテル案内所の機能：20数件ある旅館ホテルに対し、観光客に案内しているのが3、4件というのは、観光客に選択肢がほとんどないも同然である。観光客の希望にあった宿を紹介することが、観光客により長い時間松島に滞在してもらい、さまざまな店に収益をもたらすことに繋がっていくのではないだろうか。
- 旅館ホテル案内所は、実際には限られた旅館しか紹介しないとのことは、評価の高いところであれば良いが、そうでないところが問題だ。宿泊問題を含め、役場や観光案内所、観光協会にくる苦情は公開して、改善をしていく必要があると思う。
- 電車で来町する観光客のために、駅前の宿泊案内所で、ホテルのチェックインをすませ、荷物を宿まで運んでくれるサービスがあると、手軽に観光ができるので宿泊客には便利。
- 宿泊料は観光地価格で高額の傾向がある。施設毎ランクの精査が必要と思う。
- 旅館案内は課題があるものの、一部でなく全部を紹介できるように改善をされたいところだ。
- 松島の素晴らしさは、景観と慈覚大師、伊達家、松尾芭蕉などの歴史文化の集積にある。水族館やオルゴール館のように、見れば理解できるというものではないので、それを上手に観光客に語り、伝えることが必要であると感じた。
- 気仙沼でも感じたことだが、松島の魅力（観光資源や特産品、食など）を観光客が15～20分くらいの映像で予習して、観光



国道48号沿いの町並み



五大堂

をスタートすることができるような場所が必要なのではないかを感じる。むしろそれを観光客に情報発信するシステムづくりも同時に必要になってくる。候補施設としてはこのレストハウスあたりか。

- 日帰り観光客が松島の人と接する機会があるのは、食事、お土産を買うときくらいだろうか。もっと意図的に観光客と松島の人が接する機会を設けることが、一つのホスピタリティ対策になると思う。その意味でも、松島ではやはりガイドの活用が非常に重要になってくると思う。

## **(6) 松島町の観光の特徴、強み弱み**



日本三景・特別名勝 松島の景観



国宝・瑞巖寺本堂

### **【参考資料】**

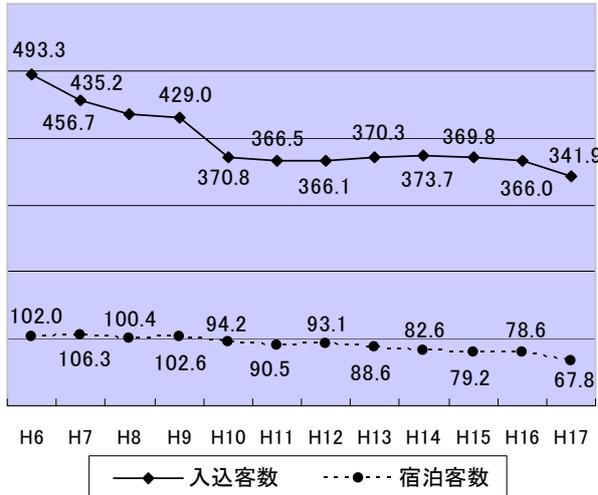
- \* 1 「平成 15 年度観光動態調査及び経済波及効果調査報告書」平成 16 年 3 月  
宮城県産業経済部観光課  
サンプル数：観光地点 541 男性 50.5%、女性 49.5% 手法：ヒアリング  
宿泊地点 851 男性 50.4%、女性 44.7%、無回答 4.9% 手法：留置法
- \* 2 「観光意識調査」平成 11 年 10 月 宮城大学事業構想学部宮原育子研究室  
サンプル数：106 男性 79.8%、女性 20.2%  
対象：観光客 手法：ヒアリング
- \* 3 松島町産業観光課資料
- \* 4 宮城県観光統計概要 宮城県産業経済部観光課
- \* 5 松島湾リフレッシュ事業評価懇談会資料平成 18 年 4 月  
サンプル数：888 流域住民 71.6%、行政 26.0%、漁業者 2.4%
- \* 6 「東北じゃらん 2006 年 10 月号」人気観光地ランキング  
サンプル数：1,221 対象：読者 手法：投函
- \* 7 「訪日外国人旅行者調査 2003-2004」国際観光振興機構（JNTO）

# 1

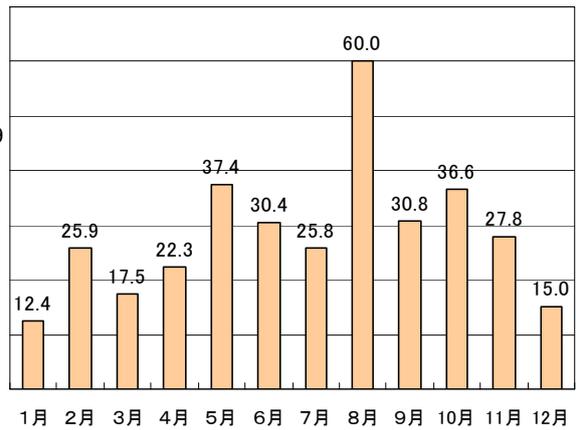
## 観光入込客数

- ・ 昭和 62 年の NHK 大河ドラマ「独眼竜政宗」がピークで 546.4 万人を記録し、その後は減少傾向が続き 341.9 万人（H17）まで大きく減少 \*3
- ・ ハイシーズンは「灯籠流し花火大会」、「瑞巖寺灯道」が行われる 8 月 \*3

観光入込客数の推移 (万人)



月別観光入込客数 (H17) (万人)

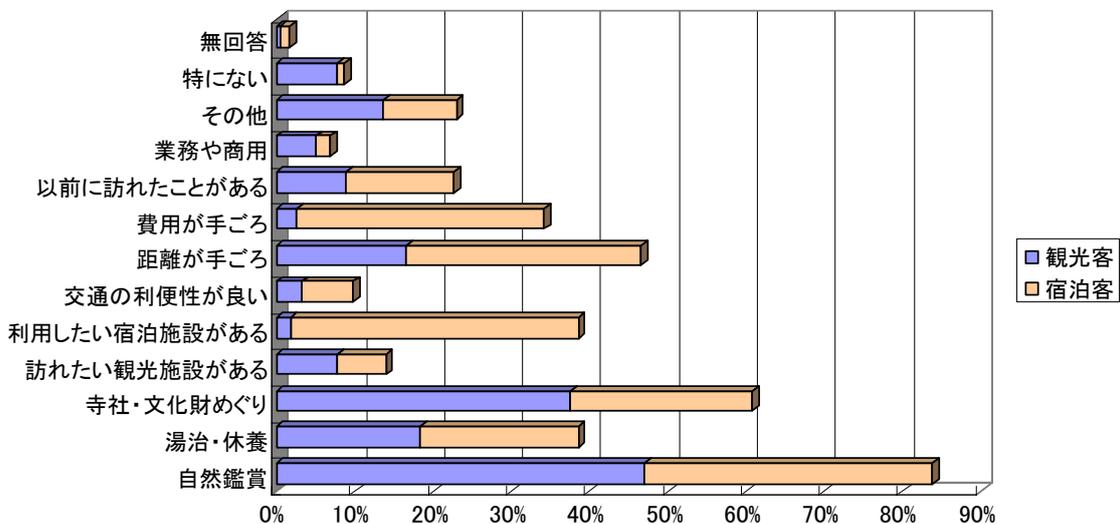


—◆— 入込客数    -●- 宿泊客数

# 2

## 観光目的

- ・ 観光客の来訪目的は、「自然鑑賞」と「寺社・文化財めぐり」\*1
- ・ 宿泊客が松島を選んだ理由は、「利用したい宿泊施設がある」⇒「自然鑑賞」⇒「費用が手ごろ」⇒「距離が手ごろ」の順 \*1



# 3

- 観光客入込客数の約8割が中心部（瑞巖寺周辺）に集中 \*3
- 町内の訪問先は、遊覧船⇒瑞巖寺⇒マリニピア松島水族館⇒松島公園（五大堂他）⇒福浦島⇒円通院の順  
（民間観光施設毎の統計は、公表されていない）

## 訪問先(町内)



灯籠流し花火大会



五大堂（国重要文化財）



マリニピア松島水族館



瑞巖寺・庫裡（国宝）



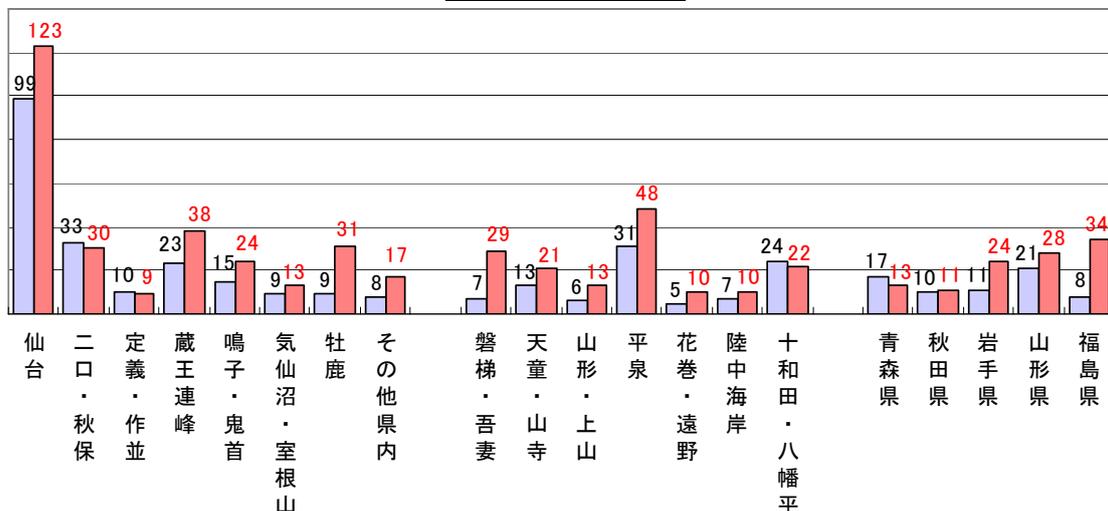
松島オルゴール館

# 4

- 観光客の平均立寄地数は、2.03 で県内観光地 10 調査地点中最も高く、約半数が2箇所以上（松島を含む）を周遊 \*1
- 宮城県内の訪問先は、多くの方が「仙台」\*1
- 隣県の訪問先は、岩手県「平泉」\*1

## 訪問先(町外)

■ 観光客 ■ 宿泊客

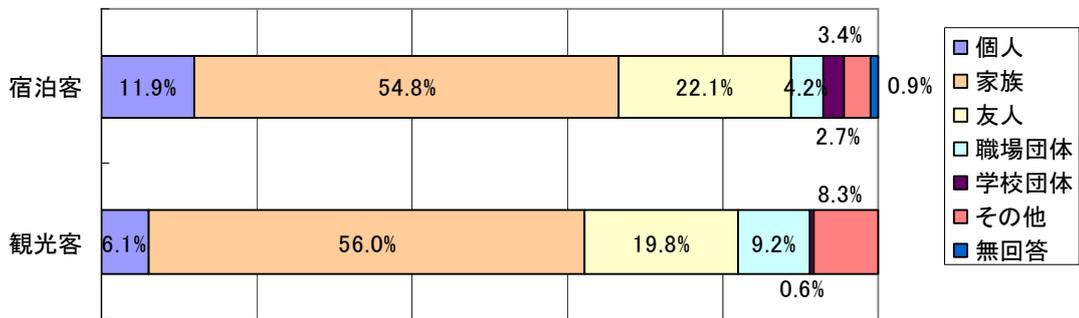


# 5

## 宿泊客

- ・ 宿泊客は、122.0万人（H元）⇒ 67.8万人（H17）まで大きく減少している状況が続いている \*1  
（前掲 P66 グラフ参照）
- ・ 宿泊客の年齢層は、他の県内宿泊調査地点に比べ、ほぼ均等 \*1
- ・ 宿泊客は、2～5人連れの家族が多い \*1
- ・ 宿泊客の29.4%が東京圏から、東北からは43.0% \*1

宿泊客・観光客の同伴者

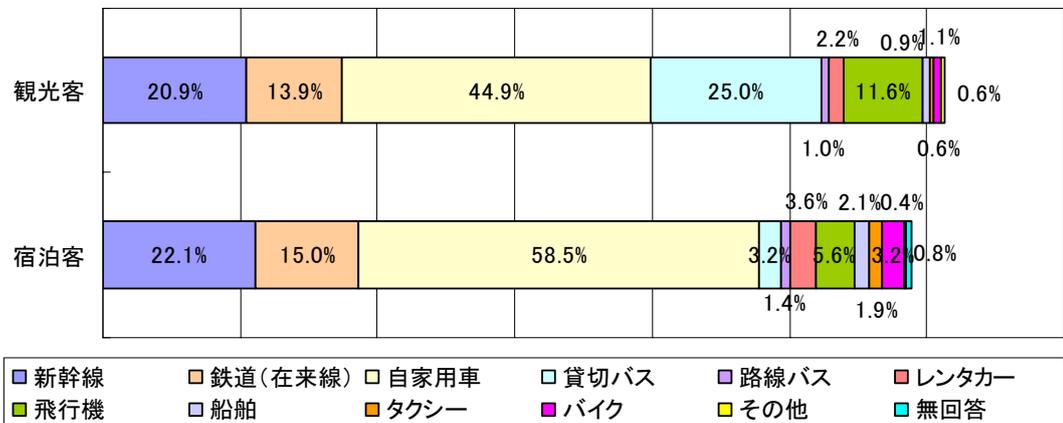


# 6

## 利用交通

- 【利用交通】：誘客範囲が広く、多様な交通手段によるアクセスが松島の特徴  
「自家用車」利用が44.9%（宿泊客58.5%）で、県内観光地10調査地点中、最も低い \*1
- 【駐車場数・収容台数】：有料駐車場数 17箇所（903台）  
無料駐車場数 3箇所（650台） \*3

利用交通機関



# 7

## ニーズ

- ・「今年行ってみたい観光地」では宮城県内第4位 \*6
- ・松島の観光ニーズは、第1に「日本三景の景観」、次に「文化遺産」
- ・松島の観光客の約7割が、宿泊旅行客（松島以外を含む） \*1

今年行ってみたい観光地 東北 BEST10

1	秋保温泉	宮城	235
2	男鹿半島	秋田	195
3	銀山温泉	山形	192
4	乳頭温泉郷	秋田	151
4	スパリゾートハワイアンズ	福島	151
6	アクアマリンふくしま	福島	144
7	けんじワールド	岩手	137
8	奥入瀬渓流	青森	127
9	気仙沼市・志津川	宮城	123
10	鳴子温泉郷	宮城	120

今年行ってみたい観光地 東北6県毎 BEST5

青森	宮城	山形
1 奥入瀬渓流	1 秋保温泉	1 銀山温泉
2 黄金崎不老ふ死温泉	2 気仙沼・志津川	2 鶴岡(湯野浜・湯田川・温海)
3 十和田湖	3 鳴子温泉郷	3 山形蔵王
4 浅虫温泉	4 松島・塩竈	4 かみのやま温泉
5 下北半島	5 仙台市	5 肘折温泉
6 白神山地	6 作並温泉	6 白布温泉
7 弘前市	7 遠刈田温泉	7 米沢市
8 津軽半島	8 女川・石巻・牡鹿半島	8 天童温泉
9 八戸市	9 宮城蔵王	9 山寺
10 酸ヶ湯温泉	10 栗駒	10 酒田、さくらんぼ東根温泉

岩手	秋田	福島
1 けんじワールド	1 男鹿半島	1 スパリゾートハワイアンズ
2 花巻・花巻温泉郷	2 乳頭温泉郷	2 アクアマリンふくしま
3 小岩井農場	3 角館	3 二本松・岳温泉
4 安比高原	4 玉川温泉	4 会津若松市(東山・芦ノ牧)
5 宮古市・浄土ヶ浜	5 十和田湖	5 猪苗代
6 遠野	6 田沢湖	6 大内宿・湯野上温泉
7 雫石・鶯宿温泉	7 大曲	7 裏磐梯
8 龍泉洞	8 小安峡温泉郷	8 飯坂温泉
9 つなぎ温泉	9 八幡平	9 喜多方市
10 一関温泉郷・蔵美溪	10 鳥海山	10 磐梯熱海温泉

もう一度行きたい観光地 東北 BEST10

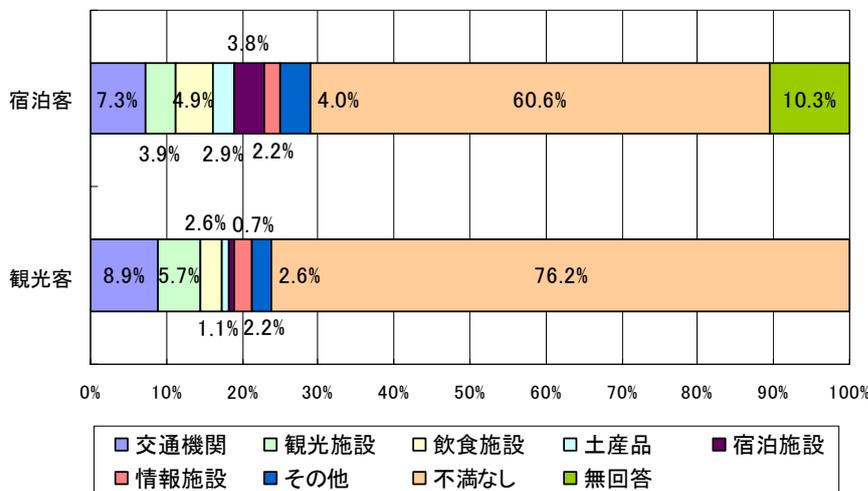
1	乳頭温泉郷	秋田	51.1%
2	アクアマリンふくしま	福島	51.0%
3	銀山温泉	山形	48.4%
4	黄金崎不老ふ死温泉	青森	44.2%
5	奥入瀬渓流	青森	43.1%
6	けんじワールド	岩手	42.6%
7	小野川温泉	山形	41.9%
8	肘折温泉	山形	40.6%
9	会津若松市(東山・芦ノ牧)	福島	39.7%
10	磐梯熱海温泉	福島	37.9%

# 8

## 満足度

- ・「不満はなかった」観光客 76.2%、宿泊客 60.6% \*1
- ・不満要因では、観光客・宿泊客共、際立ったものがなかった \*1
- ・「行ってみて良かった観光地」で、宮城県内第2位であるものの、東北全体ではベスト20に入っていない \*6

旅行中に不満に感じたこと



行って良かった観光地 岩手県、宮城県 BEST5

岩手		
1	八幡平	52.6%
2	けんじワールド	47.5%
3	龍泉洞	46.7%
4	猊鼻溪	45.1%
5	安比高原	44.4%

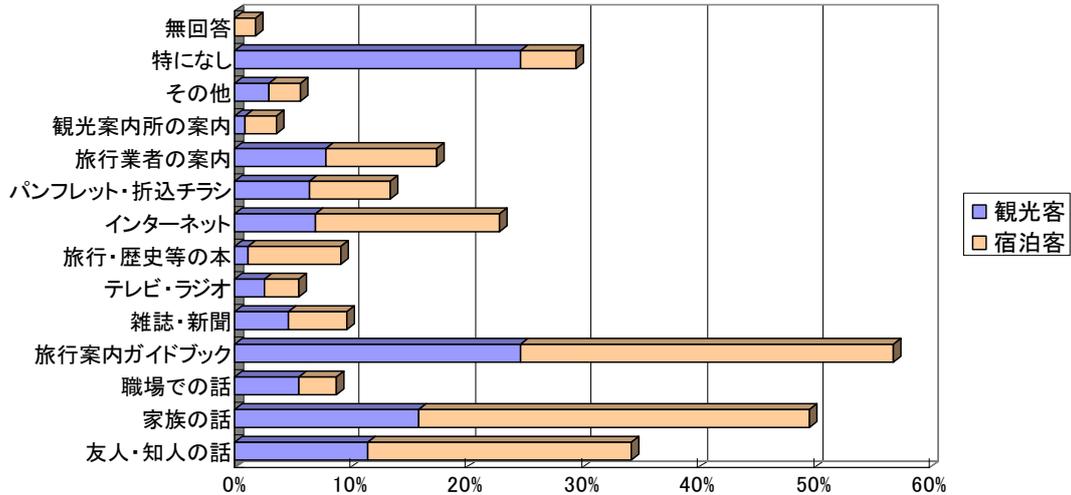
宮城		
1	栗駒	49.0%
2	松島・塩竈	44.5%
3	作並温泉	43.9%
4	鳴子温泉郷	42.4%
5	仙台市	39.8%

# 9

## 情報提供

- ・観光客の情報源は「旅行案内・ガイドブック」24.6%⇒「家族や親戚の話」15.9%⇒「友人・知人の話」11.5% \*1
- ・宿泊客の情報源は「家族や親戚の話」33.7%⇒「旅行案内・ガイドブック」32.2%⇒「友人・知人の話」22.7% \*1
- ・観光案内所の外国人の利用客数は、漸増傾向（H17：8,330人、71ヶ国）\*3

観光地を選ぶのに参考にした情報源

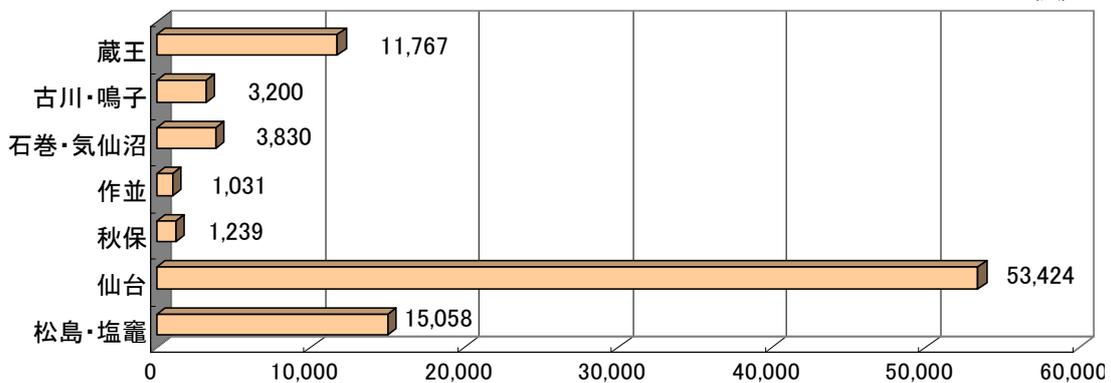


# 10

## 訪日旅行者

- ・松島海岸駅前のビジット・ジャパン案内所を利用する国別の外国人の利用者数は、アメリカ 1,078人⇒台湾 976人⇒香港 966人⇒韓国 665人⇒中国 457人の順（H17）\*3
- ・観光目的の訪日外国人の訪日動機は、「日本人の生活の見聞・体験」32.1%⇒「買物」31.9%⇒「日本への憧れ」29.2%⇒「日本食」26.8%⇒「自然・景勝地」24.4%⇒「リラックス・温泉」23.1%⇒「歴史・町並み・建造物」16.2%⇒「伝統文化の見聞・体験」15.0%の順 \*7

外国人観光宿泊客数(宮城県:H17)\*4



## 松島町観光の強みと弱み

種別	強み	弱み
<b>地域特性</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本三景の1つ「松島」としての全国的な知名度がある（国特別名勝）</li> <li>・ 仙台に近く、道路・鉄道ともアクセスが良い</li> <li>・ 日本有数の牡蠣名産地。牡蠣を中心に四季折々の魚介類の提供が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別名勝指定は「強み」であるが、開発の面では大きな妨げとなっており、ビューポイントの整備が難しい</li> <li>・ 人口は微減傾向</li> <li>・ 観光サービス面を含め、夜の魅力が乏しい</li> </ul>
<b>観光 入込客数</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春から夏にかけての時期に、入込客総数の約 65%が訪れる *4</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「10～12月」の推移を見ると平成10年以降減少が続く *3</li> <li>・ 「紅葉の松島」「冬の松島」の更なるアピールが必要</li> <li>・ 松島とっておき体験プログラム（海の魅力 14、大地の魅力 11、匠の魅力 10）を推進しているものの、まだまだ浸透していない（H17：大人 16,893 人、子供 47,367 人） *3</li> </ul>
<b>交通</b>	<p><b>【鉄道】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仙台駅から 25 分（東北本線・仙石線快速）</li> <li>・ 仙台駅⇄松島海岸駅間は、30 分毎に電車が運行されており、鉄道利用者の利便性は高い</li> </ul> <p><b>【車】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東北自動車道大和 I Cより 30 分、仙台南部道路経由三陸自動車道（仙台東部道路）松島海岸 I Cがあり、アクセスが良い</li> <li>・ 国道 45 号、国道 346 号の他主要県道の自動車交通ネットワークに恵まれている（来訪者の約 7 割は自動車）</li> </ul> <p><b>【バス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仙台空港⇄松島海岸直行バスが 1 日 7 往復運行</li> <li>・ 秋保⇄仙台⇄松島間の定期観光バスが毎日運行（宮城交通）</li> <li>・ JR 松島駅、JR 松島海岸駅、松島海岸通り、ホテル 6 箇所等を巡る観光施設循環バス（100 円）が運行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松島駅（東北本線）と松島海岸駅（仙石線）のどちらの駅を利用した方が便利なのか、よくわからない</li> <li>・ 国際観光地の駅舎としては、規模が少し小さい</li> <li>・ 繁忙期の駐車場の収容能力不足（計 1,553 台）。渋滞の要因の 1 つ（特別名勝のため、海岸沿いに駐車場を増やせない）</li> <li>・ 国道 45 号は、産業道路的役割も担うため、大型貨物車等の混入率も高く朝夕を中心に渋滞が日常的</li> <li>・ 「国道 45 号の歩道は狭い」と 41% の観光客が感じている *2</li> <li>・ 仙台空港アクセス鉄道開通と同時に塩竈経由直行バス路線が廃止</li> <li>・ 四大観等ビューポイントを巡るバス路線がない</li> <li>・ 平成 17 年 4 月から、7～18 時台 30 分間隔で運行（H17 利用客数 101,016 人）しているが、観光客にまだまだ周知されていない</li> </ul>

	<p><b>【航空機】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東北最大の国際空港である仙台空港から三陸自動車道利用で40分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直行バス路線が廃止（前掲）</li> </ul>
	<p><b>【船】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内海で波穏やかなため遊覧船等安定した海上観光サービスが可能</li> <li>松島と塩竈のどちらからでも遊覧船に乗船可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他人に勧めるほどの満足度の高いものにはなっていない</li> <li>どちらから乗船したら、どのような特徴があるのか、利用者が判断できない</li> </ul>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光地としての知名度がある</li> <li>英語のホームページが整備されている（松島町）</li> <li>11ヶ国語の着地型パンフが整備されている 英語・中国語（簡体・繁体）・韓国語・仏語・独語・伊語・スペイン語・ポルトガル語・ロシア語・タイ語</li> <li>せんだい宮城フィルムコミッションを通じ、TVロケ誘致支援による映像によるシティセールスによって、実績も年々向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光協会のホームページ「電腦松島絵巻」は日本語版のみ</li> <li>東北有数の観光地でありながら、東北各地の主要観光地のホームページに直接リンクできない</li> <li>一番欲しい情報「グルメ・飲食店・宿泊施設情報」に十分な対応ができていない</li> <li>エリア観光ガイドブックが不備</li> <li>食・土産・宿泊施設・観光推奨ルート等の情報量がある質の高いガイドブック等は未整備</li> </ul>
食	<ul style="list-style-type: none"> <li>松島名物は「牡蠣」と「穴子」</li> <li>ちょっと贅沢な昼食をテーマに、地場の食材を活用した「松島・四季彩食料理コンテスト」（松島三ツ星ランチ）が2002年から行われ、徐々に成果を上げつつある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多彩な海鮮食材があるものの、「食」の町としてのイメージが弱い</li> <li>不満要因にはなっていないが、魅力を高める要因にもなっていない *2（半数強が「普通」と回答）</li> <li>食事の提供価格に割高感がある *2</li> <li>松島三ツ星ランチが、観光客に周知されるまでには、まだ至っていない</li> </ul>
宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>27軒のホテルや旅館を有する（多様なグレードに対応可能）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>温泉ではない</li> <li>中グレード以下の宿泊施設に対し、料金・サービス面での苦情が多い</li> </ul>
スポーツ関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨット・プレジャーボートの基地があり、松島運動公園を活用した合宿地としての活用が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光資源としての意識があまりない</li> </ul>
訪日外国人旅行者	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪日外国人旅行者からみた、松島の印象は自然美◎、歴史文化○、ホスピタリティ△</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の案内板の英語表記にとどまり、多言語表記がない</li> <li>訪日外国人旅行者が改善を望むものは、「外国語表示の充実」と「会話能力の向上」</li> <li>観光地中心部にATMがない</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレジットカード対応の飲食店・土産店がない</li> <li>・訪日外国人旅行客に、対応できる飲食店が少なく、情報も少ない</li> </ul>
<b>松島の魅力 (観光資源)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本三景の多島海の自然美</li> <li>・瑞巖寺・五大堂を始めとする歴史文化遺産</li> <li>・いにしえからの歌枕の地 (西行法師、松尾芭蕉)</li> <li>・牡蠣を中心にした豊富な魚介類</li> <li>・多様な客層に対応できる宿泊施設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しずつ改善されてきているものの、日本三景の町でありながら、海岸のゴミがイメージダウンと観光客の指摘を受けることがある(湾内や湾岸が汚い+やや汚い65.1%)*5</li> <li>・土産店の閉店時間が早い</li> <li>・瑞巖寺が平成21年から大修理される予定で、主要観光施設が数年間拝観できなくなる</li> <li>・一部客引き行為によるイメージダウン</li> <li>・観光施設の1つ1つの紹介(案内板・説明板)が不十分</li> </ul>

## 4. 平泉町の観光の現状と強み弱み

### (1) 平泉町の概要

#### ① 自然環境

岩手県の南部、盛岡市と仙台市のほぼ中間に位置する。

北上盆地を挟んで、東は東稲山を主峰とする500m級の連山、西は奥羽山脈から張り出す標高200m内外の平泉丘陵の間に市街地が形成されている。また、盆地中央を北上川が南流し、平泉丘陵を挟んで西から戸河内川太田川が流入しており、気候は内陸型で、平均気温は11.5℃とやや低い。

#### ② 社会環境

平泉町は、藤原清衡が平安時代の地方都市である奥州平泉の地に都を築き、藤原氏三代にわたって約100年間に、仏教寺院・浄土庭園等の華麗で傑出した独自の地方文化をつくり、その文化遺産を大切に継承し、豊かな自然と歴史の町を築きながら今日に至っている。

本町には、金色堂で有名な中尊寺や毛越寺、源義経の終焉の地となった高館義経堂等、数多くの奥州藤原文化の栄華を極めた文化遺産が遺され、古くから東北を代表する観光地となっている。

北上川など河川沿いの沖積地と山地暖斜面を利用して、古くから「米作プラス商業的畑作」という複合経営が営まれてきた。

人口は、昭和60年の9,703人をピークに、8,922人まで漸減している。

#### ③ 指定文化財

指定文化財のうち、国指定のものは以下の通りである。

- |           |  |
|-----------|--|
| 【国指定】特別史跡 | 中尊寺境内、毛越寺境内附鎮守社跡、無量光院跡、旧観自在王院庭園            |
| 史跡        | 柳之御所遺跡、金鶏山、達谷窟                             |
| 特別名勝      | 毛越寺庭園、旧観自在王院庭園                             |
| 国宝        | 中尊寺金色堂、金銀字経、金銅華鬘                           |
| 重要文化財     | 金色堂覆堂、中尊寺経蔵、白山神社能舞台、千手観音菩薩立像、願成就院宝塔、釈尊院五輪塔 |
| 重要無形民俗文化財 | 毛越寺延年の舞                                    |

### (2) 平泉町の観光の概要

#### ① 主な観光資源

平泉町は、藤原清衡が平安時代の地方都市である奥州平泉の地に都を築き、藤原氏三代にわたって約100年間に、仏教寺院・浄土庭園などの華麗で傑出した独自の地方文化をつくり、その文化遺産を大切に継承し、豊かな自然と歴史の町を築きながら今日に至っている東北を代表する観光地である。

【歴史文化遺産】 中尊寺、毛越寺、高館義経堂、達谷窟、平泉郷土館、柳之御所資料館  
平泉文化史館

【イベントなど】 毛越寺常行堂二十日夜祭(1月20日)、中尊寺節分会(2月)、春の藤原まつり(5月1～5日)、毛越寺「曲水の宴」(5月)、毛越寺あやめまつり(6～7月)

芭蕉祭全国俳句大会(6月)、水掛け神輿渡御(7月)、中尊寺薪能(8月14日)、大文字まつり(8月16日)、毛越寺萩まつり(9月)、中尊寺菊まつり(10月)、春の藤原まつり(11月1～3日)

## ②観光客入込客数

本町の観光入込客数の推移をみると、金色堂が大修理落慶した昭和43年に100万人の大台に乗り、その後概ね微増しながら平成5年にはNHK「炎立つ」の大河ドラマが放映されたことにより255.3万人まで増加したが、平成16年は167.1万人まで減少した。しかし平成17年は、1月からNHKの大河ドラマ「義経」が放映されたこと等により、大幅に増加し220.8万を超えた。

観光客の内訳をみると、県外からの入込が8割を占めており、その数は昭和61年～平成6年にかけて200万人前後で推移していたが、平成16年は137.2万人まで減少している。また県内観光客数も同様な傾向で推移し、近年は50万人前後から約30万人に減少している。

観光客の宿泊・日帰りの状況は、宿泊客数が3.7万人であるのに対し、日帰り客数は217.1万人となっている。

月別に観光入込客数をみると春の藤原まつりとゴールデンウィークが重なることから5月が最も多く、次いで8～10月、1月が多く、逆に2～3月、12月が少なくなっている。

観光客の利用交通状況(H16)を見ると、定期路線交通機関39.2%、貸切バス14.6%、マイカー46.2%で、列車や定期路線バス等の公共交通機関と貸切バスの利用度が高いことが、本町の大きな特色となっている。

また、外国人旅行者数は12,251人(H17)となっており、地域別ではアジアが全体の約7割を占める。国別にみると台湾が圧倒的に多く、次いで韓国、アメリカと続く。

### 【入込客総数(人)】

平成年	入込客総数	日帰り客	宿泊客	県内客	県外客
元	2,509,000	2,423,197	85,803	489,850	2,019,150
2	2,365,995	2,275,438	90,557	478,459	1,887,536
3	2,420,686	2,313,363	107,323	504,026	1,916,660
4	2,353,310	2,239,413	113,897	506,031	1,847,279
5	2,553,392	2,426,469	126,923	517,867	2,035,525
6	2,449,785	2,329,596	120,189	402,986	2,046,799
7	2,051,261	1,959,742	91,519	314,788	1,736,473
8	1,939,869	1,846,368	93,501	359,218	1,580,651
9	1,935,562	1,870,032	65,530	337,818	1,597,744
10	1,643,569	1,606,810	36,759	360,353	1,283,216
11	1,560,625	1,514,280	46,345	303,381	1,257,244
12	1,700,050	1,654,744	45,306	324,757	1,375,293
13	1,630,600	1,579,225	51,375	283,763	1,346,837
14	1,625,300	1,580,246	45,054	285,383	1,339,917
15	1,650,200	1,610,253	39,947	313,133	1,337,067
16	1,671,000	1,634,461	36,539	298,747	1,372,253
17	2,208,500	2,171,386	37,114	448,836	1,759,664

### ③観光客の動態

平成 17 年度に、平泉観光おもてなしプロジェクト委員会が実施した「お客様アンケート調査」(サンプル数 289)では、回答者の居住地は、首都圏、東北近県からの観光客が多い。注目すべきは、サンプル数は少ないものの全国から来町していることであり、東北を代表する観光地であることがそのことからもうかがえる。

同行者の状況については、友人、夫婦、家族等、小グループ化の傾向が見られるものの、団体ツアーの割合が依然高く、本町観光の大きな特色となっている。また、リピート状況は約6割弱で、そのうち1割が5回以上のリピーターとなっている。

旅行目的については、「史跡・名所」が最も多く、次に、「自然・風景」⇒「歴史・民話」、「温泉」⇒「義経ブーム」の順となっている。

立ち寄り施設は、中尊寺(218/289:75%)、毛越寺(160/289:55%)が圧倒的に多く、その他の柳之御所遺跡、柳之御所資料館、無量光院跡、達谷窟、高館義経堂、平泉郷土館、伽羅御所跡、旧観自在王院庭園、悠久の湯、金鶏山、弁慶堂などの観光施設については、今後の整備によって立寄率の増加が期待されるものの、サンプル数は少なく1割以下であった。

また1番良かった観光施設では、中尊寺をあげる人が圧倒的に多く(156/289:54%)、次いで毛越寺(38/289:13%)となっており、中尊寺と毛越寺の両方と回答した人(17/289:6%)もみられたが、それ以外の施設をあげた人は、全サンプル中3人しかいなかった。

来町前の観光地は、花巻、松島・巖美溪、江刺藤原の郷・仙台、気仙沼・盛岡、宮古、一関、雫石・小岩井農場・猊鼻溪・遠野の順になっている。

### ④世界遺産登録に向けた動き

「平泉の文化遺産」は平成 12 年 11 月 17 日、文化財保護審議会において世界遺産条約特別委員会の審議の決定を受け、平成 20 年 7 月の世界遺産の登録を目指し、各種の事業が推進されている。

### ⑤平泉の文化遺産の評価

「平安末期に奥州平泉で、藤原氏三代にわたる約 100 年間に、藤原氏一族が都の文化を受容しつつ、独自に発展させた仏教寺院・浄土庭園等の華麗な黄金文化遺跡群であり、我が国の古代から中世への過渡期における地方文化の中で傑出した事例である。」

また、考古学による調査を基本とした文化遺産が、世界遺産登録を目指すのは初例である。更に、三代がそれぞれ浄土庭園を造っていることも、世界的に例が類例のない貴重な遺産と評価されている。

### ⑥文化遺産の構成

「平泉—浄土思想を基調とする文化的景観」は次の資産から構成される。これらが世界遺産の中核となるコアゾーンにあたり、その周辺の景観を含めた区域が、利用制限を受けるバッファゾーンとなる。

建造物6件：中尊寺金色堂(平泉町)、金色堂覆堂(平泉町)、中尊寺経蔵(平泉町)、  
白山神社能舞台(平泉町)、願成就院宝塔(平泉町)、釈尊院五輪塔(平泉町)  
史跡7カ所：中尊寺境内(平泉町)、毛越寺境内附鎮守社跡(平泉町)、

無量光院跡（平泉町）、柳之御所・平泉遺跡群（\*）、金鶏山（平泉町）、  
達谷窟（平泉町）、骨寺村荘園遺跡（一関市）

\* 柳之御所・平泉遺跡群は、柳之御所遺跡（平泉町）、長者ヶ原廃寺跡  
（衣川村）、白鳥館遺跡（前沢町）の3つの史跡で構成されている。

名勝2カ所：毛越寺庭園（平泉町）、旧観自在王院庭園（平泉町）

### **（3）観光の課題**

本町は、全国的に知名度の高い歴史遺産を有し、それらを観光資源とすることで観光イメージを築いてきた町であり、今後もその基本姿勢に変わりはないが、次の7つが主な課題となっている。

#### **①滞在時間の延長**

観光客数の大半は、日帰り客であり、滞在時間が短く、中尊寺のみ、あるいは中尊寺と毛越寺の2箇所のみという観光客が大半を占める。線から面への対応策が展開されてきたものの、依然として大きな課題となっている。

#### **②世界遺産に相応しい景観形成**

世界遺産に登録される「平泉―浄土思想を基調とした文化的景観」はもとより、周辺の自然環境や町並みや道路、河川等の景観を含め地域全体が評価の対象となるため、世界遺産の町に相応しい質の高い景観づくりを一つずつ丁寧に実行していくことが必要である。

#### **③産業としての観光**

観光は、宿泊、物産、輸送などの観光に直接関係する産業だけでなく、実に多くの産業と関連し、また生産誘発、雇用の場の創出、地域そのものの活性化等、今後の持続的な本町の財政基盤を支える基幹産業としての期待は極めて大きい。本町は、我が国有数の歴史的、文化的資源を有するが、それらを、町の産業経済の発展に大きく寄与するように、世界遺産登録を契機として、産業としての観光の認識を高めつつ、より一層の産業振興につなげていくことが大きな課題となっている。

#### **④ホスト意識とホスピタリティ**

本町には、1年間に定住人口の200倍以上もの観光客が訪れている。世界遺産に登録されれば、好むと好まざるに関わらず、さらに観光客数は増加し、日本を代表する顔として、訪れる人の期待を裏切らない努力を、継続的に行っていくことが本町の責務となる。

旅行の満足度は、ただ単に観光資源の素晴らしさだけではなく、どれだけその土地の人と交流し、好印象を持てるかで決まり、もてなしの心やホスピタリティが重要である。

観光客の満足度を高め、リピーターになってもらうためには、直接観光に携わる人だけでなく、観光に対する意識の高揚を図り、町民のコンセンサスを図りながらホスト意識を持ち、町民が主役になって、町全体で取り組んでいく必要がある。郷土を愛する意識や訪れた観光客を温かく迎え入れる姿勢を持つ等、町民の観光のまちづくりに向けた一層の意識改革と観光振興に取り組むための体制づくりが求められる。

#### **⑤人材育成**

昨今の景気低迷に伴い、苦戦する観光地が多いなか、着実に成果を上げているところも

確実に存在する。成果を上げている地域を見てみると、いち早く地域の資源に気づき、既成の枠組みを乗り越え、果敢に挑戦する魅力的な地域リーダーが存在し、重要な役割を果たしている。そのことは、さほど優れた観光資源のない温泉地に、年間 400 万人もの観光客が訪れるまでになった湯布院の実例をみると、数人のリーダーの存在によるところが大きいことは周知のところである。

本町では、ボランティアガイドなどの人材育成を行ってきたが、よそに出向き平泉の観光や活動をPRするような人や、観光を引っ張っていくリーダーなどの人材の創出や育成が課題となっている。

#### ⑥観光しやすい環境の整備

世界遺産の町として、期待を裏切らないことが、ある意味で本町観光の使命になるは前述したが、言い方を変えれば、観光客の視点に立って、訪れやすい環境をつくるということであり、観光客の「不満・不安・不便」なところを解消していくということである。

交通に関する課題では、新幹線と在来線、またJRとバスの接続の問題、国道4号の中尊寺交差点の休祭日の慢性的な渋滞や駐車場不足等が観光客の不満要因になっている。

また、レンタサイクルの利用、高齢者・障害者等への対応、観光情報についてもまだまだ改善すべき点があり、緊急性を要するものから順次改善していく必要がある。

#### ⑦外国人観光客の受け入れ態勢

外国人観光客の増加に伴い、これまで本町は案内標識の英語併記、説明板の一部は英語・韓国語・中国語の併記、英語版ガイドブックの作成、通訳ガイドの養成などを行ってきたが、まだ十分とはいえず、外国人観光客が安心・安全に観光できるよう、案内標識、インフォメーションセンター等のハード面の整備や、受け入れ施設の対応能力の向上等、ハード、ソフトの両面から受け入れ態勢の強化を図る必要がある。

### (4) 観光振興へのこれからの取り組み

平泉町では、今年3月に策定された観光振興計画（平成18年度～平成22年度）に基づいて4つの柱からなる観光施策を展開しようとしている。

#### ①魅力あふれる観光地づくり

##### ■ 歩いて楽しく、豊かな時間を過ごすことのできる観光地づくりの推進

観光客が中尊寺や毛越寺ばかりでなく、町全体をゆっくりと楽しく回遊できるよう、気軽に楽しめる施設の整備やストーリー性のある観光モデルコースを設定する。

##### ■ 世界遺産の保全・整備

世界遺産登録に向け、文化遺産の保全や復元、コアゾーンの整備等を推進すると共に、世界遺産に寄与する関連施設を整備する。

##### ■ 世界遺産に相応しい景観形成の推進

観光客は、世界遺産の町に大きな期待を抱き訪れる。その期待を裏切らない、世界遺産に相応しい景観づくりを推進する。

### ■ 町民が楽しむイベントの創出

観光と言うと、ともすれば町外から訪れる観光客のために何かをすればいいと思われがちであるが、まず住んでいる人が楽しく生活していることが出発点である。地域に活力や魅力がなければ、また来てみたいというリピート需要に繋がらない。本町の観光イメージは歴史遺産に特化しているため、整合しにくい部分もあるが、町民そのものが楽しめる場やイベントやまつりの創出は、活力ある観光地づくりを促進するためには不可欠である。

### ■ グリーンツーリズムの推進

環境教育や自然体験を主眼とした体験型の観光を推進するため、田植え、米や野菜、果樹の収穫等の農業体験ができる観光を推進する。

## ②産業としての観光の振興

### ■ 平泉町ならではの「食」の提供

観光客の「食」に対する満足度を高めるため、平泉あるいは県南地域の食材を活用した風土に根ざした料理を提供すると共に、名物メニューの開発、秀衡塗の食器への活用等、「食」をキーワードにした産業の振興を図る。

### ■ 物産品の開発と販売の強化

産学官の連携を図りながら、伝統工芸の技を活かしつつ、観光客の購買意欲を誘発するような、質の高い物産品の商品企画開発を行う。また、購入需要を促すため、販売施設整備などを検討する。

## ③やさしく迎える観光地づくり

### ■ 観光しやすい環境の整備

観光客サイドの視点に立って、訪れやすい環境をつくるということは、言い方を変えれば、観光客の「不満・不安・不便」なところを解消していくということである。

交通に対する課題では、新幹線と在来線、JRとバスの接続の問題、国道4号中尊寺交差点の休祭日の慢性的な渋滞、休祭日の駐車場不足等が観光客の不満要因になっている。また、レンタサイクルの活用、高齢者、障害者などのバリアフリー対策、交通情報の提供についてもまだまだ改善すべき点があり、緊急性を要するものから、観光客の視点で順次改善していく。

### ■ わかりやすい観光情報の発信

多くの観光客に安心して訪れてもらうためには、わかりやすい観光情報の発信や提供が求められ、大きくは来訪前の情報入手に関わるものと、来訪後の行動を支援する2つに分かれ、その両方に対する施策を推進する。

### ■ ホスピタリティの向上

まずは町民一人ひとりが観光の町であることを再認識し、観光客を温かく迎えるため、観光関連者、行政が連携してホスピタリティの向上に努める。また、観光における活動を活発に推進し支援するため、観光団体の法人化やNPO法人等の設立に対する支援を行う。

### ■ 観光人材の育成

観光人材の面では、訪れた観光客に対して、ホスピタリティや観光案内の充実に向け、

歴史や文化をはじめ、接客サービス、情報提供等の分野において専門的知識を有する観光マイスター、観光交流の担い手となるリーダーなどの育成を図る必要がある。また、外に出向いて本町の素晴らしさを語り誘客効果を高める観光のスポークスマンや観光大使を養成する必要がある。

#### ④国際観光・広域観光連携の推進

##### ■外国人観光客の受け入れ態勢の整備

世界遺産登録後、急増することが予想される外国人観光客に対応するため、観光ガイドブックやマップの整備、観光案内板などの多国語表記を進め、観光案内所の対応能力の強化や、通訳ガイドの拡充、受け入れ態勢の整備に努め、外国人が安心して訪れることができる観光地づくりを進める。特に、英語・中国語・韓国語対応に重点をおいて推進する。

##### ■インバウンドの誘客促進

国際観光振興機構（JNTO）や世界遺産を持つ自治体、岩手県、仙台、東北の観光地等との連携を図りながら、誘客活動を推進する。

##### ■広域観光連携の推進

本町の観光振興のみならず、ひいては東北全体の観光振興に寄与することを目的とし、県南地域あるいは仙台や松島などの地域と連携し、合同キャンペーンの実施や誘致、観光情報の発信・ネットワーク化、観光プロモーションの展開等、広域観光連携のメリットを活かした誘客活動を推進する。

### （５）観光モニター体験調査

#### ①実施日時：平成 18 年 8 月 25 日（金）

#### ②出席者（敬称略、順不同）：

仙台市：観光交流課佐藤主幹、原野主事、仙台市総合観光案内所 佐伯  
気仙沼市：畠山観光課主幹、平田主事、気仙沼市観光協会藤田常務理事  
松島町：村松産業観光主事、（社）松島観光協会 猪俣  
平泉町：齋藤農林商工観光課長、千葉課長補佐、（社）平泉観光協会 山平事務局長  
東北産業活性化センター：今野プロジェクト振興部長  
東北地域環境研究室：伊藤

#### ③観光体験コース

10：00 JR平泉駅前観光案内所見学  
10：22 毛越寺拝観（巡回バス「るんるん」）  
10：55 平泉郷土館（館内で観光現状レクチャー）  
12：00 昼食（平泉レストハウスで精進料理）平泉文化史館見学  
13：00 かんざん亭（御遺体調査資料映像）、中尊寺拝観  
14：35 高館義経堂拝観（町バス）  
15：00 無量光院跡見学  
15：20 柳之御所資料館見学  
16：00 達谷窟西光寺拝観  
16：40 平泉観光案内所（2階会議室で意見交換）

#### ④調査結果

##### 【平泉駅までの交通アクセス・平泉駅】

- 東北自動車道からの道はわかりやすかった。
- 新幹線で、一ノ関駅から在来線に乗り継ごうとしたが、待ち時間が45分生じた。利用度の高そうな時間帯だけに、JRに改善を要望すべき。
- 東北本線で松島から来る場合、一関で乗り換えなければならない点が不便。できれば、平泉駅まで行けると観光客には便利。
- 一ノ関駅からの路線バスのバス停が初めての人にはわかりづらく、外国語併記もなく、改善を要する。
- 平泉駅前の駐車場の案内がない。
- 平泉駅コインロッカーに英語の利用方法がなかった。
- 平泉駅の公衆トイレにオストメイト設備があったことは良い。



一ノ関駅前にある平泉行きのバス停

##### 【ゆっくり動ける移動交通】 レンタサイクル1日500円

- 平泉の魅力は藤原時代の歴史の香りをじっくり味わうところにあると思う。歩いて、あるいは自転車でまちなかを巡る中でそうした体験ができればと思う。当時の人たちが食べていた食事が味わえたり、住まいを見たり、といったことができれば楽しいのでは。さすがに馬ののって移動するというのは無理だと思いますが。
- レンタサイクルは良いと思うが、平泉駅前以外にはないようなので、もう少し貸出できるところを増やし、返却は乗り捨て自由というような利用しやすさを提供すれば、もっと観光しやすい町になると思う。
- 各観光施設間は、車で行くには近すぎ、かといって歩くには、多少遠いところにある。したがって、車以外に各施設を移動する手段を充実したほうが良いと感じた。
- レンタサイクルは、借りる場所と返却する場所が、平泉駅前に限定されている。中尊寺、毛越寺でも、借りることができたり、返却できると利用しやすい。
- 更に、安全性の高い3輪自転車トライクの導入や、キーを提示することによって、昼食や商品購入が割引になったりするような、地域振興に向けた展開も合わせて検討してはどうか。



3輪自転車トライク

##### 【平泉駅前観光案内所】

- 観光案内所は、カウンターが長く、そこにいろんなパンフレットが並べられており、利用しやすそうだが、椅子ですわって案内を受けることができればもっと良い。
- 世界遺産登録に向け、「ビジット・ジャパン案内所※」（旧i案内所：外国人観光客に対応可能な案内所）にしていく必要があると思う。

※その後指定を受け、現在はビジット・ジャパン案内所となっている



平泉駅前にある観光案内所



観光案内所のカウンター

### 【巡回バス「るんるん」】 フリーパス一日券 300円

- できれば仙台の「るーぷる」のような非日常を感じさせるバスにして欲しい。町並みに合ったバスが欲しい。
- 普通のバスを転用していたが、平泉の雰囲気にあったデザインのバスであれば、バス自体が観光資源にもなり、良いと思う。
- 便利な移動交通から、平泉を訪れたら是非乗ってみたいと思わせるような化粧直しが必要。「るーぷる」ぐらいまでやればもっと良いが・・・。
- 停留所で確認をしなかったが、車内で料金だけ表記するのではなく、1日券 300円販売と表記があっても良いのでははないか？
- パスに日付を記入した方が、不正使用はないと思う。(バスも運転手さんも何となくほのぼのとして良いかなと思いますが)
- 1日で廻るには時間が足りないと思うので、宿泊施設が増えた場合には巡回バス2日間フリーパスがあっても良いと思う。
- 巡回バス「るんるん」に乗車すると、次の観光施設の説明アナウンスがあるため、観光する前の予備知識を養うことができる。
- 車内アナウンスで、バス停の名称の後に簡単な説明が流れるのが良いと思った。
- 車内アナウンスが流れる際、日本語の後に英語があったほうが良いと思う。
- 巡回バス「るんるん」があるという事が意外に知られていないので、もっとアピールすべきだと思う。→ 時刻表だけでなく、パンフレットがあったほうが良いと思う。
- 巡回バス「るんるん」はとても便利。散策ガイドマップにルートを入れるなどして広報してほしい。
- 知っている人にとっては、便利な交通手段であるが、残念ながら周知不足という感が



巡回バス「るんるん」



1日券にはなぜか日付が・・・

あり、もっとPRすべき。

- 一日乗車券を購入する際、乗車時に運転席まで行って購入しなければならない。混雑時には、長い列ができる事もあり効率が悪いと思うので乗車口そばに発券機をつけたらどうか。
- 巡回バス「るんるん」の、それぞれのバス停を降りてから目的地までの距離がちょうど良い。→ バス停のそばに案内板があるため、位置関係が分かりやすい。
- バス停に英語表記がないので、外国人観光客は乗り場が分かりにくい。→ 今後、世界遺産登録となれば外国からのお客様がますます増えると思うので、バス停をはじめあらゆる場所に英語表記がある事が必要だと感じた。
- 車椅子で「るんるん」に乗車できるのか？

**【毛越寺】 大人 500 円、高校生 300 円、小中学生 200 円**

- たぶん、見落とししたと思うが、四寺廻廊の御朱印はどこですのか見つけられなかった。(中尊寺ではすぐに見つけれられたが)
- 平泉文化史館で毛越寺伽藍のジオラマを見ることができ、藤原文化のすばらしさを再確認したが、このようなジオラマが宝物館にあれば良いと思う。
- 毛越寺は 850 年に慈覚大師によって開かれ、日本有数の極楽浄土を描いた曼荼羅の構図を表現した寺として広く知られている。庭園は、近年復元されたもので、ガイドを受けなければその価値が伝わらないのではないだろうか？



毛越寺の拝観券販売所



毛越寺本堂



大泉が池



毛越寺宝物館

### 【平泉郷土館】

- 平泉郷土館がもっと活用されると良いのでは。毛越寺から中尊寺まで、楽しく歩いて行けるように、沿道にお休みどころを設置したり、誘導の旗を出したりしてはどうか。途中にある郷土館ももっと道路から目立つようにしたらよいと思う。（現状では国道を歩くことになるので難しいと思いますが・・・）
- 平泉郷土館では、入り口付近のカウンターが無人で、カウンター前に資材が置かれており、印象が悪かった。



平泉郷土館

### 【平泉文化史館】 大人 310 円、高校生 150 円、小中学生 100 円

- 無量光院のジオラマを見ることができ良かった。（その後に跡地に向かうと感動が違います。ジオラマを見ずに跡地に行ってもあまり感動しないのではないかと）
- 平泉文化史館にある毛越寺や無量光院のジオラマは大変素晴らしい。もっと多くの人に見ていただくことができれば・・・。



平泉文化史館



文化史館内展示室

### 【食・土産】

- やはり観光地に付き物の食べ物のお土産がほしい。精進料理をアレンジできないだろうか。
- 平泉の「食」としては、精進料理を始め、餅、そばなどがあるが、名物というところまでは至っておらず、観光客にも認知されていない。平泉に行ったら必ず名物料理の〇〇は食べなければというものをつくっていく必要があるのではないだろうか。
- おみやげを買える場所が少ない。  
→ お食事処とともに各観光名所に設置



精進料理

することによって町の収益にも繋がると思う。

- ・平泉町のお土産品としては、秀衡塗やちようちん、ひょうたんなどがあるものの、世界遺産に登録予定されるほどの観光資源からみれば、観光客が期待する質の高いお土産品がほとんどなく、名物料理とともに、お土産品の開発も必要なのではないかと感じた。平泉の場合は、文化遺産の町であるので、美しい映像（多言語版 DVD・ポストカード等）や多言語版ガイドブック等も、お土産品と考えて商品化しても良いのではないだろうか。

## 【かんざん亭・中尊寺】

金色堂・中尊寺宝物館護摩蔵 大人 800 円、高校生 500 円、中学生 300 円、小学生 200 円

- ・かんざん亭で上映があった記録映画は、団体からの要望があった場合のみ放送すると言っていたが、貴重なフィルムであるので、個人観光客向けに定期上映も検討した方が良いと思う。（午前1回、午後1回程度）また、記録映画では、数々の調査を行った結果があまり公表されていなかったもので、調査結果を紙にまとめたものを上映後に配布することも必要であると感じた。
- ・敷地が広いので、所々にベンチなどのお休みどころが欲しい。疲れました。喫茶店のようなものでもあれば尚良い。
- ・音声ガイドに英語や中国語、ハングルもあればよいと思う。（上海美術館では日本語の音声ガイドがあり、より、理解を深めることができました）
- ・金色堂付近にATMがあることは観光客にとって利便性がありよい。
- ・中尊寺の能舞台に上ってみることができたら面白いと思う。めったにできる経験ではないので、人気が出るのではないか。
- ・修復作業の経過を移したビデオは非常に面白かった。見学前に見ていたらもっと興味深く見ることができたと思う。世界遺産指定の際には、中尊寺の中だけではなく、まちなか全体について見所を簡単に解説したビデオを見てから見学できるようにコース設定を考えてほしい。
- ・藤原四代のご遺体調査と金色堂の解体修理のビデオは必見。2つのビデオを30分くらいにまとめ、それを必ず観てから→護摩蔵→金色堂を拝観できれば、もっともっと理解が深まるのではないだろうか。
- ・松島の「大悲亭」で行われていたような、オリジナルの数珠づくり体験等ができるようなところがあると、旅の記念になると思う。



現在の金色堂覆堂



金色堂覆堂



白山神社能舞台

- ・ 町営駐車場周囲のお土産屋さんや食堂が立ち並んでいるが、あまり立ち寄ってみたいような雰囲気を感じなかった。中尊寺が素晴らしいほどに少し残念。一気に建て替えというわけにはいかないと思うので、一軒ずつ建て替えた時に景観に配慮していく必要があると思う。そのためには、今のうちから景観協定などを結んでおいた方が良いと思う。



中尊寺本堂

**【高館義経堂】 大人 200 円、小中学生 50 円**

- ・ 公衆トイレのにおいが漂って臭かった。
- ・ 公衆トイレの悪臭はイメージダウン。浄化槽の設置を望む。それができないなら、強制換気したものの悪臭を、臭突でもっと遠くへ出したほうが良い。
- ・ 義経堂からの眺めは良く、感動しました。
- ・ 芭蕉の句碑の英語説明がない。
- ・ 義経堂から「大」の字が見え、他の場所に移動しても、車窓からこの文字が見え、大文字焼のときはどんな風に見えるのかと想像しました。今回は平泉の方から事前にこの説明を受けたため良かったが、観光客は説明がなければ見逃してしまうかも。
- ・ 高館からの眺めは大変素晴らしかった。
- ・ 束稲山の眺望を見ながら、お茶が飲めたらさぞかし美味しいだろう。
- ・ 歴史上の人物では、あまりに有名な源義経の終焉の地としては、あまり歴史のロマンを感じることができなかった。展示館で、もっと義経や弁慶の生き様がわかるようなビデオでもあれば良いと思う。
- ・ バイパスの必要性は理解できたが、高館からの景観が変わるので、速やかに街路樹などにより自然な景観に戻してほしい。



高館義経堂



高館義経堂から見た束稲山の眺望

**【無量光院跡】**

- ・ 無量光院跡は看板だけでは寂しい気がした。史跡のため整備は難しいと思うが、そばに東屋を作り、ゆっくり景色を眺められたり、お店で買った団子やお茶が飲めると、わざわざ訪れた満足感が味わえると思う。



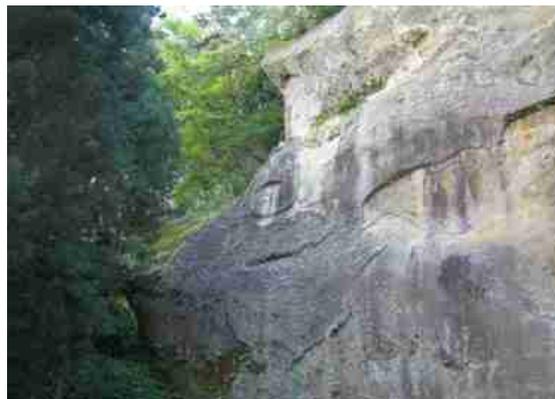
4カ国語の説明板

【達谷窟毘沙門堂】 大人 300 円、高校生 200 円、小中学生 100 円

- 岩面大仏の保全を早急にして欲しい。
- 何のためにこの地に建てられたのか、どうして清水寺なのか、高さはどの位違うのか、つくられた年代は何年違うのか、岩面大仏にはどのような願いが込められているのかなど、価値観を高めるためにも、いろんな視点を加えたガイドがあるととっても楽しく拝観できるのではないだろうか？
- ここはまちなかと離れており、ひっそりとした場所にある。ゆったりとした雰囲気の中で、本堂で法話とか聞ける日があったら嬉しい。また御供所で休憩できると良いと思った。



達谷窟毘沙門堂



岩面大仏

【情報発信・提供】

- 世界遺産になれば観光客が急増することが予測される。列車の待ち時間をつぶせるよう平泉駅あるいは駅前のどこかに、休憩できる喫茶店のようなものがあると良いが、採算性の問題もあり、総合案内センター（世界遺産インフォメーションセンター機能も有する）と共に平泉駅構内に整備されればベスト。
- 世界遺産に登録後は、外国人観光客も増加すると思われるので、音声ガイドの外国語の充実と各施設の看板および案内板の英語等の表記の整備が必要かと思われる。（英語表記がある看板もあったが）
- パンフレットは充実している。
- それぞれの名所はすばらしく、見ごたえがある所ばかりだが、説明板に書かれた長い文章を読むだけでは具体的なイメージを膨らましにくい。  
→ 平泉町は、歴史的な背景を理解してこそ、その魅力が伝わると思うので、説明してくれるガイドの人員をもっと増やし配置してはどうか。



JR平泉駅



平泉観光ガイド事務所

- 平泉は、藤原文化を理解しないとわからないことが多いのではないかと思いますので、説明があってから、各施設を回るツアーがあっても良いのではないのでしょうか？
- 気仙沼や松島でも感じたことだが、平泉の魅力（観光資源や特産品、食等）を観光客が15～20分くらいの映像で予習して、観光をスタートすることができるような場所が必要なのではないかと感じる。
- 中尊寺、毛越寺などの歴史文化遺産は、ガイドを受けながら拝観するのと、ただパンフレットを片手に漠然と拝観するのでは、旅先の心に残る印象、その観光資源に対する価値観が全く違うものになる。利用料金や人数の問題等、個人客が気軽にガイドを頼みにくいところもあり、時間毎にフリーの客が集まれば低料金でガイドを受けることができる等、もっと安価で利用しやすいガイドシステムを望む。

### 【その他】

- 駅から毛越寺までの町の景観が良いが（小学校、一般住宅、銀行もすべて平泉の雰囲気大切にしている）コンビニが台無しにしているので、何とかして欲しい。（ローマのマクドナルドは回りの景観を意識した外観でした）
- 平泉郷土館、平泉文化史館、毛越寺の宝物館とも、似た感じの建物で、それぞれがあまり印象に残らないのが残念に思った。展示品をきちんと見たわけではないが、同じような資料がたくさんある・・・という印象を持った。
- 一日平泉を観光してみるとわかるが、とにかく気軽に休憩できる場所が少ない。歩いて楽しいまちづくりを進めるためには、必要な機能であり、既存の飲食店の活用を含めながら、まちなかの気軽に利用できる休憩機能を高めていく必要がある。
- たくさんある施設をもっと多くの人に快適に見学してもらうため、お得感のある共通チケットなどのサービス導入を検討してほしい。
- 全部の施設の共通券があれば、いちいち拝観券を購入する必要もないと思う。また、「るんるん」1日券を提示すると割引になる制度があればよい。
- 車椅子で毛越寺や中尊寺の駐車場からどのように行くのか？
- 1日では見学時間が足りないくらい歴史と文化のある街。
- 各施設内に、資料館、博物館などがあるため、その施設を深く学ぶことができる。
- 平泉は一日でまわるのは大変なほど見所がたくさんあるので、宿泊施設がないというのは不便だと思う。
- 各観光名所の案内板・説明文のほとんどに英語表記がない。
- 観光地の敷地内にある売店やお休み処のスタッフの方が積極的に挨拶をして下さりとても気持ちが良い。



秋保大滝の茶屋



松島寺町の茶屋

→ 旅先ではその地の人とのふれあいが思い出のひとつになる事もあるのでとても大切な事だと思う。

- 平泉町は、町全体の景観を損ねないために、信号機やあらゆる看板、案内標識に至るまで色やデザインに気を配っており自然との調和を図った美しい町だと思った。
- いずれの観光スポットも「本物」を感じさせるものだった。今後整備が必要な部分もあると思うが、史跡の部分は出来るだけ手をつけないほうがよいのではないかと思われる。
- 平泉は、一級品の文化遺産があるが、再訪ニーズとなると、度々来てみようとする観光客は少ないのではないだろうか？座禅、漆器づくり、数珠づくり、携帯ストラップづくり、扇子づくり、手拭染色、精進料理づくり、そば打ちなどの体験メニューがあったら、もっと楽しいのでは・・・。



整備された毛越寺通り

## **(6) 平泉町の観光の特徴、強み弱み**



中尊寺金色堂（国宝）の覆堂



達谷窟（国指定史跡）

### **【参考資料】**

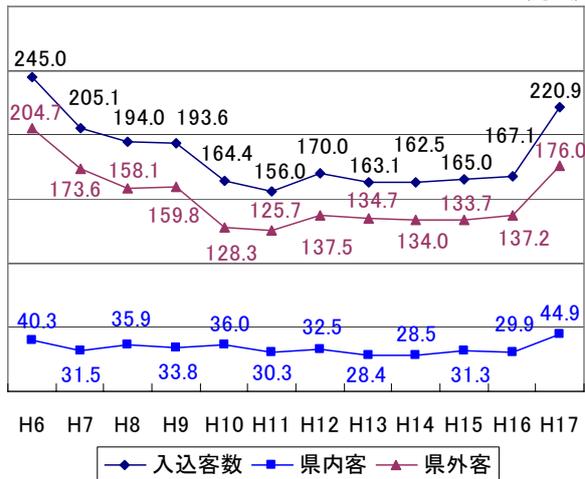
- \* 1 「平成 17 年度お客様アンケート実施報告書」  
平泉町観光おもてなしプロジェクト委員会  
サンプル数： 289 男性 46.7%、女性 49.1%、無回答 4.2%  
手法：観光客からのヒアリング
- \* 2 「観光統計概要」岩手県
- \* 3 平泉町農林商工観光課資料
- \* 4 「東北じゃらん 2006 年 10 月号」人気観光地ランキング  
サンプル数： 1,221 対象：読者 手法：投函
- \* 5 「訪日外国人旅行者調査 2003-2004」国際観光振興機構（JNTO）
- \* 6 「自由時間と観光に関する世論調査」平成 15 年 8 月調査 内閣府

# 1

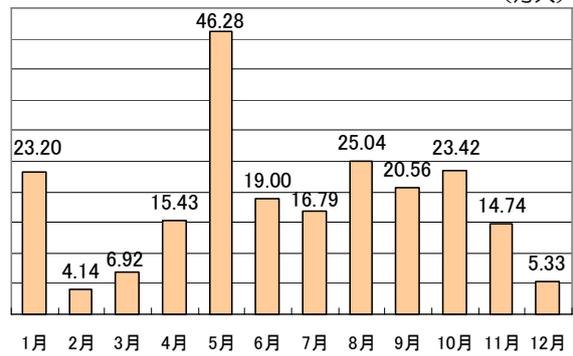
## 観光入込客数

- 平成5年以降漸減傾向にあったが、NHK大河ドラマ「義経」が放映されたことによって、平成17年は大きく増加\*3
- 観光客の約8割が、県外客\*3
- 春の藤原まつりとゴールデンウィークが重なる5月がハイシーズン\*3

観光入込客数の推移 (万人)



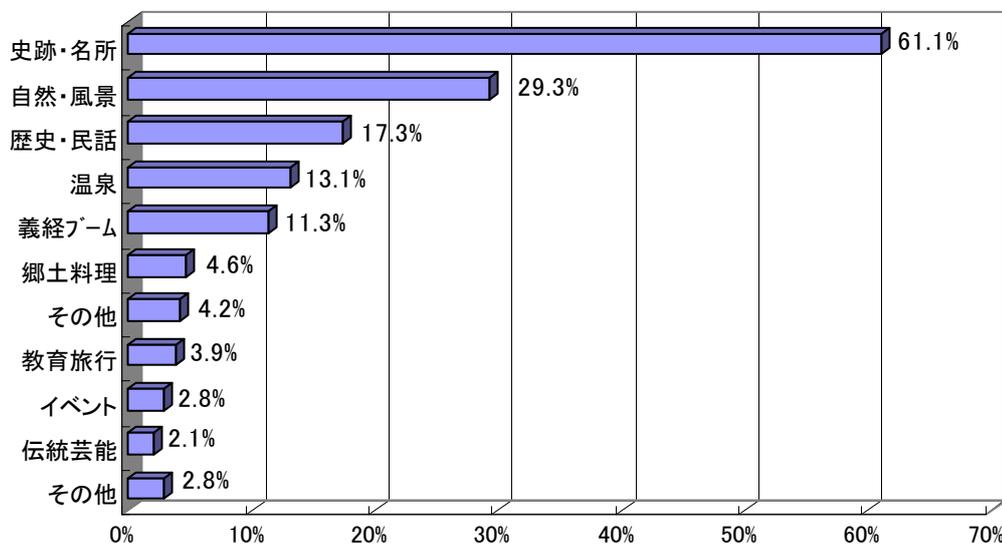
月別観光入込客数 (万人)



# 2

## 観光目的

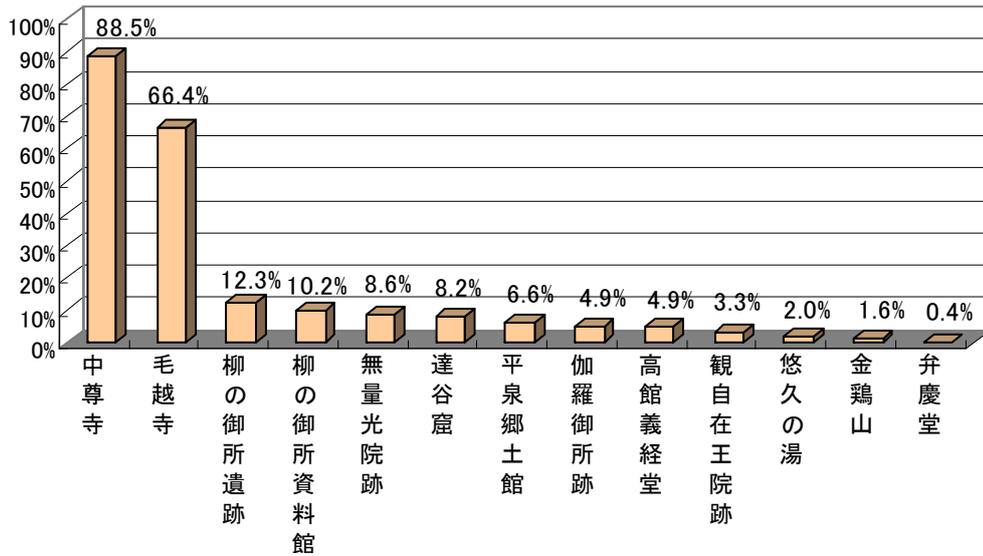
- 観光客の来訪目的は、「史跡・名所」61.1%⇒「自然・風景」29.3%⇒「歴史・民話」17.3%の順で、「郷土料理（食）」を目的にあげた人は、複数回答でありながらわずか4.6%しかいなかった\*1



# 3

- 平泉町内の訪問先は、「中尊寺」が88.5%、「毛越寺」66.4%の2つの寺に集中 \*1
- 他の施設へ訪問率は低い \*1

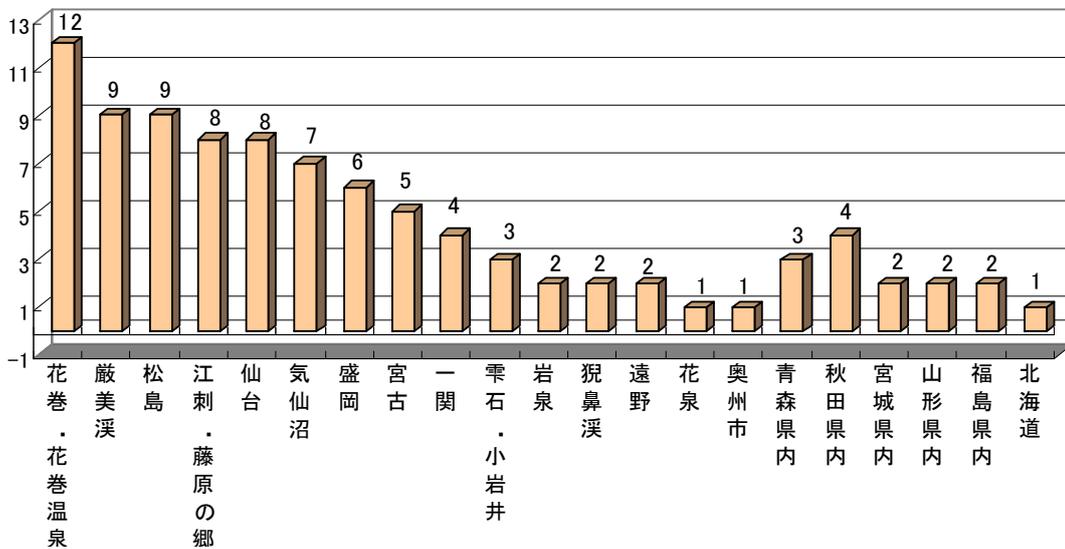
## 訪問先(町内)



# 4

- 町外の立寄先は(回答人数77)、「花巻・花巻温泉」⇒「巖美溪」、「松島」⇒「江刺・藤原の郷」、「仙台」⇒「気仙沼」⇒「盛岡」⇒「宮古」の順となっている \*1

## 訪問先(町外)



# 5

## 宿泊客

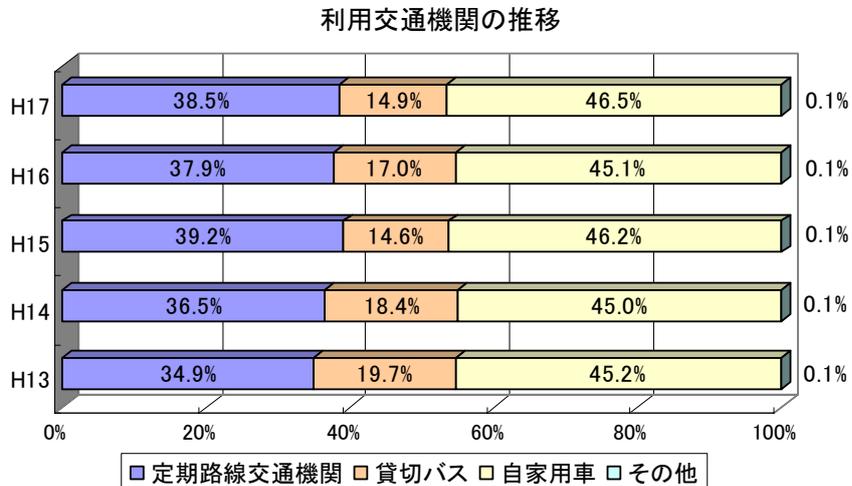
- ・観光客のほとんどが日帰り客で、宿泊客は2～4%程度にすぎない \*3
- ・宿泊客数も、全体の観光入込客数と同様に漸減傾向。義経ブームとなった平成17年は、日帰り客数は大きく増加したものの、宿泊客数はほとんど増加しておらず、平成5年ピーク時の約3割まで、大幅に減少している \*3



# 6

## 利用交通

- 【利用交通】：半数弱が「自家用車」利用 \*2
- 【定路線交通】：路線バスもあるが、ほとんどはJR利用客 \*2
- 【巡回バス】：31,017人 (H17実績) \*3
- 【駐車場利用 (H17)】：  
駐車場の利用台数の57% (83,099台) が、中尊寺第1駐車場、36% (H17 52,466台) が毛越寺駐車場を利用 \*3



# 7

## ニーズ

- ・「もう一度行きたい観光地」東北 BEST10 にも、「今年行ってみたい観光地」の岩手県内 BEST10 にも選ばれていない \*4
- ・平泉の観光ニーズは、「文化遺産」\*1

今年行ってみたい観光地 東北 BEST10

1	秋保温泉	宮城	235
2	男鹿半島	秋田	195
3	銀山温泉	山形	192
4	乳頭温泉郷	秋田	151
4	スパリゾートハワイアンズ	福島	151
6	アクアマリンふくしま	福島	144
7	けんじワールド	岩手	137
8	奥入瀬溪流	青森	127
9	気仙沼市・志津川	宮城	123
10	鳴子温泉郷	宮城	120

今年行ってみたい観光地 東北6県毎 BEST5

青森		宮城		山形	
1	奥入瀬溪流	1	秋保温泉	1	銀山温泉
2	黄金崎不老ふ死温泉	2	気仙沼・志津川	2	鶴岡(湯野浜・湯田川・温海)
3	十和田湖	3	鳴子温泉郷	3	山形蔵王
4	浅虫温泉	4	松島・塩竈	4	かみのやま温泉
5	下北半島	5	仙台市	5	肘折温泉
6	白神山地	6	作並温泉	6	白布温泉
7	弘前市	7	遠刈田温泉	7	米沢市
8	津軽半島	8	女川・石巻・牡鹿半島	8	天童温泉
9	八戸市	9	宮城蔵王	9	山寺
10	酸ヶ湯温泉	10	栗駒	10	酒田、さくらんぼ東根温泉
岩手		秋田		福島	
1	けんじワールド	1	男鹿半島	1	スパリゾートハワイアンズ
2	花巻・花巻温泉郷	2	乳頭温泉郷	2	アクアマリンふくしま
3	小岩井農場	3	角館	3	二本松・岳温泉
4	安比高原	4	玉川温泉	4	会津若松市(東山・芦ノ牧)
5	宮古市・浄土ヶ浜	5	十和田湖	5	猪苗代
6	遠野	6	田沢湖	6	大内宿・湯野上温泉
7	雫石・鶯宿温泉	7	大曲	7	裏磐梯
8	龍泉洞	8	小安峡温泉郷	8	飯坂温泉
9	つなぎ温泉	9	八幡平	9	喜多方市
10	一関温泉郷・巖美溪	10	鳥海山	10	磐梯熱海温泉

もう一度行きたい観光地 東北 BEST10

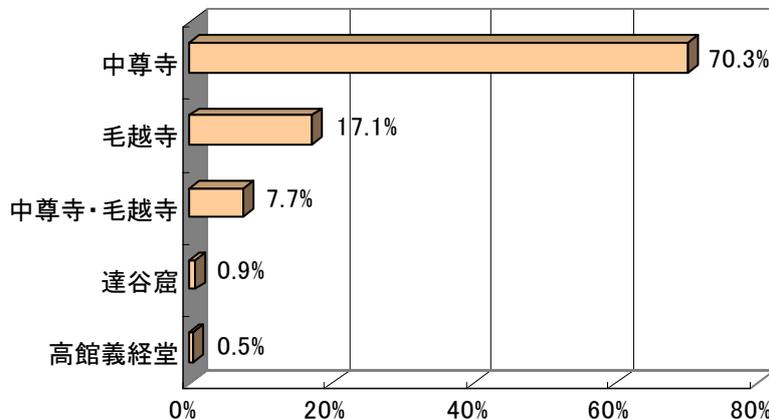
1	乳頭温泉郷	秋田	51.1%
2	アクアマリンふくしま	福島	51.0%
3	銀山温泉	山形	48.4%
4	黄金崎不老ふ死温泉	青森	44.2%
5	奥入瀬溪流	青森	43.1%
6	けんじワールド	岩手	42.6%
7	小野川温泉	山形	41.9%
8	肘折温泉	山形	40.6%
9	会津若松市(東山・芦ノ牧)	福島	39.7%
10	磐梯熱海温泉	福島	37.9%

# 8

## 満足度

- ・「行ってみて良かった観光地」の岩手県内 BEST5 に選ばれていない \*4
- ・平泉で一番良かったところは、7割の人が「中尊寺」\*1

平泉で一番良かったところ



行って良かった観光地  
岩手県、宮城県 BEST5

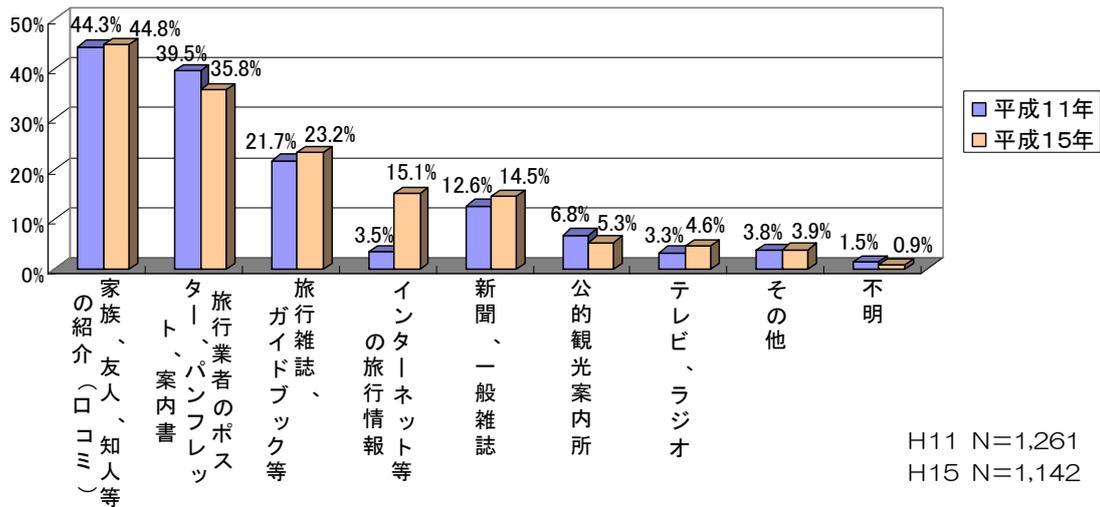
岩手		
1	八幡平	52.6%
2	けんじワールド	47.5%
3	龍泉洞	46.7%
4	狹鼻溪	45.1%
5	安比高原	44.4%
宮城		
1	栗駒	49.0%
2	松島・塩竈	44.5%
3	作並温泉	43.9%
4	鳴子温泉郷	42.4%
5	仙台市	39.8%

# 9

## 情報提供

- 観光案内所の利用客数は、増加傾向  
(H15: 12,378人⇒H16: 13,113人⇒H17: 20,571人) \*4
- 情報源は「家族・友人(口コミ)」⇒「旅行者のパンフレット等」  
⇒「旅行雑誌、ガイドブック」⇒「インターネット」の順 \*6

国内旅行のための 情報の入手方法



# 10

## 訪日旅行者

- 年間外国人観光客入込数は、台湾 6,418人が圧倒的に多く、次いで韓国 347人 (H16) \*3
- 観光目的の訪日外国人の訪日動機は⇒「日本人の生活の見聞・体験」32.1%⇒「買物」31.9%⇒「日本への憧れ」29.2%⇒「日本食」26.8%⇒「自然・景勝地」24.4%⇒「リラックス・温泉」23.1%⇒「歴史・町並み・建造物」16.2%⇒「伝統文化の見聞・体験」15.0%の順 \*5

外国人観光客入込数 (人)



国別観光客数の推移 (人)

	H13	H14	H15	H16
台湾	5,757	5,527	6,073	6,418
韓国	113	342	369	347
アメリカ	90	130	52	47
イギリス	28	46	32	39
オーストラリア	12	22	34	30
ドイツ	16	35	26	28
フランス	13	37	49	25
スイス	12	8	4	20
カナダ	20	11	5	7
その他	18	34	46	32
不明	2,369	2,661	2,591	2,757
合計	8,448	8,853	9,281	9,750

## 平泉町観光の強みと弱み

種別	強み	弱み
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>盛岡市と仙台市のほぼ中間地点</li> <li>夏は涼しく、東北地方としては冬の降雪量が少ない</li> <li>「平泉－浄土思想を基調とする文化的景観」をユネスコの世界遺産センターに登録推薦書を提出。順調に進めば東北・北海道で初めての文化遺産となる（H20年7月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口は微減傾向</li> <li>度々水害（洪水等）にみまわれてきた（堤防建設中）</li> <li>世界遺産暫定リストに登録されているため、開発が制限される</li> </ul>
観光入込客数	<ul style="list-style-type: none"> <li>中尊寺、毛越寺の2寺に観光客が集中 *3</li> <li>5月、8～10月は観光入込客数が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の観光資源・まちなかには、観光客があまり立ち寄らない</li> <li>季節格差が大きい（2月・12月は少ない）*3</li> </ul>
交通	<b>【鉄道】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>東北新幹線が停車する一ノ関駅から2駅（東京⇄一ノ関：2時間15分、一ノ関⇄平泉：8分）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一ノ関駅には、限られた新幹線しか停車しない</li> <li>新幹線と在来線の乗り継ぎが悪く、不便を感じる列車がある（やまびこ43号9：36着 普通10：21発、待ち時間45分）</li> <li>世界遺産の玄関駅として、機能強化が必要</li> </ul>
	<b>【車】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>仙台・盛岡からは、東北自動車道平泉前沢ICがあり、アクセスは良い（仙台宮城IC⇄平泉前沢IC76分、盛岡IC⇄平泉前沢IC60分）</li> <li>太平洋側の気仙沼市にも国道284号で75分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シーズン時は、町営第一駐車場への入口交差点（国道4号線）を中心に、主に下り車線が渋滞（平泉バイパス平成20年3月予定）</li> </ul>
	<b>【バス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>主な観光施設を巡る、巡回バスが「るんるん」が運行（期間限定）</li> <li>一ノ関⇄平泉⇄中尊寺間は、2路線1日22往復運行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回バスを通常で運行しておらず、観光客に周知不足</li> <li>巡回バスの車体は、路線バスと同じデザイン</li> <li>世界遺産を巡るバスがない</li> <li>バス停がどこにあるのか、始めての人にはわかりにくい</li> <li>仙台⇄平泉を結ぶ都市間バスは運行されていない（仙台⇄一ノ関間一日20往復：所要時間78分）</li> </ul>

	<p><b>【空港】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用可能な空港が2つある（いわて花巻空港から約 60km、仙台空港から約 130km）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両空港からのアクセスが悪い</li> </ul>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地としての知名度がある。</li> <li>・「平泉町の文化遺産」(平泉町世界遺産推進室)の英語、韓国語版のホームページが整備されている</li> <li>・英語、中国語、韓国語のガイドマップや簡易な世界遺産を紹介するパンフレットが整備されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光協会のホームページがなく、観光情報は平泉町のホームページから</li> <li>・平泉町のホームページは速度が極端に遅く、また外国語版も未整備</li> <li>・東北有数の観光地でありながら、東北各地の主要観光地のホームページに直接リンクできない</li> <li>・詳しい世界遺産の情報を提供できる外国語版ガイドブックがない</li> <li>・一番欲しい情報「グルメ・飲食店・宿泊施設情報」に十分な対応ができていない</li> </ul>
食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精進料理、餅料理、平泉式わんこそば等が、平泉を代表する「食」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記のような「食」があるものの、名物料理とまでは至っておらず、観光客にも認知されていない。</li> <li>・「食」の魅力度が不足</li> </ul>
宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台・盛岡等の都市、花巻温泉・鳴子温泉等と連携することが可能な立地環境にある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の中心部にホテルが1件、他は数件の旅館のみで、宿泊収容力は小さく、これといった特色がない</li> </ul>
訪日外国人旅行者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪日外国人旅行者からみた、平泉の印象は歴史文化◎</li> <li>・駅前観光案内所に外国語に対応できる職員を配置している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の案内板の英語表記、多言語表記に限られている</li> <li>・訪日外国人旅行者に、対応できる飲食店が少なく、情報もない。</li> <li>・外国語対応可能な職員を配置しているものの、商工会採用の臨時職員</li> </ul>
平泉の魅力(観光資源)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平安時代末期に栄えた古都。国宝第1号の中尊寺金色堂をはじめとする文化遺産が、世界遺産(文化遺産)として登録される予定</li> <li>・源 義経の終焉の地</li> <li>・歌枕の地(松尾芭蕉の名句)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平安時代末期の文化遺産の町であるが、現存するものはさほど多くない</li> <li>・歩いて楽しいまちづくりを目指しているものの、休憩したり、観光客が立ち寄れる店が少ない</li> </ul>

## 第4章 先進地視察報告

### 1. 目的

2市2町が広域観光連携を進めるうえで、連携に際しての心構え、推進体制のあり方等、先進地域での取り組みを学ぶために長崎県佐世保市、雲仙市を選択し訪問した。

両市は、観光先進県“長崎”のなかでもひととき人気の高い観光地であり、それぞれ独自の観光施策を推進し、早くから九州を代表する福岡市や隣接する熊本県等と連携し、観光振興を図り実績をあげている。

今回、両市の視察を行い、説明を受けるとともに、地元の方々との懇談を通じて、地域内における連携の強化策や他地域と連携を行うための考え方を学んだ。

#### 【佐世保市】

現在、「日本一元気な商店街」との評価を受け、全国から注目される日本一のアーケード商店街「さるくシティ」、大小200を越える島々が点在する風光明媚な西海国立公園「九十九島」、滞在型リゾート施設「ハウステンボス」、牡蠣に代表される新鮮な魚介類、B級グルメの王様「佐世保バーガー」等、魅力的な観光資源を有し、行政、観光コンベンション協会、商工会議所、観光事業者、漁業従事者、宿泊施設等、地域一体となって観光を切り口とした地域活性化に取り組んでいる。

#### 【雲仙市】

平成17年10月、7町の合併により生まれた雲仙市は、島原半島の北西に位置し、「雲仙天草国立公園」やキリシタン遺跡を有する等多くの観光資源が集積し、熊本県からの玄関口の役割を果たしている。

我が国における観光地の先駆者として名高い雲仙温泉、小浜温泉、伝統的建造物群保存地区「神代小路（こうじろくうじ）」等を活用しながら、民間企業や住民が地域をあげて新しい観光地づくりに取り組んでいる。

### 2. 実施概要

- (1) 実施日：平成19年2月1日（木）～3日（土）
- (2) 視察地：長崎県佐世保市、雲仙温泉、国見町ほか
- (3) 視察行程

1日目	8:00 10:10 16:00～18:00 18:30～20:30	仙台空港 福岡空港 佐世保市内・現地ヒアリング（佐世保観光コンベンション協会、させぼ港まちづくりスタジオ） 佐世保市観光関係団体との交流会 （佐世保市観光商工部長、観光コンベンション協会役員、東園ハウステンボス社長ら約20名参加）
-----	---	---

<b>2日目</b>	9:30~11:30 16:00~18:20 18:30~	佐世保市九十九島・パールシーリゾート視察 第2回委員会：雲仙観光ホテル 雲仙市観光関係者との交流会 (雲仙市金子助役、観光課長、観光協議会役員、 観光協会役員ら約10名参加)
<b>3日目</b>	10:00~13:00  15:30~17:00 19:20 21:00	雲仙市国見町・神代小路(こうじろくうじ) 伝統的建造物群保存地区視察  九州国立博物館視察 福岡空港 仙台空港

#### (4) 参加者

##### 《委員会》

(順不同・敬称略)

	氏名	所属
委員長	清水 慎一	株式会社ジェイティービー 常務取締役
委員	谷口 せい子	独立行政法人国際観光振興機構 国内サービス部次長
	佐藤 俊一郎	株式会社ジェイアール東日本企画 仙台支店長
	間庭 洋	仙台商工会議所 常務理事
	千葉 久美	財団法人仙台観光コンベンション協会 常務理事
	小野 晋	社団法人東北経済連合会 地域政策部長
	藤咲 寛	財団法人東北産業活性化センター 専務理事
アドバイザー	菊池 憲満	国土交通省 東北運輸局 企画観光部 国際観光課長
	阿部 昌孝	株式会社JTB 東北交流文化事業部 地域貢献推進部長

##### 《幹事会・事務局》

(順不同・敬称略)

幹事会	村上 洋一	仙台市経済局 国際経済・観光部観光交流課観光企画係長
	齋藤 清壽	平泉町 農林商工観光課長
事務局	今野 清司	財団法人東北産業活性化センター プロジェクト振興部長
	志賀 秀一	株式会社東北地域環境研究室 代表取締役
	伊藤 暁	株式会社東北地域環境研究室 研究主幹

### 3. 視察内容

#### 《佐世保市の立地》

佐世保市は、九州の西端部の都市で、長崎県の北部に位置し、人口 25 万人を有する県内第 2 の都市で、烏帽子岳や将冠岳を主峰とする山系が八字型に海岸にまで延び、海岸部の地形は半島や岬が複雑に入りくむ、リアス式海岸となっている。

また、佐世保港から平戸までおよそ 25km の海上に、大小の 208 の島々が点在し、日本一の密度を誇る複雑な景観は、西海国立公園「九十九島」として称賛されている。



西海国立公園「九十九島」

#### 《佐世保市の沿革》

明治はじめは人口 4,000 人の小さな村であったが、特有の地形から明治 16 年に海軍基地の候補地として調査が開始され、明治 19 年に軍港建設が着工。突貫作業で、埋立て、港湾建設、道路整備に兵舎等の建設作業が行われ、同 22 年 7 月の第三海軍区鎮守府の開庁により、佐世保が一躍脚光を浴びるようになった。

日清、日露の戦争では連合艦隊の集結地となり、鎮守府司令官には、後に連合艦隊司令長官となった東郷平八郎や、首相となった米内光政ら帝国海軍の重鎮が歴任している。

更に同 31 年に鉄道が開通して福岡、佐賀方面と繋がり、明治 35 年の市制施行時には約 10 倍の 45,000 人までに急増し、「村」から一気に「市」に移行した。

その後も軍港の拡充とともに市勢は発展し、全国から多くの人が集まり、第二次世界大戦時の昭和 19 年には人口が 287,000 人を数え、本市の人口はわずか 50 年あまりで 70 倍になった。

終戦までは、横須賀、呉とともに日本の 3 大軍港として、戦後は、米海軍の前線基地として重要な役割を果たし、その間、朝



赤レンガ倉庫は、現在米軍と海上自衛隊の倉庫として利用

鮮戦争勃発による特需景気で佐世保重工業が急成長し、造船の町としても広く知られるようになった。

昭和 20 年 6 月 28 日の佐世保大空襲では、死者 1,200 人、焼失家屋 12,000 戸という大きな被害を受けた。

終戦直後、佐世保は海外引揚船の基地となり、昭和 27 年には米海軍基地の進駐によって、多くの港湾施設が接収され、佐世保の街にアメリカという異質の文化を内包することになった。

昭和 28 年には海上自衛隊の前進である海上警備隊佐世保地方総監部が設置され、基地の町が定着することになる。佐世保湾内にある造船所は元海軍工廠跡で、現在では佐世保重工業に継承され、その後造船は市の基幹産業として発展してきた。

このように急激に都市化が進んだことで、密集斜面住宅地や狭い道路等、現在の佐世保の市街地が形成されていった。



ドックやクレーンも造船のまち佐世保を象徴する景観

## 《佐世保市の現状》

造船と基地のイメージが強い佐世保市であるが、市域には、もともと西海国立公園の九十九島を始め、弓張岳、烏帽子岳等の景勝地が多く、平成 4 年に、我が国最大級の滞在型リゾート施設「ハウステンボス」がオープンしたことで、国内外から大勢の観光客が訪れるようになり、近年は観光都市として脚光を浴びている。

市もハウステンボス周辺のインフラ整備や特別用途地区の指定を行う等、観光客の誘致に努めていたが、バブル崩壊の影響を受け、平成 15 年 2 月 26 日（地元では佐世保 2・26 事件と呼称）にハウステンボスが倒産し、現在は、元全日空常務の東園社長（伊達家一族）を迎え、事業再建中で、業績も回復に向かっている。



佐世保港は、地図で観ると葉脈のように、見えることから別名「葉港」とも呼ばれ、佐世保湾の地形が軍港に選ばれる大きな要因に…



ハウステンボスとは、オランダ語で「森の家」という意味。運河が走り、アミューズメント、ショッピング、レストラン施設が並ぶ

佐世保市では「ハウステンボス」と「九十九島」を2大観光として位置づけ、年間約400万人の観光客を迎えている。誘客への取り組みとして、当初は、ハウステンボス⇒佐世保市街⇒九十九島の観光ルートを半ば強制的に設定し、積極的にPRしていたが、「佐世保バーガー」や商店街の取り組みによって、回遊性ができはじめ、魅力があれば必ず人は訪れるという現象を確信し、現在では観光ルートは観光客が選定するものとして自然体に任せている。

### 《日本一元気な商店街》

各種メディアでも取り上げられているように、商店街は毎日多くの客で賑わっている。直線では日本最長となる約1kmにわたるアーケードの商店街「さるくシティ 403（三ヶ町、玉屋、四ヶ町）」は、古くからある商店街では珍しく、今でも市の中心地として栄えており、現在では「日本一元気な商店街」と評され全国から商店街組合が視察に訪れているほどで、シャッターを下ろした店はなく、平日で約7万人、休日で9万人以上が通行している。



「さるくシティ 403」は、平日でも人びみが途絶えない

このきっかけとなったのは、郊外にジャスコ大型店が進出する計画が発表されたことを受けて、それぞれに活動していた地元の7つの商店街が結束し、さまざまなイベントを立ち上げ、また次々と新しいアイデアを打ち出したことにより現在に至っている。



街全体がイルミネーションで飾られる

郊外の大型店に人が集まるのは、モノを買うために行くのではなく、多くの人は、非日常の楽しい時間を過ごすために訪れていることに気づき、「交流人口」を増やすことに着目。商店街に賑やかな雰囲気を作り出し、モノを売るためではなく、出会いの場を提供することによって、街を活性化することを目的に「きらきらフェスティバル」、「YOSAKOI させぼ祭り」を実施。

平成8年からスタートした「きらきらフェスティバル」は毎年12月開催。中心商店街のアーケードや街路樹が、約100万個のイルミネーションで飾られ、幻想的な世界をつくりだす。サンタクロースのパレードやバーベキュー大会、じゃんけん大会、風船飛ばしなどが催され、参加客も市民も



きらきらチャリティ大パーティ 会費は1000円

大いに楽しむ。中でも目玉は「きらきら チャリティ大パーティー」。約1km アーケードがパーティー会場と化し、5,500人の大乾杯でパーティーが始まる。

100万個の電球で冬を演出する「きらきらフェスティバル」、踊り手8,000人、観光客30万人に成長した「YOSAKOI させぼ祭り」、そしてオリジナリティとB級グルメをコンセプトに生まれた「佐世保バーガー」など、消費の流出どころか逆に大都市から人を呼び寄せる活動として全国から注目されている。

### 《佐世保バーガーとアメリカ文化》

「佐世保バーガー」とは、長崎県佐世保市名物の手づくりハンバーガーのこと。ひとつの決まったスタイルのハンバーガーを指して「佐世保バーガー」というのではなく、佐世保市内の店で提供される「手づくりで」、「注文に応じてつくり始める」こだわりハンバーガーの総称である。

佐世保は日本でのハンバーガー発祥の地と言われ、戦後米海軍が進駐したことによって、水兵相手に、飲食店、バー、キャバレーを営もうとする日本人も多く、そういった時代背景からハンバーガーが出されるようになったというのが有力な説だ。

近年は、B級グルメ「佐世保バーガー」として有名になり、120km離れた大都市の福岡からわざわざコレを食べるために訪れる人も多く、週末は行列ができるほどの人気となっている。

また、一步路地を入ると外人相手の「外人バー」、ジャズライブハウス等の多くの飲食店があり、英語表記の看板等、アメリカナイズされた独自の佐世保文化を築いている。



大人気の「佐世保バーガー」

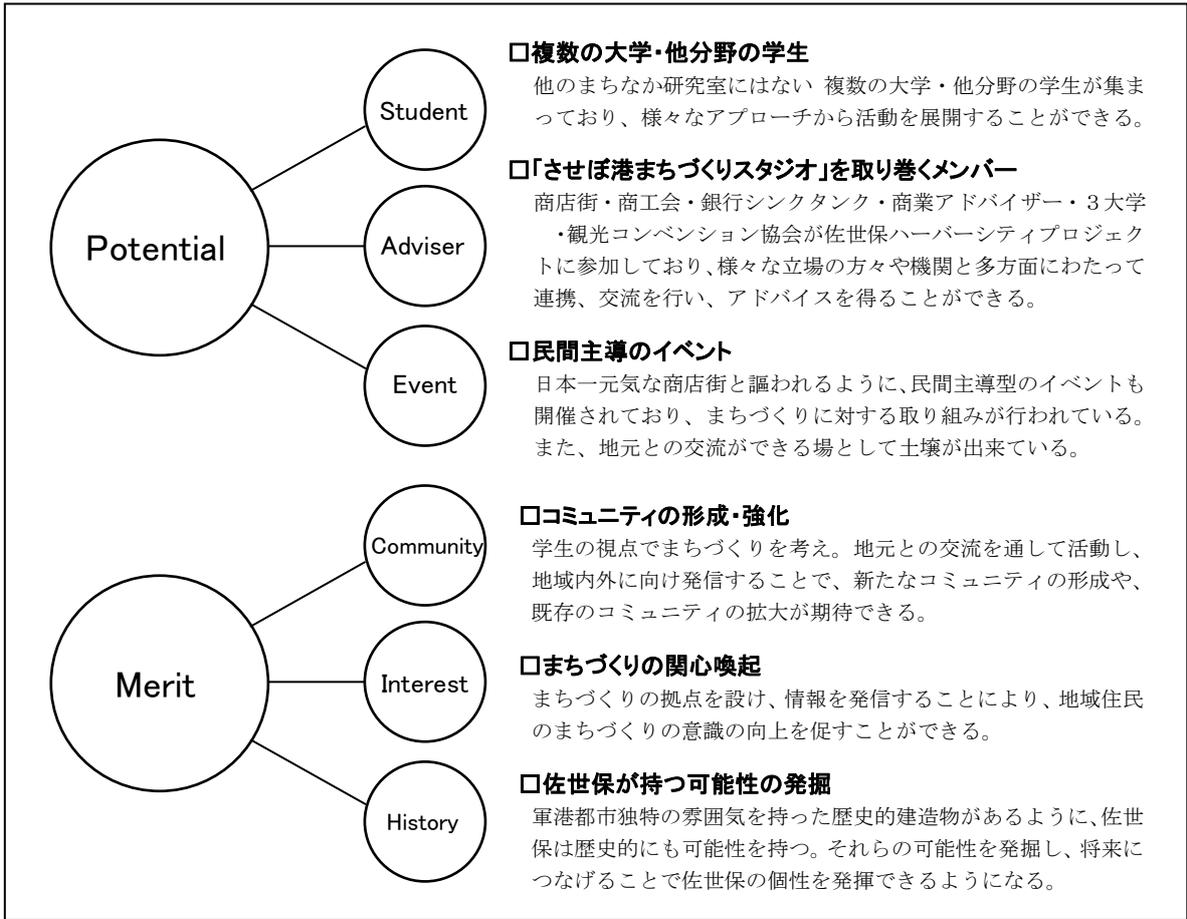
### 《させぼ港まちづくりスタジオ》

佐世保のまちづくりを支援するため、九州大学、長崎県立大学、長崎国際大学が連携して佐世保市にサテライト「させぼ港まちづくりスタジオ」を設置。九州大学の大学院生が現地に駐在し、佐世保の将来に向けた研究活動を展開している。

「させぼ港まちづくりスタジオ」のコンセプトは、次の通りである。



させぼ港まちづくりスタジオで、佐世保の取り組み状況をヒアリング



本スタジオの主な事業は、

- ① 現況調査      ③ イベント企画
- ② 歴史調査      ④ 都市模型製作

の4つの事業で、10年後、20年後そして50年後も“うまいもの”、“まつり”、“人情”が豊かなまちを目指し、佐世保の将来像を考えたいとしている。

また、具体的な活動については

- ① 赤レンガ      ④ 水辺
- ② NAVY      ⑤ 佐世保文化
- ③ 路地裏

の5つのチームを編成し調査を実施しているが、この活動の拠点である「させぼ港まちづくりスタジオ」の活動に対しては、行政はもとより商工会議所、地元地銀のシンクタンク、そして地域住民も全面的にバックアップしており、市民の交流拠点としての役割も果たしている。

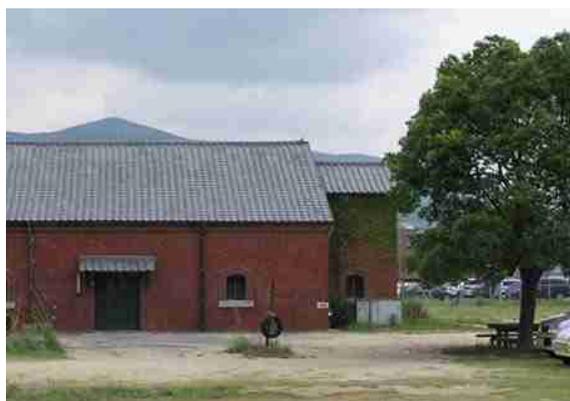
このスタジオの応援団として、商工会議所の観光部会が音頭を取り、4つの団体（コンベンション協会、商工会議所、商店街、地元地銀シンクタンク）による（学校を模倣して）PTAが組織されている。



路地裏には、外人バーがたくさんある。英語の看板が多いのも佐世保の特色

今後の課題としては、留学生の参加呼びかけ、地元郷土歴史家との連携、公共建築保存をはじめとした景観の維持、国の補助金（国交省）依存からの脱却等があげられる。

また、今後の展望としては、歴史的に他地域の人々を受け入れる資質（フレンドリー）を活かし、行政の前向きな取り組みとも連携して、福祉、観光、環境に重点をおいたまちづくりに貢献したいとしている。



赤レンガ倉庫は、シンボリックな地域の景観

### **【佐世保市観光関係団体との交流会】（1日目）**

- 佐世保市観光商工部長、観光コンベンション協会役員、ハウステンボス社長ら約 20 名参加。
- 明治以降、様々な歴史を経て佐世保市誕生から 100 年が経過。ハウステンボス、九十九島等の観光地とともに、元気な商店街が一体となって「日本一の笑顔」でお客様を迎えていると自負し、誇りでもある。
- 今回の文化遺産プロジェクトが宮城と岩手という県境を越えた取り組みに驚いているとともに、今後の活動に大きな関心と期待を寄せている。是非、佐世保にもアドバイス頂きたい。
- 以前、最近人気上昇の九十九島「牡蠣」をPRしようと、東京のテレビ局の協力も取り付けて、松島と「かき」くらべのイベントを計画したところ、松島より断られた経緯があった。どちらが「美味しい」とか「高級」とかという視点ではなく、明らかに松島の方が有名であることを前提に、全国的な「牡蠣」への風評被害を払拭しようと企画したものであり、松島まで出向いて実施しようとしたイベントが実現できなかったことが、残念であった。
- 佐世保地域としても、さまざまアイデアを打ち出し、誘客と交流人口の増加に一生懸命に取り組んでいるが、その根底にあるのは危機感である。官民関係なく危機感を共有し、それぞれの役割を認識し、責任を持って展開しているからこそ反省があり、前進に結びついている。
- 今般、長崎県のキリスト教関連遺産が世界文化遺産登録の暫定リストに選ばれた。落ち込んだ長崎観光を浮揚させる起爆剤として期待しているとともに、平泉のように周辺都市との連携強化も参考にしながら、取り組んでいきたい。是非、これを契機にアドバイスを頂戴したい。

## 【佐世保市九十九島・パールシーリゾート視察】(2日目)

九十九島の遊覧船、水族館、船の展示館、各種イベント事業、イベントホールの施設管理を実施しているのが、佐世保市 50%出資の第三セクター運営の「させぼパール・シー株式会社」である。平成6年7月の開業当初より第三セクター方式で運営されていたが、毎年 6,000 万円の赤字を抱え、平成8年には累積赤字が2億 5000 万円に膨らみ、これまで2度の再建が行われている。

市は平成 11 年2月に「西海させぼパールシーリゾート再活性化基本計画」を策定し、この2度目の再建計画の責任者として、2年前に市長の命をうけ、佐世保市産業経済部長の本田氏が同社社長に就任した。

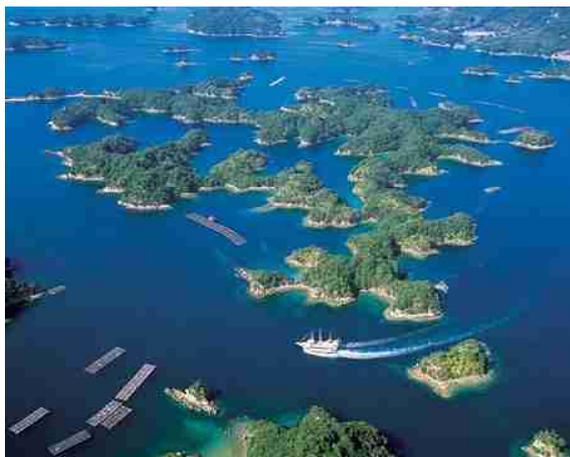
本田社長は、株主に理解求め、減資、増資により財政面の建て直しを図りつつ、さらに様々なイベント開催や国の補助事業導入により、現在は観光客が増加し、収益も黒字へと転換している。

また、経営困難な時代には融資元である地銀からの出向者を2名程度受け入れていたが、経営の回復とともに出向者の引き揚げを要請し、現在は社員だけによる会社運営を行っている。パート社員を含め約 60 名の従業員が在席しているが、行政マン出身者は本田社長ただ一人である。

経営悪化によりこれまでご迷惑をおかけしたことに對し、株主をはじめ市民への恩返しは何よりも大切であるとの理念のもと従業員のアイデアをどんどん実行に移し、市議会の反対を押し切って少額ではあるが「配当」を達成している。

本田社長は運営方針をこのように語る。「イベント開催にあたっては、入場者による賑わいを目的としていることから、収益性はないが、観光客や市民の信頼獲得、九十九島のイメージアップに向け、今後とも取組みを充実・強化していきたい。

経営者としての理念のひとつに「“出来ない” と言うことは“出来る” と言うことより難しい。なぜなら“出来る” という可能性を全て探らなければ“出来ない” という答えがみつからない」という言葉を大切に



九十九島は遊覧船で巡ることができる



遊覧船のデザインにもこだわりが見られる



本田社長から説明をうける本委員会の視察メンバー

している。また、我々は「武士の商法」と認識している。武士は元々商売が下手である。商売下手な人間が商売するには、目標とやる気が大切であり、その気持ちを忘れてはならない。

先般の日経新聞の記事で、訪れてみたい遊覧地調査で九十九島が松島を抜いて第3位になったと報じられた。これは、私たちがそれまで3位の松島を目標に、頑張って取り組んできたことが、観光客から評価していただけたのだらうと素直に喜んでいる。常に目標に定め、事業者、関係団体、住民が一体となって取り組むことにより充実感と達成感を共有できることが幸せと喜びである。」

### **【第2回委員会：雲仙観光ホテル】（2日目）**

- 出席者 清水委員長、委員6名、アドバイザー2名、幹事2名、事務局4名のほかオブザーバーとして雲仙市役所、雲仙観光協会関係者ら約10名参加
- 次 第
  - ① 2市2町の観光の現状
  - ② 2市2町連携の協議状況
  - ③ 具体的観光連携策メニュー
  - ④ 今後のスケジュール など

### **【雲仙市・雲仙観光関係者との交流会：雲仙観光ホテル】（2日目）**

※雲仙市金子助役、観光課長、観光協議会役員、観光協会ら約10名参加

#### ○当方より

文化遺産広域観光連携プロジェクトの調査目的、活動状況などの話題提供。

#### ○先方より

雲仙の温泉地としての歴史は、17世紀中頃からで、明治に入りシーボルトが雲仙を紹介したことによりヨーロッパや上海から多くの外国人が訪問するようになった。更に、大正時代には日本初のパブリックゴルフ場が誕生し、多くの観光客から九州の軽井沢と呼ばれ、癒しの場として支持されてきた。

昭和10年には、国内外から観光客を迎えるための国策によるホテルとして、雲仙観光ホテルが開業。スイス・シャレー風のこのホテルは、竹中工務店のホテル建設第1号で、日本建築学会の「近代日本の名建築」に選ばれており、国の重要文化財にも指定されている。

平成2年11月に雲仙普賢岳が噴火。噴火当初は火山見学者需要で、相当の入込数を数えた温泉街であったが、平成3年の大噴火によって、死者・行方不明者46名を出す大惨事となり、観光客数が激減し、温泉数も半減してしまった。

現在は約20軒の旅館やホテルが営業しているが、新婚旅行先として人気は海外へシフトし、旅行形態も団体型から個人・小



雲仙温泉の全景

グループ志向に変わるなどの外的要因に加え、温泉街自身の危機意識の甘さと取り組みの遅れによって、「負け組み」と呼ばれる他の温泉地と同様に苦境に立たされている。

そのような状況を打開するため、復興に向け、上海や韓国からの修学旅行を積極的に受け入れ始め、また市町村合併を受け、現在は新雲仙市の観光地や特産品、農産物等の地域資源を積極的に活用した観光施策が展開されている。



観光名所の雲仙地獄は、キリシタン殉教の舞台となった哀しい歴史をもつ

### 【雲仙市国見町・<sup>こしじろくろじ</sup>神代小路伝統的建造物群保存地区視察】(3日目)

佐賀鍋島藩神代領主・鍋島氏の陣屋跡を中心とした神代小路地区は、雲仙市の北部(旧国見町)、島原鉄道神代駅付近に位置する。

神代鍋島藩の武家屋敷建築と当時を彷彿させる地割りや石垣、水路、生垣、樹木等の風情を色濃く遺し、明治期以降の近代和風建築の建造物群とともに、情緒豊かな町並み景観を形成。平成 17 年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、その地区住民らによって、保存と観光、そして新たな「まちおこし」の活動が開始されている。

延べ約 500mの鍋島家を中心とした武家屋敷群には、現在も約 60 世帯が生活しているが、以前は、武家屋敷郡の存在とその価値については地域住民の意識は低く、学術的にも広く知られることはなかった。

全国各地で「まちづくり」への活動が活発化する中で、神代小路地区でも保存の運動が芽生え、建物の老朽化と居住者の高齢化による伝統的町並みの喪失化に危機感を覚えた地区の有志が、平成 11 年に「神代小路まちなみ保存会」を設立。

疎水清掃、生垣剪定、緋寒桜の苗木移植等の取り組みと行政側の理解・協力も得て、沿道の舗装改修に伴い縁石を自然石化、電柱の移設、景観に配慮した街灯の設置等を街路事業で行い、平成 17 年に国の保存地区指定に至った。

また平成 18 年には、NPO 等のまちづ



当初の地割りとほとんど変わっていない



電柱が移設された通りには、自動販売機もなく情緒ある景観が蘇った

くり組織と地方公共団体が協働して、美しいまちなみづくりを実践する優れた地区を対象に、国土交通省が行っている美しいまちなみ賞の最高賞にあたる「美しいまちなみ大賞」（国土交通大臣賞）を授与している。

地区内居住者の高齢化が進むなか、昔と変わらない魅力を残しながら、Uターンや団塊世代の移住促進に向け、今年度から「還れ 故郷へ」コール事業」として、望郷心を呼び起こすようなカレンダー、絵葉書、ビデオ等、神代小路地区の情報を出郷者に発信する活動を行う等、住民と行政が一体となって保存活動に取り組んでいる。



公有化された鍋島邸は、旧領主屋敷に相応しい屋敷と邸宅からなる



まちなみ保存調査がきっかけとなった空家生垣の剪定ボランティア事業

### 【九州国立博物館視察】（3日目）

東京・京都・奈良に次ぐ、4番目の一番大きな国立博物館として、太宰府天満宮近くの丘陵地（同敷地内）に建設され、平成17年10月にオープンした。

開館してから1年4ヶ月、国内外ら約260万人の入館者を数え、サッカー場が入るほど大規模な迫力ある建物である。

波型の大屋根とカーテンウォールの外観、地元木材を用いた格子状の天井が特徴的な建物で、近代的で斬新なデザインであるが、歴史的建造物である大宰府天満宮との景観バランスの観点から、その建築デザインには賛否両論が存在する。

「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」とのコンセプトで、

- 館内は ① 旧石器～縄文時代
- ② 弥生～古墳時代
- ③ 奈良～平安時代
- ④ 鎌倉～室町時代
- ⑤ 安土桃山～江戸時代



波をイメージした大屋根とカーテンウォールの外観



木と格子が印象的な室内インテリア

の大きく5つのブースに分かれており、見学時間は30分～2時間程度で、観覧料420円が比較の見学しやすい設定となっている。

また、ホテルニューオータニ博多直営のレストラン・オープンカフェも併設されている。

#### 4. 2市2町の取り組みに向けて

全国的な知名度を誇る観光地でも、なかなか新しい展開を見いだすことができず、観光入込客数が伸び悩み、また減少する観光地も出現している。

こうした観光地に共通していることは、地域全体として受け皿づくりを進めるうえで、関係者の意識の面で旧態依然とした考え方が根強く、対応が後手に回っていることである。今後これまで、かなりの実績を有する観光地であっても、ひとつの名所旧跡や観光施設だけでは観光客の多様なニーズには応えられない時代を迎えているだけに、松島や平泉等もその例外ではなく、新しい対応により打開策を見いだしていくことが求められている。

今回の視察の主目的地であった佐世保市の観光資源は、一大レジャー施設の「ハウステンボス」と風光明媚な「九十九島」だけではない。近年全国的に有名になっているB級グルメの「佐世保バーガー」や日本一元気な商店街と称される「さるくシティ」商店街等の魅力的な資源を有している。

とりわけ「さるくシティ」商店街の取り組みでは、商店街関係者が積極的に関与し、費用をかけずに知恵を出し、行政や観光コンベンション、商工会議所が一緒になって「きらきらフェスティバル」、「YOSAKOI させぼ祭り」を実行し、今では市民を巻き込んだ大きなイベントへと成長させている。

実際に訪れてみて、実感するのは、皆が危機感を共有しており、それを根底にして、行政、観光コンベンション協会、商工会議所、商店街、その他の事業者が、地域活性化を推進するために、さまざまアイデアを打ち出し、建設的な意見を言い合える関係が築かれており、垣根が非常に低いことである。

その環境がベースになって、協働で取り組む様々なイベントが、元気な商店街をつくり、その賑わいに惹かれて更に交流人口を増加し、市全体に回遊性が生まれ活性化し、25万人規模の都市でありながら、100万人都市の仙台市にも劣らない賑わいを創出している。

このように、「既成の垣根を取り払って協働で取り組む」という佐世保市や雲仙市の基本姿勢から学び、2市2町の連携推進組織の設立にあたっては、行政や公的な団体、観光業に直接携わる人だけではなく、民間企業や農林漁業従事者等、いろいろな人が参画する組織づくりを行うべきである。

また、観光は一つの資源だけでは、観光客の多様なニーズには応えられず、選んでもらえない時代を迎えており、「異なるカテゴリーの魅力的な資源を連携する」ことによって、交流力を高め、地域振興に繋げている佐世保の事例に学び、2市2町の観光における強みを活かし、連携した情報発信や観光ルートの造成等の具体策に活かしていく必要がある。

## 第5章 観光連携の具体的なメニューの検討

### 1. 2市2町広域観光連携の具体的なメニュー

本調査では5つのカテゴリーに分類し、より実効性を高めるために優先順位を付け、具体的なメニューの立案を行った。各カテゴリーの立案方針と具体的なメニューは次の通りである。

#### ①情報発信の一元化

- 東北のゲートウェイとなる仙台市における情報発信の強化を検討する。具体的にはJR仙台駅や、仙台空港における情報発信の機能強化策を検討する。（一部実施：後掲）
- 共通ホームページの作成、あるいは観光客の閲覧ニーズのあるリンク先の検討を行う。（一部実施：後掲）
- 2市2町が行っている祭りやイベントを活用し、相互の観光、物産のPRを行う。（「仙台・青葉まつり」、「夏の気仙沼と黄金エリア・仙台駅観光キャンペーン」にて観光、物産のPRを実施：後掲）
- 外国語への対応が弱いため、英語を含めた多言語版のホームページを整備し、情報発信を行っていく。
- また、依然としてパンフレットやガイドブックといった紙媒体によって、情報を入手するユーザーが多いことを考慮し、合同キャンペーン時の活用等を見据えながら、パンフレットやガイドブックの作成を行う。（まずは2市2町への誘客を促すガイドブックの試作を本プロジェクトにて実施：後掲）
- 外国人観光客の誘致に向け、多言語版パンフの作成や現地旅行雑誌等への情報掲載を検討する。

#### ②交通

- FIT（チケット手配からホテル選び等を個人で手配する旅行）の増加を考慮しながら、レンタカーの活用策、JRの乗り継ぎの改善、あるいは、広域循環バスを検討する。
- 観光案内・コミュニケーション能力の充実により利用者の満足度を高めることができるような、タクシー乗務員の育成強化を図る。

#### ③ルートづくり

- 5年10年先のものを目指すのではなく、間近に迫った「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」を当面の目標に定める。
- 併せて外国人観光客の誘致も考慮しながら、商品造成・ルートづくり、コンテンツづくりを検討していく。

#### ④人づくり

- それぞれにおけるガイド能力の向上を図るとともに、2市2町の観光案内所における平泉の世界遺産に対する説明能力の向上や人材を育成する。（一部実施：後掲）

#### ⑤シンボル事業（シンポジウムの開催：実施済み）

- そもそも2市2町の首長によるシンポジウムから、この取り組みがスタートしているが、平泉町や松島町の首長が変わられたこともあり、2市2町の連携の取り組みの意義を再確認するため、4首長によるシンポジウムを行う。（後掲）

## 2市2町広域観光連携施策の具体的メニュー実施計画一覧表

優先度	メニュー	内容	区分	実施状況・実
				平成19年度までに実施した項目・検討事項
1	仙台駅総合案内所等の機能強化	仙台駅総合案内所など連携市町の観光案内所に相互のパンフレット等を常備し、相互の観光案内が可能となるよう職員研修を実施する。また、各案内所の機能強化を検討する。	情報、人づくり	・2市2町の観光案内所におけるパンフレットの常備 ・2市2町の観光地を相互視察（観光モニター体験調査を実施） ・仙台市観光案内所職員に対する3市町の観光レクチャーの実施
2	インターネットによる情報発信の強化	連携市町のホームページにより相互の観光情報を発信し、共通ホームページの整備やネットコンシェルジェについての検討を行なう。	情報	仙台市・気仙沼市ホームページへの2市2町観光連携情報の掲載 ・仙台市のホームページ「仙台旅日和」中の「東北探訪」への掲載 ・気仙沼市のホームページ「観光連携をしているまち」への掲載
3	仙台・青葉まつりなどのイベントにおける観光PR	連携市町のイベントにおいて、相互の観光・物産のPRを実施する。合わせて、アンケートなどの手法により観光客等のニーズを把握し、連携メニューへのフィードバックを図る。	情報	・「仙台・青葉まつりにおける2市2町観光PR・物産展」の実施 ・「夏の気仙沼と黄金エリア・仙台駅観光キャンペーン」における2市2町の観光PRの実施
4	推進体制の整備	更なる広域連携推進のための組織を設立し、関係団体等の参画や協力を広く要請する。	体制整備	・観光連携組織の準備委員会として「伊達な広域観光推進委員会」を設立 （2市2町の部課長、観光協会、商工会議所・商工会の事務局長等で構成。オブザーバーに宮城・岩手両県の担当課長）
5	首長によるシンポジウム開催	首長が参加してのシンポジウムを開催する。 （プロジェクト開始前の平成17年11月25日松島・瑞巖寺で開催）	シンボル事業	・平成19年11月21日仙台市で広域観光連携シンポジウムを開催 （2市2町の首長による共同アピールを実施）
6	観光ガイドブックの作成	2市2町の魅力あふれる資源を有機的につなげ、2市2町の広域観光へ誘うストーリー性のある誘客型ガイドブックを作成する。	情報	・2市2町の基本的な観光情報及びテーマ性のある観光ルート等を掲載した連携ガイドブックの試作
7	首都圏等における観光キャンペーン・プロモーションの実施	首都圏等において合同の観光キャンペーン・プロモーションを実施する。	情報	・首都圏の旅行エージェント等に対する観光プロモーションの実施
8	モデルコース作成	連携市町観光のモデルコースを作成することを検討。また、作成したコースでモニターツアーを実施し、その結果を検証して、より観光客のニーズに合ったコースづくりを行う。	コースづくり	・2市2町観光連携ガイドブックに、モデルコースを掲載することを検討
9	旅行エージェントへの商品造成の要請	8により作成したモデルコースによりファミトリップ（下見招待旅行）を実施し、旅行エージェントへ商品造成を提案する。	コースづくり 情報	
10	タクシーの対応能力の強化検討	観光案内や乗客とのコミュニケーション充実による満足度が向上できるようなタクシー乗務員の人材育成を図る。	交通、人づくり	・平泉町において「語り部タクシー」の可能性調査を実施
11	観光ガイド等のレベル向上	観光ガイド等観光関係者の資質の向上を図り、それぞれの市町以外の情報発信も可能な人材の育成を進める。	人づくり	・2市2町の観光地を相互視察研修（観光モニター体験調査を実施）（再掲） ・気仙沼市ボランティアガイドの平泉視察研修の実施
12	食づくりの検討	連携市町の食の発掘や更なる魅力付けを行い、観光客が期待する食の情報発信を図る。	食	・2市2町観光連携ガイドブックに、「食」についての情報を掲載することを検討
13	仙台空港における情報発信機能の強化	空の玄関口である仙台空港ターミナルビルに連携市町の専用パンフレットを設置する。また、基本的な観光案内が空港職員によって可能となるようレクチャーを実施する。	情報	・仙台空港ターミナルビルの施設見学会を実施し、観光パンフレットラック設置等を検討
14	イントラネットへの情報掲載要請	東北管内に本・支店等がある事業所等のイントラネットに連携市町の観光情報を掲載するように要請する。	情報	
15	レンタカーの利活用	レンタカーの連携市町での乗り捨てシステムや高速道路・各種施設の割引特典等のセット商品の開発、カーナビとの連携などを検討する。	交通	・レンタカー活用の具体策を検討
16	JRの活用強化	JR駅舎の改築や機能強化、ダイヤの改善等を提言	交通	・JRの活用強化の具体策を検討
17	広域循環バスの検討	連携市町の観光拠点を巡る周遊バスを検討する。	交通	・JRバスでプレDC事業として運行する周遊バス（仙台～石巻～気仙沼～平泉）を先事例として検証
18	高速道路の活用検討	東北自動車道平泉PAのスマートIC化要請等、観光客の視点に立った高速道路の利便向上を検討する。	交通	・高速道路の活用策検討

※優先度については、個々の事業の進捗状況等により随時見直しを行うものとする。

## 2. 本プロジェクトで実施した連携事業

### (1) 各市町の観光案内所におけるパンフレットの常備

実行可能なものから実施していくとの基本方針に従い、連携する2市2町の観光情報を、それぞれの市町の観光案内所で提供することができるよう、各市町の観光パンフレットを常備した。



JR仙台駅前2階の仙台市総合案内所(ビジット・ジャパン案内所)



JR気仙沼駅前の観光案内所



JR松島海岸駅前の観光案内所(ビジット・ジャパン案内所)



JR平泉駅前の観光案内所(ビジット・ジャパン案内所)

### (2) 仙台市観光案内所職員に対する3市町の観光レクチャーの実施

仙台市における連携する他の3市町の観光情報・案内の充実を図ることを目的として、仙台市総合観光案内所、秋保里センター、コンベンション協会の各職員を対象として、気仙沼市、松島町、平泉町それぞれの市町の観光協会による観光レクチャーを実施した。

**【会場】:** 仙台観光コンベンション協会

**【対象】:** 仙台市総合観光案内所、秋保里センター、コンベンション協会の各職員

**【実施日】:** 松島観光協会職員によるレクチャー 平成19年3月6日(火)

気仙沼市観光協会職員によるレクチャー 平成19年3月7日(水)

平泉観光協会職員によるレクチャー 平成19年3月8日(木)

### (3) 仙台市・気仙沼市ホームページへの2市2町観光連携情報の掲載

現在「伊達な広域観光推進委員会」で、ネットコンシェルジェや維持管理等の運営を含め、ホームページ活用の実施方法を検討中であるが、第1弾として、仙台市ホームページ「せんだい旅日和」中の「東北探訪」、気仙沼市ホームページ中の「観光連携をしているまち」に、連携市町の情報掲載を実施した。（松島町、平泉町は平成20年度掲載予定）

#### ①仙台市ホームページ「せんだい旅日和」中の「東北探訪」への掲載

仙台市ホームページ「せんだい旅日和」の「東北探訪」ページのスクリーンショット。ページの上部には「せんだい旅日和」のロゴと「English」などの言語選択メニューがある。ナビゲーションメニューには「旅日和特集」「おすすめコース」「イベント情報」などが並ぶ。中央には「東北探訪」という大きな文字と、東北地方の地図が掲載されている。地図には青森県、秋田県、岩手県、宮城県、山形県、福島県が示されており、各県内の観光スポットが赤いピンでマークされている。地図の右側には「たくさんの魅力があなたをお待ちしております」というメッセージと、松島、気仙沼、仙台、盛岡、山形などの観光地を紹介する小さな画像が並んでいる。下部には「おすすめの近郊観光スポット」「モデルコース」「テーマ別リンク」の3つの緑色のボタンがある。さらに下部には「おすすめの近郊観光スポット情報をお届けします。」というメッセージと、検索アイコンがあり、その下に「松島町」の詳細情報が表示されている。松島町の情報は、松島町の風景写真と「おすすめのイベント（季節毎）」のリストから構成されている。イベントリストには、春の瑞巖寺臥龍梅、夏の瑞巖寺灯道、秋の観瀾亭月見の会、冬の松島かき祭りなどが掲載されている。

おすすめの近郊観光スポット情報をお届けします。

**松島町**

お問い合わせ先

- 社団法人 松島観光協会  
〒985-0213 宮城県東磐前郡松島町松島宇町 04.1

おすすめのイベント（季節毎）

- 春・瑞巖寺臥龍梅（4月下旬～5月上旬）、白次観音祭典（4月下旬西行展しの松公園）
- 夏・瑞巖寺灯道（8月6～8日）、灯籠流し花火大会（8月17日）  
瑞巖寺大盆踊り会（8月16日）
- 秋・観瀾亭月見の会（9月）、日本三景松島園遊茶会（10月第1日曜日/松島海岸グリーン広場）、松島ハーフマラソン大会（10月体育の日）、紅葉ライトアップ（10月下旬～11月中旬/瑞巖寺・円通院・観瀾亭）
- 冬・松島かき祭り（2月第1土・日曜日/松島海岸グリーン広場）

## ②気仙沼市ホームページ「観光連携をしているまち」への掲載

気仙沼市

全体を検索

トップページ

市の紹介

観光・物産

くらし

まちづくり

イベント情報

気仙沼と観光連携しているまち紹介

ポータルサイト > 観光・物産 > 遊ぶ・見る > 気仙沼と観光連携しているまち紹介

### 「仙台・松島・平泉・遠野・気仙沼」がおもしろい

今年、仙台・松島・平泉・遠野・気仙沼を結ぶエリアがおもしろい。都市型観光の仙台、日本三景の松島、奥州藤原文化の平泉、民話と伝説の里・遠野、食と漁業体験の気仙沼。ぜひ、遊びに来てください。

	<a href="#">仙台市</a>	仙台七夕、光りのページェント、牛タンなどで有名な、東北最大の中心都市。昨年は、東北楽天ゴールデンイーグルスが誕生し、大きな話題となっている。
	<a href="#">松島町</a>	日本三景の一つで、松尾芭蕉が奥の細道の中で「扶桑第一の好風にして…」と、その美しさに圧倒され、句を読むことができなかった。牡蠣、はぜ、あなごは全国的にも有名である。
	<a href="#">平泉町</a>	中尊寺、毛越寺など、歴史と文化のまち。平安時代に栄華を誇った奥州藤原氏の所産平泉文化遺産を後世に守り伝えるため、2008年の世界遺産登録を目指している。
	<a href="#">遠野市</a>	いま、全国的にわき起こっている「民話ブーム」の里・遠野では、遠野ふるさと村や、伝承園、とおの昔話村などの見どころを通して、自然と共存してきた世界にたっぷりと浸れる。

— お問い合わせ —

産業部 観光課

☎0226-22-3438(直通)

✉[kanko@city.kesennuma.lg.jp](mailto:kanko@city.kesennuma.lg.jp)

[ポータルサイトへ](#)  
[このページの先頭へ](#)

Copyright(C)2006 City of Kesennuma. All Rights Reserved.

#### **(4)「仙台・青葉まつりにおける2市2町観光PR・物産展」の実施**

広域観光連携事業として、仙台市・気仙沼市・松島町・平泉町の2市2町の観光連携を仙台市民あるいは祭り客に広くPRするため、「仙台・青葉まつり」において、2市2町の展示テントブースを設け、各市町の観光あるいは物産品など広報宣伝活動を行った。

①**実施日時**：平成19年5月19日（土）11時～20時

平成19年5月20日（日）11時～16時

②**実施場所**：青葉まつり「新鮮市場」内テントブース

カメイ株式会社本社ビル（青葉区国分町3丁目1-18）付近

※市民広場と定禅寺通をつなぐ道路が通行止めとなり、「新鮮市場」コーナーが設置され、その一角に2市2町の観光PRブースを設け実施。

③**実施内容**：2市2町の観光PR

仙 台 市：観光PR

気仙沼市：観光PR、物産販売

松 島 町：観光PR、物産販売

平 泉 町：文化遺産等の観光PR



実施日初日の午前中はあいにくの雨模様



松島町・平泉町のPRテントブース



せんだい産農産物の販売も好評



仙台市・気仙沼市のPRテントブース

## 【仙台・青葉まつりの概要】

「仙台・青葉まつり」は、新緑の仙台を舞台に豪華絢爛な歴史絵巻が繰り広げられる。

祭りの起源は、承応4年（1655）年東照宮の例祭として始まった「仙台祭」に遡る。その当時は、諸国の藩主には参勤交代が課せられていたため、藩主が仙台にいる年に行われ、70基ほどの山鉾が城下を練り歩いたという。

明治に入ると、「仙台祭」にかわって伊達政宗を祀る青葉神社の例祭が盛んになり、明治18年の政宗公没後250年祭や、昭和10年の没後300年祭には多くの山鉾が出て盛大に行われた。

しかし、その後電気の普及によって、電線が山鉾巡行の障害となってしまい、長年途絶えていたが、伊達政宗公没後350年を迎えた昭和60年に、青葉神社例祭を市民の祭りとして復活させたもので、毎年5月の第3日曜日に本まつり、前日の土曜日に宵まつりが行われる。

見どころは仙台市街地で行われるパレードで、武者隊に続き、青葉神社神輿渡御、仙臺すずめ踊り、山鉾が行進する。

また、市民グループによる郷土芸能や踊り、創作太鼓、マーチングバンドや戦国武将の殺陣演技を披露する「芸術祭」、東北の物産品売り場や屋台が並ぶ「杜の市」、「仙臺すずめ踊り」が、街のあちらこちらで賑やかに繰り広げられ、街はまつりムード一色になる。「仙台七夕まつり」、「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」、「SENDAI 光のページェント」とともに、仙台4大まつりの一つとして、多くの市民や来仙客を魅了している。



2007年「仙台青葉まつり」のポスター



市街地を山鉾が巡行する



仙臺すずめ踊り



五葉山火縄銃鉄砲演武

## **(5)「夏の気仙沼と黄金エリア・仙台駅観光キャンペーン」における2市2町の観光PRの実施**

広域観光連携事業として、仙台市・気仙沼市・松島町・平泉町の2市2町の観光連携を仙台市民や仙台来訪客に広くPRするため、「夏の気仙沼と黄金エリア・仙台駅観光キャンペーン」において、2市2町の展示ブースを設け、各市町の観光宣伝活動を行った。

①**実施日時**：平成19年7月15日（日）11時～12時

（午後3時までの予定あったが、東北本線で人身事故が起きたため、列車の運行時間の変更アナウンス、案内等に支障となるおそれがあるため時間を短縮）

②**実施場所**：JR仙台駅2階コンコース内、特設ステージおよび展示ブース

③**実施内容**：

【特設ステージ】 2市2町の観光PR、クイズ大会、ノベルティの配布、郷土芸能等

【2市2町ブース】 仙台市・松島町・平泉町

：観光ポスター、パンフレット等の展示・配布

気仙沼市：観光ポスター、パンフレット等の展示・配布の他、  
氷の水族館、寿司のネタ当てクイズを実施



気仙沼市のPR展示ブース



仙台市のPR展示ブース



松島町のPR展示ブース



平泉町のPR展示ブース

## 【夏の気仙沼と黄金エリア・仙台駅観光キャンペーンの概要】

「夏の気仙沼と黄金エリア・仙台駅観光キャンペーン」は、海水浴場やみなとまつり等、夏季の観光シーズン到来に向けた誘客と観光宣伝を行うため、気仙沼市とJR東日本との共催で平成8年度から実施している。

平成 16 年度にはJRの特別列車「こがね」の運行開始1周年記念に合わせ、黄金エリア（気仙沼市、一関市、平泉町）を含む合同キャンペーンを行い、平成 17 年度からは松島町も加わり実施している。

さらに、平成 17 年 11 月の2市2町（仙台市・気仙沼市・松島町・平泉町）の首長による広域観光連携推進の共同宣言を受け、本年度は仙台市が加わり、2市2町の広域観光連携事業（本プロジェクト事業）の一つとして実施した。

キャンペーンでは、誘客促進のため、特設ステージにおいて、各市町からの観光紹介やクイズ大会、郷土芸能の披露やノベルティの配布等を行うとともに、各市町の展示ブースではポスター・パンフレットの展示及び配布等を実施し、来場者への観光PRを行った。



JR仙台駅長のあいさつでスタート



特設ステージで各市町の観光紹介



「水の水族館」(気仙沼市ブース)



水詰めの寿司のネタ当てクイズ(気仙沼市ブース)

## **(6)「伊達な広域観光推進委員会」の設立**

本委員会で討議された内容、立案された具体的な観光連携メニューを受け、連携施策を実施していくためには、推進母体となる組織が不可欠であり、本委員会からの提言を踏まえ、平成 19 年 11 月に、平成 20 年度早期に観光連携組織の設立を目指し、準備委員会として「伊達な広域観光推進委員会」が発足している。

「伊達な広域観光推進委員会」の広域観光推進組織の基本的な考え方、移行イメージは、次の通りである。

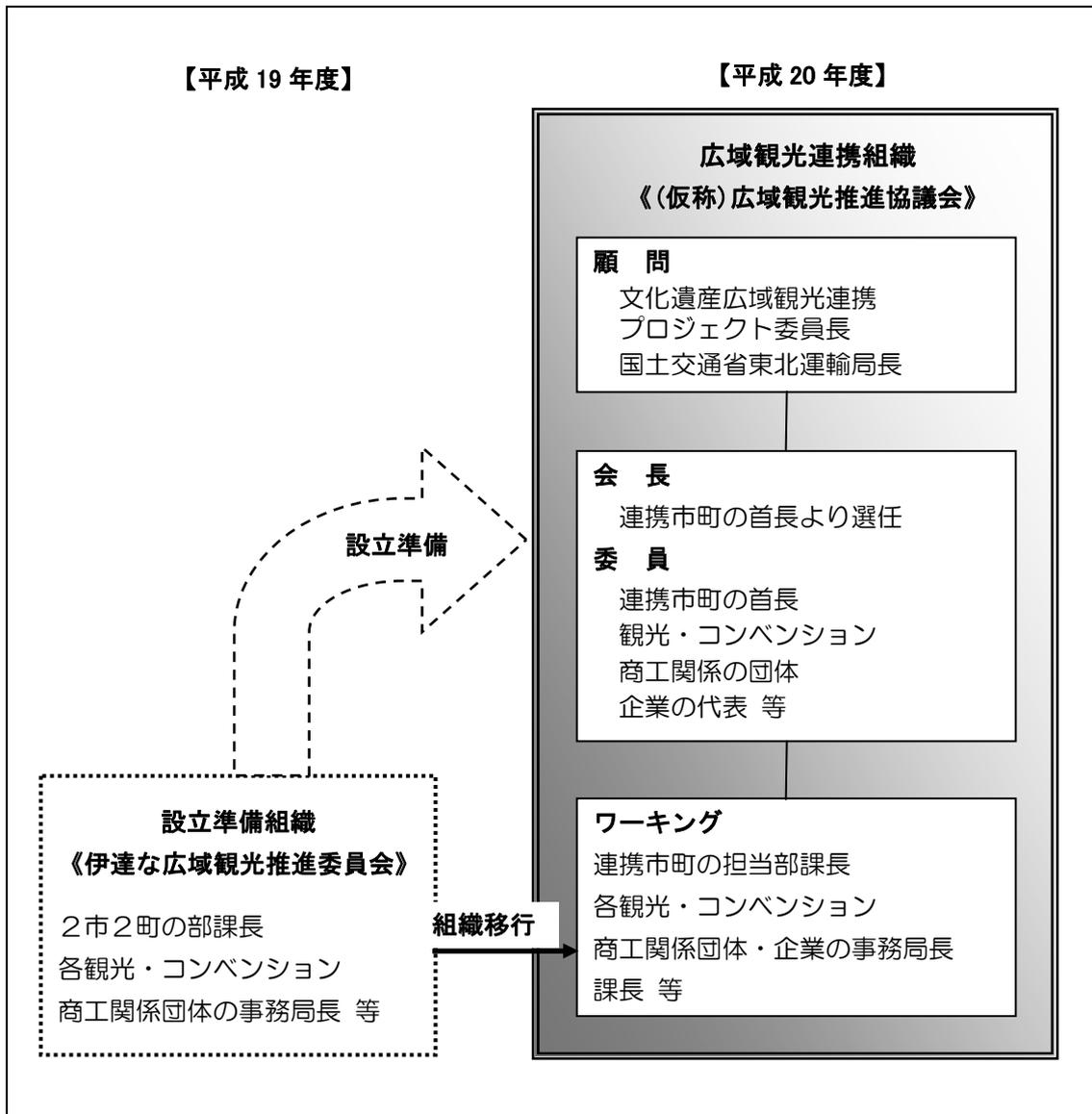
### **【広域観光連携組織の基本的な考え方】**

地域活性化の切り札として、観光が俄かに脚光を浴び、取り組む自治体が急増し、地域間競争が激しくなっており、地域全体のホスピタリティや取り組みが評価される時代を迎えている。

観光業に直接携わる人だけでなく、行政、民間企業や農林漁業従事者等、いろいろな業種の人々が参画して地域全体の魅力を高める皆で取り組むことが求められてことを踏まえ、広域連携組織の基本的な考え方は次の通りとする。

- 「伊達な広域観光推進委員会」は、観光連携組織の設立・準備に向けた準備委員会として位置付け、連携する市町の行政、観光協会、商工会議所、商工会で構成する。
- 観光連携組織「(仮称) 広域観光推進協議会」は、連携する市町の行政、商工会、商工会議所、観光協会、交通事業者、農業団体、漁業団体、企業の代表等による、幅広い組織や団体で構成する。
- 計画で終わらず、実効力ある施策を必ず実現するというスタンスで臨んでいくため、連携する市町の首長がトップダウンで推進できる体制づくりを行う。

【広域観光連携組織の設立イメージ】



## (7) 広域観光連携シンポジウム～新しい地域づくりと広域観光連携～の開催

- ①開催日時 平成19年11月21日(水) 午後1時15分～午後3時45分
- ②開催場所 仙台市福祉プラザ ふれあいホール  
仙台市青葉区五橋2丁目12-2
- ③主催 伊達な広域観光推進委員会、文化遺産広域観光連携プロジェクト実行委員会
- ④開催内容

### 【開会】

【主催者あいさつ】 小山 邦良 (伊達な広域観光推進委員会委員長・気仙沼市産業部長)

### 【第1部 共同アピール】

清水 慎一 (文化遺産広域観光連携プロジェクト実行委員会委員長  
・株式会社ジェイティービー常務取締役)

鈴木 昇 (気仙沼市長)

梅原 克彦 (仙台市長)

大橋 健男 (松島町長)

高橋 一男 (平泉町長)

【アトラクション】 仙台すずめ踊り

### 【第2部 基調講演】

テーマ：「最近の観光行政と東北観光の課題」

講師： 内藤 政彦 (国土交通省東北運輸局長)

### 【第3部 パネルディスカッション】

テーマ：「新しい地域づくりと広域観光連携」

パネリスト： 鈴木 昇 (気仙沼市長)

梅原 克彦 (仙台市長)

大橋 健男 (松島町長)

高橋 一男 (平泉町長)

コーディネーター：田中 裕子 (フリーアナウンサー・

文化遺産広域観光連携プロジェクト委員)

### 【閉会】



共同アピール



待合ロビーでは平泉展を実施

## ⑤議事録

### 基調講演

#### 【内藤運輸局長】

ご紹介をいただきました、国土交通省東北運輸局長の内藤でございます。

はじめに今日お話する概要をお話いたします。まずは全般的な世界と日本の観光動向について、次に東北観光の現状と取り組み、そして今年度施行されました観光立国推進基本法、観光立国推進基本計画について、最後にこれからの取り組みの課題についてお話いたします。まず、世界と日本の観光動向についてです。

(これよりパワーポイントを使用しての説明)

データをご覧くださいますと、旅行者数は一貫して増加、特にアジアの伸びは顕著であることがおわかりになるかと思えます。特に北東アジアの伸びが顕著であります。これは中国本土からの海外旅行者です。中国は国内政策により日本・韓国・オーストラリアなどへの海外旅行が解禁され、また、経済の活性化による旅行熱の高まりなどがあります。

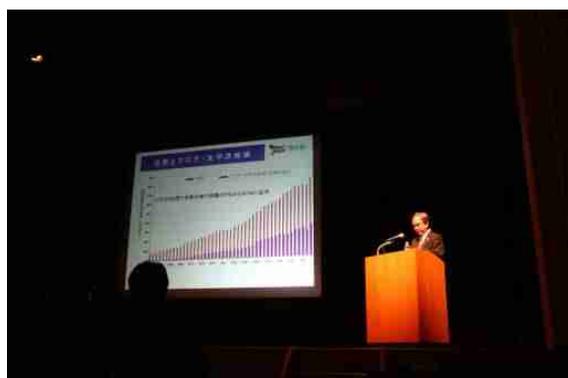
一方、日本と世界との関係についてですが、日本から海外へのアウトバウンドにおいては世界第15位、アジアの中で3位と健闘しております。しかし海外から日本へのインバウンドについては30位となっており、世界的に海外旅行者数が伸びているにもかかわらず、これを日本にうまく取り込めていないという現状があります。

来日観光客を国別に分けてみますと、やはり隣国の韓国・台湾・中国本土・香港等が多く、全体の4分の3弱、71.4%を占めています。次にアメリカとなります。このような状況を見ると、今後の観光戦略を考えるひとつのヒントが見えてきます。中文・ハングル、こういった観光客をターゲットにしていくことが戦略の1つであると感じています。

次に、東北観光の現状と取り組みについてお話します。東北観光の強みといえば松島や三陸海岸・白神山地などの「自然」、夏祭りをはじめとした「まつり」、「伝統文化や文化遺産」、「食の恵み」、そして南北に長い地理をいかした「四季の移ろい」というものが挙げられます。特に自然観光資源についてはすばらしく、(財)日本交通公社の分析によりますと、特に優れている特A級には白神山地などがあり、次に位置するA級と合わせた数は44と全国でも抜きんでており、東北の恵まれた観光資源の1つは「自然」であるといえます。

次に「温泉」についてですが、東北の温泉数は全国で1位、全国の約5分の1強の温泉があります。また、ウィンタースポーツに関してはスキー場数が全国2位となっています。

自然系観光資源に恵まれた東北ですが、しかしそのメリットが十分に活かされていないというのが現状です。日本観光協会の



調査によりますと、大阪・東京などの大都市圏の方を対象にした希望旅行先調査では、北海道・九州・沖縄といったところが上位に入り、それに比べると東北は水をあけられているといった状態です。

また、温泉が多いことも強みのひとつですが、行ってみたい温泉上位5位には東北の温泉が入っていないという点も今後勉強すべき点の一つではないでしょうか。国内旅行の宿泊先について見ますと、東北は9.1%となっており、外国客の訪問先を見ますとさらに低く4%にとどまっています。特に国内では箱根の関の先からはあまり来ていただけていないという状況であり、このようなことも今後の戦略のヒントになるのではないのでしょうか。

また、もうひとつ考えていただきたいことがあります。宿泊者数・入込者数の季節変動はウィンタースポーツの強みがあるにもかかわらず、冬に一気に落ち込むという状況があり、この季節をいかに盛り上げるかも課題となるでしょう。

次に、外国からの旅行者についての取り組みについてお話いたします。2003年より「VISIT JAPAN キャンペーン・YOKOSO! JAPAN 東北」を実施し、ファミトリップや商談会・講演会やパネルディスカッションなどを行っています。このような場においては招聘者から直接意見を聞いたりすることで、効率よく意見を得られ、大変有効であると感じています。また、マスコミを活用した事業として、海外において東北の番組を放映していただくなどし、反響が大きいです。

国土交通省が持っている「YOKOSO! JAPAN 東北」以外のメニューとして観光ルネッサンス事業があります。国内における整備について、酒田・平泉において国際競争力のある観光地づくりをテーマに、特に旅行者が多いアジアの方を対象とした案内表示やチラシ等の多言語化などを進めています。

また、ニューツーリズムと呼ばれるこれまであまり観光になじまなかったものの活用、具体にはグリーンツーリズムやヘルスツーリズムといったものにも取り組み、体験型・交流型の観光へも力を入れ、モニターツアーを秋田・花巻・喜多方の3箇所で開催しています。このようなニューツーリズムの展開により、他都市との差別化などによる地域活性などを期待しています。また、データベースの構築も行っております。

「観光」は第1次・2次産業に比べるとまだまだ認知されにくい分野ではあるが、国においては「観光」の重要性についてのコンセンサスが得られており、法律や基本計画策定につながっております。基本理念「住んでよし、訪れてよし」をもとにこの基本計画の特徴としては訪日外国人の数や観光旅行消費額などについて数値目標を出しているところにあります。消費額の伸びについてみますと、今後は余暇を楽しむ世代の増加により、宿泊旅行が増えることが予想されます。

最後にこれからの取り組みについてお話いたします。国においては法の整備が行われ、その具体的施策を実行していくための組織が必要であるとの観点から、「観光庁」の設置を進めています。東北地方においては、東北観光推進機構が設置され、東北6県+新潟で東北観光を推進しています。個々の魅力を超えた連携による成果を期待したい。

私どもでは、交通審議会の中に観光推進のための委員会をつくり、ここではブロックごと

に計画を策定し、理念整理などを行っています。

これまでお話した観光施策を進めていくためには、民間・自治体・国が三者一体となって進めていくことが大切であり、そのために私どもの省・支局もご活用下さい。また、2市2町の取り組みがサクセスストーリーとして発展することを期待し、私の話の締めくくりとさせていただきます。

## パネルディスカッション

**田 中**：近年、観光を取り巻く状況は厳しくなってきたが、そのようなことも踏まえて、今後の2市2町でどのように連携し、取り組んでいくかということについて、これまでの評価すべき点や課題について順にお話いただきたい。

**気仙沼市長**：この2市2町の取り組みというのはユニークなもの。それぞれの地域が特色を持っており、平泉は800年の藤原文化をどのようにしてこれから、世界・日本へ発信していくかという大切な局面を迎えている。松島は海洋に浮かぶ島々、伊達政宗の歴史、仙台は東北の中心としての役割を持っている。気仙沼は東北最大の島・大島や世界の3大漁場を持っており、カツオ等の海産物が多く上がる等、陸と洋上との繋がりというロマンを持っている。

今後の課題としては具体的目標を設定し、それに向かって連携して進めていくこと、また、直近の課題としては来年控えている平泉の世界遺産登録に向けて、この2市2町・東北でどのようにお客様を迎えるかということがあろう。

**仙台市長**：この2市2町の取り組みは2年前に気仙沼市長の呼びかけによって実現した。鈴木市長のリーダーシップに感謝する。また、リーダーシップについては、湯布院など国内で観光に成功した地域をみると、首長や役所がリーダーシップを取ったわけではなく、民間の熱心な方が引っ張っていった。この2市2町連携においては本日いらしている志賀さんがそのような役割を果たした。このような方が東北からどんどん出てくる必要がある。

また、連携によって、今は2市2町の取り組みだが、8・16・32と波及していくことを期待する。仙台が持っていない魅力を持っている地域と連携し、仙台はゲートウェイ・国際会議の開催などの役割を果たしていく。首長は必死にセールスマンをしていく。本日もこのあとドラゴン航空の社長とお会いする予定なので、2市2町の魅力を十分に伝えたい。

**平泉町長**：この2市2町の取り組みは平成17年から始まったが、そのときの共同宣言に参加した鈴木町長が昨年7月に急逝し、9月から私が町長をさせていただいている。先ほど、気仙沼市長が共同宣言を読み上げたとおり、一層この連携を深めていければと考えている。

この連携の評価すべき点については、地域を越えたまさに県境を越えた連携の重要性というものを改めて認識するとともに、より広範な地域との連携を進めていければと考えている。また、大きな変化として、住民の意識が変わったということがある。

世界遺産登録という要因もあったかと思うが、他地域との交流を通じて平泉がすべきことを自覚し、情報発信等に取り組むという姿勢が出てきた。また、課題については、平泉は東北観光の一角を担う町として、「史跡の中にまちがある」史跡と文化の町であり、他市町との連携

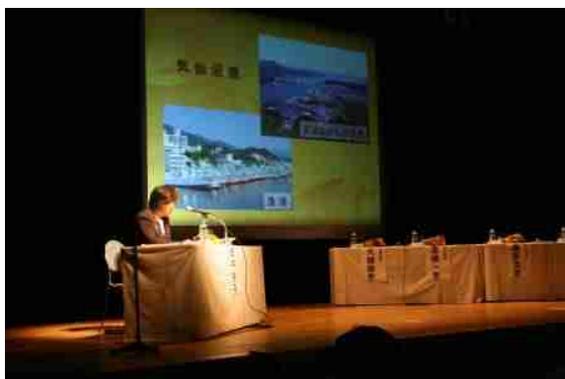


を深め、東北観光をより魅力あるものにしていければと考えている。

**松島町長：**松島は歴史・文化・自然などにおいて他に恥じることのない地域として日本三景の名をいただいているが、町自体は小さな町で、人口減少・高齢化などが進んでおり、観光を軸にして、交流人口を増やしていきたいと考えている。

2市2町連携についての評価だが、この取り組みは新しい切り口を開いてくれたと考えている。三陸の海の幸や景観を新たな切り口として進めていくことができるという点ではとても評価できる。また新たな人と人との繋がりというものもつくり、今後の発展の種になっていくという点も評価できる。課題については、この連携をさらに深めていくとともに、具体的な作業・技術的な部分を埋めていくということ。また、マスコミの皆さんとの連携によって、どんどん情報発信をしていくということ。また、これまでも行ってきたように、個々の地域の魅力にさらに磨きをかけていくということがこの4人のチームに課せられた課題なのではないかと思っている。

**田中：**4人の皆様からは、この2市2町の取り組みについて大変高い評価をいただいているということがわかった。先ほどから、この2市2町の取り組みが勝ち組になるように、サクセスストーリーになるようにとのお話があったが、それは全国他の地域でも同じことを目指し、取り組んでいると思われるが、その中でもこの2市2町、東北の観光が成功するためには具体的にどのような方策が考えられるのか。東北の中心としての仙台、スローフードの気仙沼、世界遺産の平泉、そして日本三景の松島、この4つが集まったときに足して4ではなく、少なくとも10以上になるために、どのようなことができるのか。どうぞ本音でお話いただきたい。先ほど運輸局長のお話で「右肩上がりの観光」というお話があったが、実際はどこに行っても一頃のような観光の賑わいはなく、さびしいものがある。また、これから東北は冬、寒い冬にどうやって人に来てもらうのか。また、少子化など観光を取り巻くさまざまな厳しい環境のなか、全国に先駆けて、この2市2町がどのような取り組みができるのかをお考えいただきたい。



**仙台市長：**ツールは3つ考えられる。「ロコミ」「マスコミ」「業界」。まず「ロコミ」。東北においてになった一般のお客様に帰ってから「よかった」と周りに言っていただけるようにということが大切。そして、差別するわけではないが、大きな影響力を持つVIPの方々へのアプローチというのも大変有効。今年の6月に台湾の李登輝前総統が来日された際、「松尾芭蕉奥の細道ツアー」をご案内した。そしてこの度、そのときの様子が本になり、台湾のマスコミでも取り上げられた。李登輝さんには「歩く広告塔になって下さい」とお願いをした。次に「マスコミ」。これは外国のメディアを使うこと。仙台・東北についてはタイの観光雑誌でどんどん宣伝し、その結果、平成17年のタイ人の宿泊者数に対し、平成18年は倍増した。お金はかかるが、それ以上のリ

ターンが期待できる。最後に「業界」。国分町では「伊達なママの会」というものが結成され、また、旅館の女将のみなさんの会等も結成されている。このような業界ごとのアプローチで個々のパイを食い合うのではなく、パイ全体として大きくなって、みんなでいい思いをしようという動きが東北でも始まっている。これらの「ロコミ」「マスコミ」「業界」がひとつとなって、より大きな力となって2倍、4倍と広がっていくと思う。

**松島町長**：先ほど、田中さんから「観光はなかなか厳しい」とあったが、私は長期的な目線で見ると観光は伸びていくと考えており、そのための戦略を考えていく必要があるのではないかと考えている。松島としては3点ほど述べさせていただきたい。まずは、「国際化の対応」。現実にも外国人の方にたくさんきていただいているので、それに対応していくかということ。観光ツールを取り揃えるなど、町長がトップに立って行なっていく必要がある。次に、これは松島特有の問題かもしれないが、松島は現代の観光スタイルにソフト面・ハード面どちらも少し乗り遅れているのではないかなと思う。社会が変わっていくなかで、新しい社会にどう対応していくかということが大切だと考えている。観光で成功しているまちを見ると、地域で頑張る人がいて、それにハード面・ソフト面がついていくという形が見られる。松島でも、町民を巻き込んだ形で巻き返しを図りたい。

**田中**：今はまだそのような動き、組織というのは見られないのか。

**松島町長**：ないことはないが、うまく機能しているかは疑問。また、パーツが有機的に繋がっていないという状態と思う。

町長の任期も残すところあと3年半、それまでになんとかしたい。それと、先ほど運輸局長のお話でもあったが、「ニューツーリズム」というものをうまく取り込むことで他を追い抜けるのではないかな。ただ、具体的な特効薬があればすでに使っているわけで、特効薬がない状況でどうやっていこうか、頑張りどころではないかなと思う。



**平泉町長**：平泉はおかげさまで来年、世界遺産登録ということで多くの観光客においでいただけると思っているが、ただ来ていただけるだけではなく、「また行ってみたい」と思っただけのような対応ができるかが課題。順調にいけば来年7月に正式登録だが、それを目前にできることは必ずやろうと草刈やゴミ拾いなどを行なっている。また、急激な観光客の増加が予想されるが、運輸局のご支援を受けながら、観光ルネッサンス事業として外国語対応HPの作成・外国語表示を併記した案内板・語り部タクシーなど多くの事業に関係者一丸となって取り組んでいる。また、平泉の非戦理念というものを大切に、いかに親切に対応し、訪れた観光客の皆さんに「また来たい」と思っただけのようなおもてなしができるようにしていく必要がある。そのような面においてもこの2市2町の連携で勉強させていただくことで、確実に観光客を増やし

ていけると考えている。

**田 中**：町民の人口の2倍にも3倍にもなる観光客が訪れるとなると、トイレ・水・宿泊等、さまざまな面においてまだまだ準備すべきことはたくさんある。また、史跡等は、そこにあるストーリーなどがわからなければただの田んぼ・丘などと見られてしまう。そうならないためには、そこにあるストーリーを住民の皆さんで語り、広めていくことが重要。

**平泉町長**：先日イコモスの調査の際、平泉の浄土思想はわかるが、その思想をそこに住む人々が本当に理解しているのかと言われた。そのあたりの思想を背景に素材をどう活かすかが課題。

**気仙沼市長**：世界遺産をたくさん回られたという田中さんにお伺いしたいが、平泉が世界遺産登録された場合、どれくらいの観光客が来ると思うか？

**田 中**：数は分からないが、予想以上にいらっしゃると思う。日本は島国であり、物価も高いと有名ですので、せっかく来たんだからと国内のほかの世界遺産も回るなどして、予想以上の観光客になるのではないか。

**気仙沼市長**：今年度は2市2町共同でガイドブックをつくることになったが、そうすると、あるまちへ行った観光客が別のまちへも行くというようなことが起こり、そのときの受入れ態勢をしっかりとっておかないといけない。また、せっかくこのような4者の組織があるので、相互に具体的に支援してほしいことをお願いし合い、協力し合うということが大切。たとえば、気仙沼の観光客数をあと



5万人増やしたいから、1万人分仙台市さんお願いしますよ、などという具体的なお願いをし合えばいい。また、運輸局長からもお話があったとおり、国策との連携も行なっていきたい。さらには、平泉の世界遺産登録や梅原市長の進めるアジアからの観光客の誘致等に備え、梅原市長主導でしっかりと体制を整えていくことが必要。

**田 中**：かなり具体的なお話がありましたが、梅原市長の考えは？

**仙台市長**：できる限りのことは協力したい。この場で決めてしまうとまた、独断専行と言われるが、ただ私は仙台のことだけを考えるのではなく、誰が市長であっても仙台は東北の中心として主導していく気構えが必要だと思う。実は先ほど清水常務とお話していたが、清水常務は「仕事が楽しくてしょうがない」と言っていた。清水さんはご本人も旅行や乗り物が好きな方で、好きなことをビジネスとしていて、しかもお客さんに喜んでもらえる、これは楽しい、とおっしゃっていた。みなさんも是非楽しく仕事していただきたい。また、仕事はチームプレー、チームで協力して勝つということで、連携してよかったなと思えるようにしたい。訪れてよい場所は住んでもよいということもあるので、基本的に行政が目指すところと観光が目指すところは同じだと思う。

**気仙沼市長**：2点ほど。まず九州のほうでは世界遺産へかなり手を上げているようだが、私たちのなかでも現在の2箇所だけでなく、仙台・気仙沼でも該当がないか調査しているんだということを出していく必要があると思う。また、陸海空の交通体系の整備が大切。たとえば、気仙沼から仙台空港までの移動をどうにかできないかとか、海を使って仙台―松島―気仙沼―平泉というルートが組めないかとか、空にしても、ヘリコプター等で点と点で移動できないか等という課題があると思うが、いかがか。

**田 中**：私はなんの権限もありませんので、いいなあとか考えているだけだが、コンピューター空港等いろいろな案もある。東北をひとつの地域として、捉えたときにその中心である仙台には東北全体を引っ張っていくんだという気構えを持っていただきたいと考えていたが、この2市2町の連携や仙台―山形の連携などは本当におもしろいと思うし、今日梅原市長から「仙台のことだけを考えているのではない」というお言葉があり、大変胸に染みた。このようなことを通じて、やがて東北がひとつとなって盛り上がっていければいいのではないかと思う。

今日は、私は一旅行者という立場で感覚的なお話しになったかもしれないが、これからの一番の課題は、どうやって一般市民を巻き込んでいくかということなのではないかと思っている。行政の4名がトップを走って、その下に住んでいる住民の方が住んでいるまちに誇りを持って磨きをかけていくことが大切なのではないかと思っている。それを私のまとめとさせていただきます。どうもありがとうございました。

## **(8) 気仙沼市ボランティアガイドの平泉視察研修の実施**

気仙沼市における平泉の観光ガイド能力の向上を目的として、「観光ボランティアガイド気仙沼」の会員 19 名が平泉町を訪問し、「古都ひらいずみガイドの会」のガイドを実際に受けながら、ガイドのポイント等について学習した。

【実施日】：平成 19 年 6 月 21 日（木）

## **(9) 首都圏の旅行エージェント等に対する観光プロモーションの実施**

JTBなど東京・横浜の6事業所を訪問し、「平泉—浄土思想を基調とする文化的景観」の世界遺産登録の関係を中心とした4都市の観光PRを行った。加えて、宮城、岩手のアンテナショップ（「宮城ふるさとプラザコ・コ宮城」、「いわて銀河プラザ」）の現状視察も行った。

【実施日】：平成 20 年 3 月 24 日（月）～3月 25 日（火）



旅行エージェントを訪問して観光PRを実施



「宮城ふるさとプラザコ・コ宮城」を視察

### 3. その他

#### (1) 2市2町観光連携ガイドブックの試作

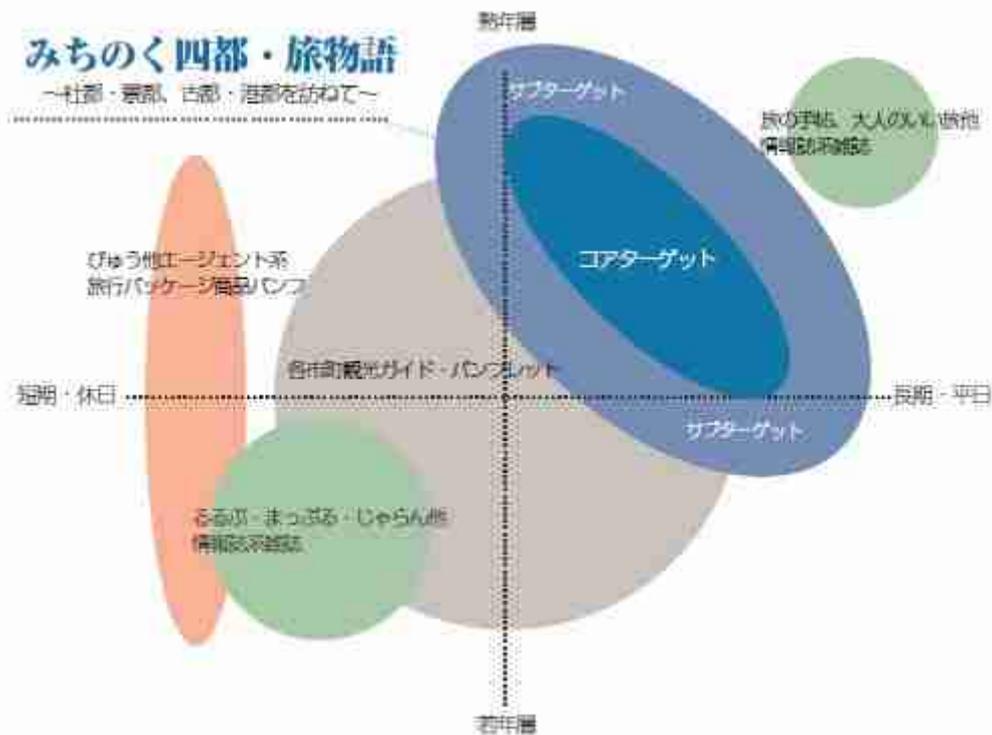
本調査では、域外からの2市2町への誘客を促し、観光キャンペーンやプロモーション活動を積極的に推進するため、紙媒体に対する観光客の情報入手ニーズが、依然として高いことから、2市2町広域観光連携ガイドブックの発行に向け、そのあり方を探る試作を行った。

##### ①ガイドブックのコンセプト

- それぞれの観光の強みである杜の都仙台、日本三景松島、古都平泉、港町気仙沼のイメージを強調したネーミングを設定し、ワクワク感や浪漫、旅情をかりたて、地域イメージの浸透と相乗的な魅力の醸成、価値観を創造する。
- 2市2町の魅力あふれる資源を有機的につなげ、補完しあい、広域的な連携エリアとして一体感と存在感の差別化を図り、交流人口の増加に資する2市2町の広域観光へ誘うストーリー性のある誘客型ガイドブックを目指す。

##### ②視点

- 各市町や観光協会、コンベンションビューローなどで作成発行されているガイドブックやパンフレット、エーエージェントが発行しているパッケージツアーパンフレット、更には「るぶ」などに代表される情報誌やフリーペーパーなどの他の媒体とは、ターゲットや編集内容で差別化を図る。
- 時間と財布に余裕のある熟年層をコアターゲットに、各地域が離れている立地特性を活かし、4つの都市の本物を訪ねる旅物語として作成し、旅行喚起を促す。

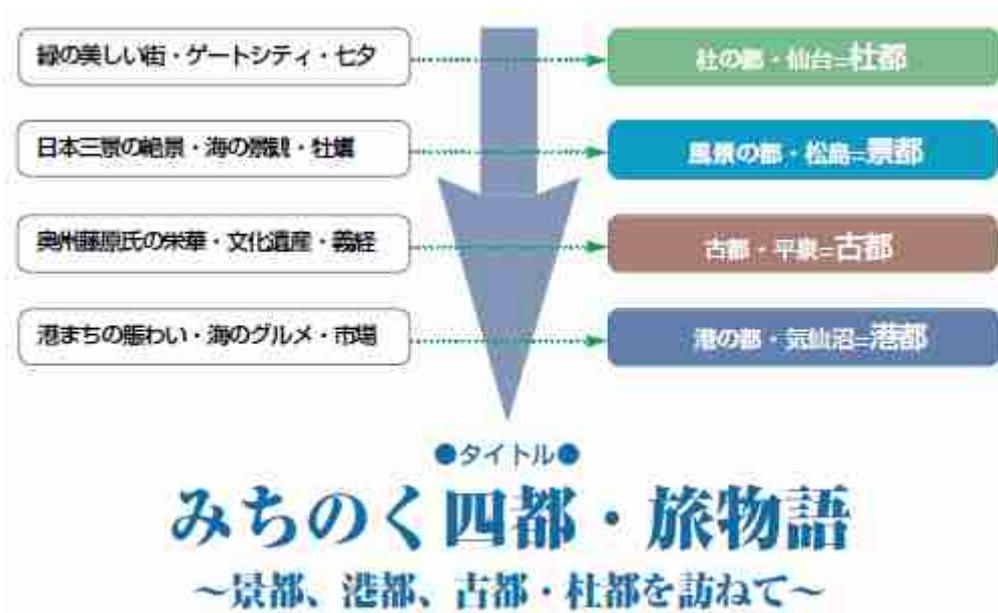


### ③利用イメージ

- 首都圏や関西圏（関係機関、アンテナショップ、観光プロモーションやキャンペーンなどのイベント）、2市2町の窓口、観光案内所、その他観光関連施設等での配布を前提とする。

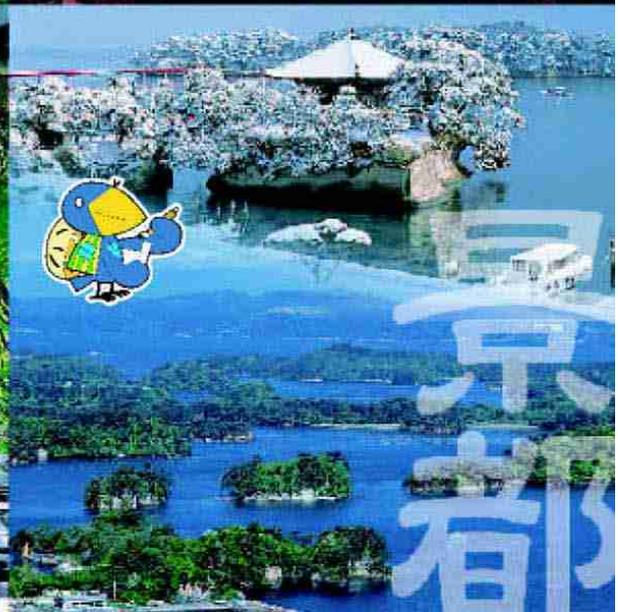
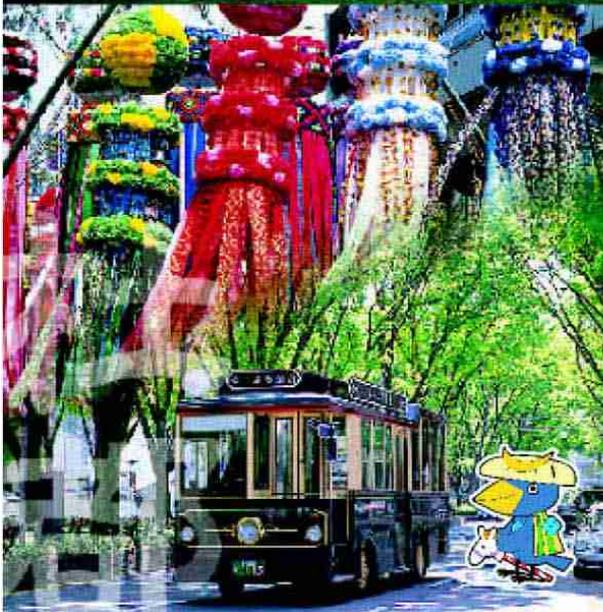
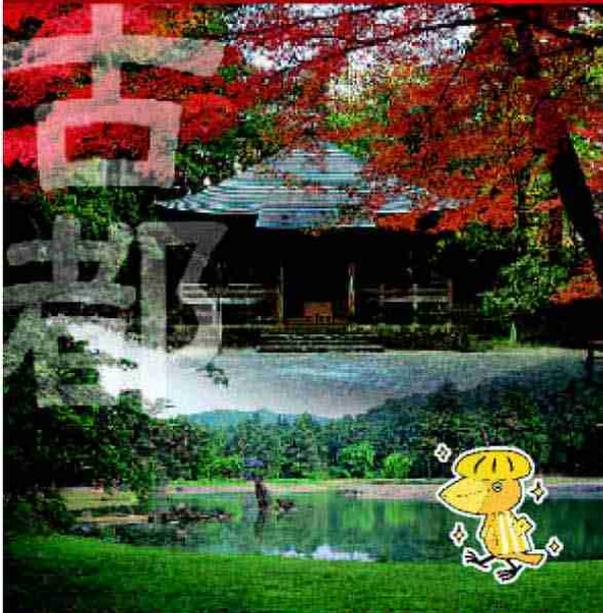
### ④内容のイメージ

- 地域ならではの情報をテーマ毎に提供。地域の人による魅力発信などで、より物語性のあるものとする。
- ガイドブックの基本情報であるマップやアクセスはもとより、2市2町の魅力や概要、テーマのある旅を、ターゲット層に向けて提供するとともに、着地型としても活用できるようなものとする。
- エージェントへの情報提供として観光施設などのデータも掲載する。



# みちのく 四都・旅物語

まつしま けせんぬま ひらいずみ せんだい  
景都、港都、古都、杜都を訪ねて





### 伊達な広域観光推進ガイドブックについて

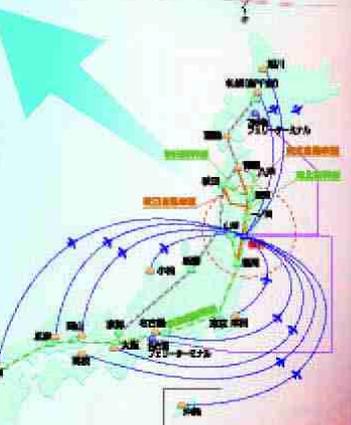
陸中海岸国立公園の南端に位置する気仙沼市、東北の中心都市でもあり交通アクセスが整備された仙台市、奥州藤原氏の文化を今に伝える世界遺産登録を目前に控えた平泉町、日本三景として知られる松島町の2市2町が持つ多彩で魅力ある観光資源をルートで結び、紹介したガイドブックです。国内屈指の観光スポットや美味しいもの、他に類を見ない伝統や文化など、みちのくにひとときをゆっくりとお楽しみいただく旅のプランづくりにお役立ていただき、ぜひお出でいただくことをお待ちしております。

**伊達な広域観光推進委員会**  
事務局  
宮城県気仙沼市産業部観光課  
〒985-8501  
宮城県気仙沼市八日町1-1  
TEL. 0226-22-3438



### 仙台への アクセス案内 ACCESS INFORMATION

※実際とは異なる場合があります。



#### JR

- 東京—仙台(東北新幹線).....約1時間36分
  - 名古屋—仙台(東北新幹線/東北新幹線).....約2時間12分
  - 大阪—仙台(東北新幹線/東北新幹線).....約4時間8分
  - 青森—仙台(東北新幹線/東北新幹線).....約2時間38分
  - 盛岡—仙台(東北新幹線).....約43分
  - 秋田—仙台(東北新幹線/東北新幹線).....約2時間7分
  - 山形—仙台(山形線).....約1時間0分
  - 福島—仙台(東北新幹線).....約24分
- (経路における最速列車の標準時間/乗込駅とも含みます)

#### 飛行機

- 札幌(新千歳)—仙台(ANA/SD).....約1時間10分
- 函館—仙台(エアポート)※乗り継ぎ必要.....約1時間
- 成田—仙台(ANA/SD).....約1時間10分
- 名古屋(中部)—仙台(ANA/SD).....約1時間10分
- 小松—仙台(ANA).....約1時間
- 大塚(伊丹)—仙台(ANA/SD).....約1時間10分
- 神戸—仙台(ANA).....約1時間15分
- 広島—仙台(ANA).....約1時間40分
- 福岡—仙台(ANA/SD).....約2時間30分

#### 高速道路

- 川口JCT—仙台宮城IC.....約332.4km
- 青森IC—仙台宮城IC.....約347.1km
- 盛岡IC—仙台宮城IC.....約179.7km
- 秋田南IC—仙台宮城IC.....約236.1km
- 山形鶴岡IC—仙台宮城IC.....約53.5km
- 福島飯沼IC—仙台宮城IC.....約67.5km

- 国内線航空
- JR線
- 新幹線
- フェリー航路



# みちのくに美味しく国、美しき都あり。 四都・旅物語へのプロローグ。

海が歌い、山が薫り、街がきらめく、みちのくには、心やすらぐ彩りと想像力をかきたてる風情があります。この豊饒の地で輝く四つの都、日本三景の一つ「景都・松島」、海の幸と港の活気あふれる「港都・気仙沼」、奥州藤原文化が栄えた「古都・平泉」、緑豊かな大都市「社都・仙台」。

魅力ある四つの都を巡りながら初めてふれるみちのくの奥深さ、にぎわい、ゆったりとした時の流れ、ずっと探していたのは、こんな旅のカタチだったのかもしれない。今、みちのく四都が新たな旅へと誘います。

**港都**

海の幸と浜の活気を満喫

**宮城県 気仙沼市**

人口64,678人(平成20年1月)、宮城県唯一のアラスカ産海苔と天然の塩産地を持つ日本有数の水産都市。JR一ノ宮駅から大船渡まで約1時間10分、JR仙台駅から気仙沼まで約1時間50分、東北自動車道一宮ICから約1時間20分、三陸自動車道気仙沼山ICから約1時間20分。

**古都**

奥州藤原氏の黄金文化を満喫

**岩手県 平泉町**

人口8,811人(平成20年1月)、岩手県南に位置し、平安末期、藤原氏が築いた仏教都市。出土品などの40以上の発掘と新発見とその文化の再現で、世界遺産候補を目指している。JR一ノ宮駅から東北本線で約8分、東北自動車道平泉ICから約10分。

**景都**

静寂を感了した日本三景の地

**宮城県 松島町**

人口15,838人(平成20年1月)、宮城県最大の島に大小400余の島が浮かび、その絶景は日本三景の一つ。伊藤忠商事の歴史の遺産も多く、国際リゾートとしての顔も持つ。JR仙台駅から東北本線、松島線で約25分、東北自動車道大船ICから約30分、三陸自動車道松島町ICから約35分。

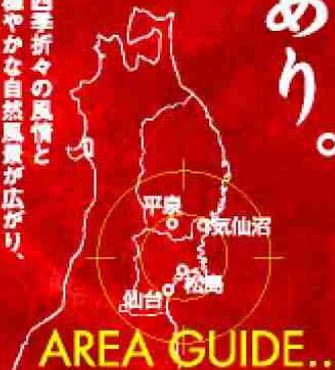
**社都**

歴史をめぐり東北の魅力を満喫

**宮城県 仙台市**

人口1,028,558人(平成20年1月)、東北地方最大の都市で、利根川と奥州街道の源流を併せ持つ。歴史や政治の中心が今も息づく文化、スポーツの発信地。東京駅から東北新線で約1時間40分、東北自動車道仙台宮城ICから約5分。

四季折々の風情と種やかな自然風景が広がり、独創的な歴史や文化が息づく国内屈指の観光エリア「みちのく四都」。



その形まれた環境にあり、国内でも屈指の人氣観光スポットと多彩な味わいが楽しめる「松島」気仙沼「豆蔵」仙台「それぞれの魅力」に注目し、それぞれをめぐると「みちのく四都」旅物語。

その昔、西行や松尾芭蕉が訪ね、日本三景の一つに数えられる「景都・松島」、港まちの活気と浪漫、海の幸を去らぬ味わえる「港都・気仙沼」、平安時代、奥州藤原文化が花開き、2008年の世界遺産登録を目指す「古都・平泉」、新幹線、航空路、高速道路のアクセスに優れたゲートシティでもあり、伊藤忠氏の文化が香る緑ゆたかな東北最大の都市、温泉やプロスポーツが楽しめる「社都・仙台」。

四つの都は様々なアクセスで行き来できる。ほどよい距離も魅力の一つ。じっくりとこのエリアをのんびり歩くことで、美味、自然、歴史、文化、旅の楽しみを贅沢に堪能し、新たな発見や出会いにも期待が高まります。



七夕まつり、光のページェント、プロスポーツ：街のにぎわいと緑のきらめきが好奇心を刺激する。

二度は住んでみたい街。仙台がそういわれるのは、アクセス抜群の東北一の大都市でありながら、どこか穏やかで清々しい、緑に彩られた街並のせいでしょうか。杜の都という名を象徴するかのようには、街中にはケヤキ並木が連なる定禅寺通、青葉通といった大通りがあり、七夕まつりや光のページェント、定禅寺ストリートジャズフェスティバルなど、四季折々のイベントでにぎわいを見せます。最近では四つのプロスポーツの本拠地としても注目的。海にも山にも近く、素材を活かした伝統の味、仙台発祥の名物といった美味しいものもいっぱい。旅ゴコロを刺激する要素があれこれ揃ったこの街だから、大人のワクワクにも応えてくれる旅がきつとできるはず。



奥州藤原氏が平和を折って築いた黄金文化と自然の見事なまでの調和。歌枕に詠んだ風景をそぞろ歩く。

岩手県南端、みちのくの古都平泉。平安時代末期、およそ一世紀にわたり花開いた平泉文化には、奥州藤原氏の平和への折りが込められていました。華麗な黄金文化の象徴である中尊寺の金色堂、板築幹工を表した庭園のある毛摩寺など、河辺の自然と調和して継承されてきた景観は、多くの人を惹きつけてやみません。また、現存する建造物のみならず、その歴史背景や失われた建造物の空間構成も含めて世界的に高く評価され、浄土思想を基調とする文化的景観として、2018年の世界遺産登録を目指しています。かつては源義経が駆け抜け、西行や芭蕉が歌枕にも詠んだ平泉。ゆつくりとそぞろ歩きながら、杜大な歴史遺産の世界に浸ってみましょう。



BENDAI

# 仙台



**仙台発祥の美味しいもの**  
 仙台発祥の美味しいものといえば牛たん。専門店も多数あり、味付けした牛たんの炭火焼に味噌、テールスープのセットが定番。土産用の加工品も種類が豊富です。また、冷やし中華も仙台生まれ。1937年に考案された冷やし中華がルーツで、夏だけでなく一年中食べられる店が数多くあります。

HIRAIZUMI

# 平泉



**日本屈指のお餅の里**  
 平泉を含む岩手県南地方は、餅料理の多さから日本一のお餅の里といわれるところ。祝儀・不祝儀の場でも餅をふるまうことが多く、店のメニューには餅のコース料理ともいえる餅本膳や餅バイキングも登場。地産の餅米・コガネモチを使った粘り気の強い餅とバラエティーに富んだ具材の取り合わせを楽しんで。



芭蕉も言葉を失ったという  
絶景を海から山から  
眺める幸福感。  
紀行文を綴るように歩きたい。

旅の  
あしなず



天橋立、宮島と並ぶ日本三景の一つである松島。松島湾には大小260余の島々が浮かび、松の緑と白い岩肌が見事な景観を描いています。その素晴らしさは、元禄2年(1685)にこの地を訪れた松尾芭蕉さえも絶句したと伝わるほど。特に湾の東西南北の山から眺める松島は「四大眼」と呼ばれる絶景で、島々の台間を渡る遊覧船からの眺めと甲乙つけがたい美しさです。奥州唯一の禅寺・瑞巖寺、松島海岸のシンボル・五大堂など、歴史の息吹を感じる場所もゆつくり歩けるエリアに点在。海の風を感じながら俳聖の足跡をたどる旅で、しみじみとした幸福感を味わいましょう。

港まちの活気と浪漫にふれる旅。  
豊かな海の恵みを見て、食べて、遊んで、たっぷりと味わいたい。

フカヒレ  
取がらず



風光明媚なリアス式海岸と、その向こうに広がる世界屈指の漁場三陸湾。気仙沼は海の恵みを存分に堪能できる港まちです。マグロ、カツオ、サンマ、フカヒレがとれるサメなど、次々と水揚げされる浜は活気にあふれ、新鮮な海の幸をお腹いっぱい食べて、お土産もどっさり買って、旅の期待も一気に高まります。気仙沼湾に浮かぶ大島ではクルージングや海水浴、釣りなどの体験を通してリゾート気分を満喫できますし、磨桑半島では次々と現れる自然の造形美に驚かされることでしょう。五感フルに使って海の魅力を体験できる旅。気仙沼ならそんな休日が実現できます。

KESENNUMA

## 気仙沼



日本唯一の  
スローフード都市

スローフード都市宣言をした気仙沼では、地域の財産である風土と食文化を守り、次世代へ伝えることを目指しています。その土地でとれたものを、その土地に伝わる調理法でいただく土産品法もその一つ。フカヒレやモウカの水シなど、珍しい料理との出会いが、旅をさらに豊かなものにしてくれます。



MATSUSHIMA

## 松島



カキといえは  
松島!

生産量全国2位を誇る高橋のカキ。松島では、養殖イカダからとったばかりのカキが食べ放題という季節限定の食事処や、松島かき祭り、カキ鍋を味わうクルージングなど、カキを堪能できる楽しいプランがいろいろキエツと目の詰まった濃厚なカキを思う存分味わってください。



## 第6章 今後の取り組みに向けて

国は、地球的規模での大交流時代の到来を迎え、観光を21世紀における重要な政策の柱として明確に位置づけ、魅力ある観光地づくりと国際・国内観光の振興を推進し、観光立国（住んでよし、訪れてよしの国づくり）を実現するため、平成19年1月に「観光立国推進基本法」を制定、同年6月には「観光立国推進基本計画」を策定した。さらに、平成20年10月には、国土交通省観光関連部局を統合した「観光庁」を設置する予定であり、観光行政の取り組みはさらに強化され、各省庁との連携も活発になり、内閣が一体となった観光立国実現への体制が整えられることになる。

具体的には、「観光立国推進基本計画」において国際競争力の高い魅力ある観光地の形成を図るため、豊かな観光資源を有する地域を、一定の広がりをもった「観光圏」として整備することとしている。

本プロジェクトの最終目的は、調査、計画の立案にとどまらず、観光面で力を備えた2市2町が互いの資源を理解し合い、共通インフラの整備や既存ストックの見直し、旅行商品の企画、キャンペーンの展開等を行い、それぞれの地域の観光力の強化につとめるとともに、地域全体で観光需要を喚起しようというものである。

これまで2市2町は、観光振興においてそれぞれの資源活用等を通じて役割を果たし、また影響力を発揮してきたが、この地域は東北において拠点・起点としての特性を備えており、今後の東北観光を振興するうえで極めて重要な立地条件にあるといえる。

したがって、県境を越えた2市2町の先進的な取り組みを、実効性のある施策として積み重ねるとともに、さらに東北観光を牽引する役割を担う取り組みへと進化させていくことが求められる。

こうした中、東北においては、平泉の文化遺産の世界遺産登録を目前に控え、さらに仙台・宮城デスティネーションキャンペーンの開催等、国内外からの観光客誘致に大きな弾みとなる動きがあり、東北観光は大きく飛躍するチャンスを迎えることになる。したがって、東北全体の観光振興のために、2市2町がこれまで培ってきた広域観光連携の実績を基本として、観光ネットワークを“点のつながり”から“面的な広がり”へ拡大し、観光振興に向け、さらなる発展につながることを期待するものである。

## 資料

## 1. 実行委員会の開催状況

	開催日	場所	議題
<b>平成 18 年度</b>			
第1回	平成 18 年 7月6日	セントレ 東北	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査事業の概要・スケジュールについて</li> <li>2市2町の観光振興の現状について</li> </ul>
第2回	平成 19 年 2月2日	雲仙観光 ホテル	<ul style="list-style-type: none"> <li>2市2町の観光の特徴</li> <li>2市2町の観光における強みと弱みについて</li> <li>観光モニター体験調査結果について</li> <li>2市2町連携の協議状況について</li> <li>先進地視察から2市2町が学ぶこと</li> <li>具体的な観光連携策のメニューについて</li> </ul>
第3回	3月4日	平泉町役場	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の活動結果について</li> <li>次年度の活動予定について</li> </ul>
<b>平成 19 年度</b>			
第4回	平成 19 年 7月10日	松島町役場	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度の活動について</li> <li>幹事会での検討内容について</li> </ul>
第5回	11月21日	仙台市 福祉プラザ	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な連携メニューの進捗状況について</li> <li>メニュー実施に向けた推進体制について</li> <li>シンポジウム、共同アピールについて</li> </ul>
第6回	平成 20 年 3月26日	セントレ 東北	<ul style="list-style-type: none"> <li>2市2町広域観光連携施策の具体的なメニューについて</li> </ul>

## 2. 幹事会の開催状況

	開催日	場所	議題
<b>平成 18 年度</b>			
第1回	平成 18 年 7月6日	セントレ 東北	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光連携の基本的な考え方について</li> <li>観光情報発信の連携の方策について</li> <li>2市2町の現地ヒアリングのスケジュールについて</li> </ul>
第2回	9月1日	仙台市役所	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域観光連携シンポジウムの進め方について</li> <li>仙台市役所1階「2市2町情報発信コーナー」の活用について</li> </ul>
第3回	10月6日	仙台市役所	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域観光連携シンポジウムの進め方について</li> <li>現地調査を踏まえた課題整理と今後の活動展開について</li> </ul>
第4回	11月7日	仙台市役所	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題整理と今後の活動について</li> </ul>
第5回	12月19日	松島町	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題整理と今後の活動について</li> </ul>

第6回	平成19年 1月23日	仙台市役所	・ 課題整理と今後の活動について
<b>平成19年度</b>			
第7回	平成19年 7月6日	仙台市役所	具体的メニュー、スケジュールについて 推進組織の規約案について
第8回	10月1日	仙台市役所	伊達な広域観光推進委員会設立総会について シンポジウムの開催について ガイドブック作成について 今後のスケジュールについて
第9回	11月7日	仙台市役所 上杉分庁舎	伊達な広域観光推進委員会設立総会について
第10回	11月14日	仙台市役所 仙台市福祉 プラザ	シンポジウム開催について 会場での詳細打合せ
第11回	11月30日	仙台市役所	シンポジウムの開催状況 今後のスケジュール ガイドブック作成について
第12回	12月13日	仙台市役所	ガイドブック作成に係る業者説明会 仙台空港施設見学会についてなど
第13回	12月21日	仙台空港 ターミナル ビル	仙台空港施設見学会 仙台空港へのパンフレット配置について
第14回	平成20年 1月11日	気仙沼市 地域交流セ ンター	ガイドブック委託業者選考 仙台空港施設見学の総括 新協議会設立について 今後の事業スケジュール
第15回	2月29日	東北産業 活性化 センター	ガイドブックについて
第16回	3月26日	仙台市役所	新協議会設立について